

**新しい公共交通検討事業
調 査 報 告 書
(那覇空港直行バス路線実証実験計画策定)**

平成26年3月

沖縄県 糸満市

目次

1. はじめに	1
1－1. 調査の背景と目的	1
1－2. 業務内容	2
2. 糸満市の公共交通及び観光の現状	3
2－1. 糸満市～那覇空港直行バスに関連する現状	3
(1) 上位計画から見た課題	3
(2) 公共交通のネットワーク形成に向けた課題	4
(3) 市民ニーズ等から見た課題	4
2－2. 観光の動向	7
(1) 観光客数の推移及び構成	7
(2) 交通手段	8
(3) 各エリアを訪れた日程	9
(4) 外国人観光客のニーズ	10
3. 利用者及び関係機関に対する意向調査	11
3－1. 調査概要	11
(1) 調査の目的	11
(2) 調査の方法及び回収率等	12
3－2. 調査結果	18
(1) 市民アンケート（沿道地区）	18
(2) 観光客アンケート	19
(3) 関係者ヒアリング	21
3－3. 住民アンケート（沿道地区）	24
3－4. 観光客アンケート	28
4. 運行計画	42
4－1. 利用者像（ターゲット）	42
4－2. 運行計画	43
(1) 運行ルート設定の考え方	43
(2) バス停位置	45
(3) 運行日	62
(4) 運行間隔及び運行時間帯	63
(5) 料金	65
(6) 車両	66
(7) 既存路線への影響	66
4－3. 利用促進策	69
(1) 観光地滞在の魅力づくり	69
(2) 観光交通の利便性の向上	69
(3) 広報活動	70
(4) 他事業との連携	71
(5) その他	71

5. 事業収支	72
5-1. 実証実験運行経費の試算	72
5-2. 需要予測	73
(1) 需要予測の概要	73
(2) 沖縄県内及び県外観光客	76
(3) 外国人観光客の需要予測	79
(4) 沿道住民の需要予測	82
5-3. 事業収支の試算	86
(1) 事業収支の試算条件	86
(2) 運行経費	86
(3) 運賃収入	86
(4) 事業収支	87
6. 成果指標・見直し基準（案）	88
6-1. 成果指標（案）	88
(1) 速達性の向上	90
(2) 利用者数の増加	91
(3) 新規利用者の拡大	92
6-2. 本格運行時における見直し基準（案）	94
(1) 評価の必要性	94
(2) 評価指標	94
(3) 路選別の事業収支の評価	95
(4) 波及効果の評価	96
(5) 事業収支と波及効果による評価	97
7. 実証実験に向けて	98
7-1. 事業スキーム	98
7-2. 事業スケジュール	99
8. 参考資料	100
8-1. 仕様書（案）	100
8-2. 事例調査	108
(1) 県内事例	108
(2) 県外事例	118
8-3. ヒアリング調査記録	112
8-4. 現在の路線バス運賃について	159
8-5. 申請書類等	160
8-6. リーフレット（案）	177
8-7. 糸満市那覇空港直行バス路線実証実験検討委員会及び幹事会	180
(1) 糸満市那覇空港直行バス路線実証実験検討委員会 設置要領	180
(2) 糸満市那覇空港直行バス路線実証実験幹事会 設置要領	183
(3) 会議一覧	184

1. はじめに

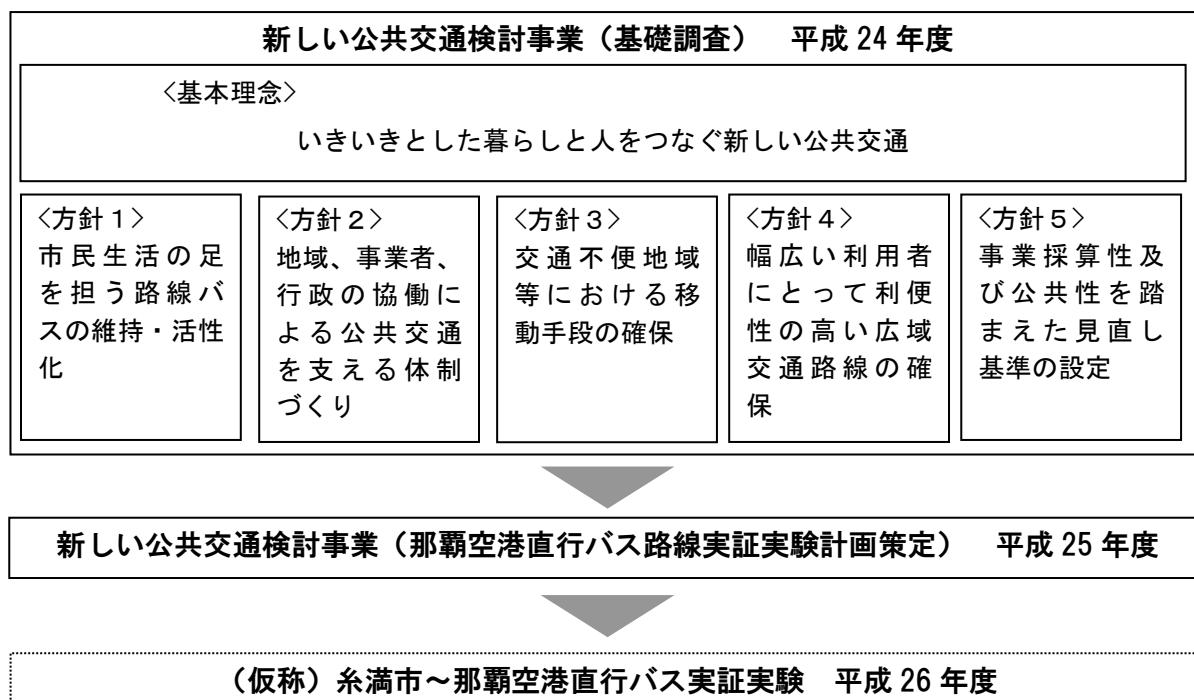
1-1. 調査の背景と目的

糸満市では、観光資源を有する地域（ムラ）において公共交通手段の確保が課題となっており、糸満市全体を博物館と見立てた「糸満市まるごと博物館事業」を具体化させるため、平成24年度は新たな公共交通の可能性・方向性を示すこととあわせて、今後予定している実証実験に向けた基礎調査を行った。

本市の公共交通は、国道331号バイパスの開通により那覇空港や那覇市への交通アクセスが飛躍的に向上したが、バス路線がバイパスを経由しないなど、十分にメリットを得られていない。また、市内には沖縄県を代表する観光資源や大型宿泊施設がありながら公共交通との連動が弱く、公共交通利用を希望する観光客のニーズに対応できていない状況にある。

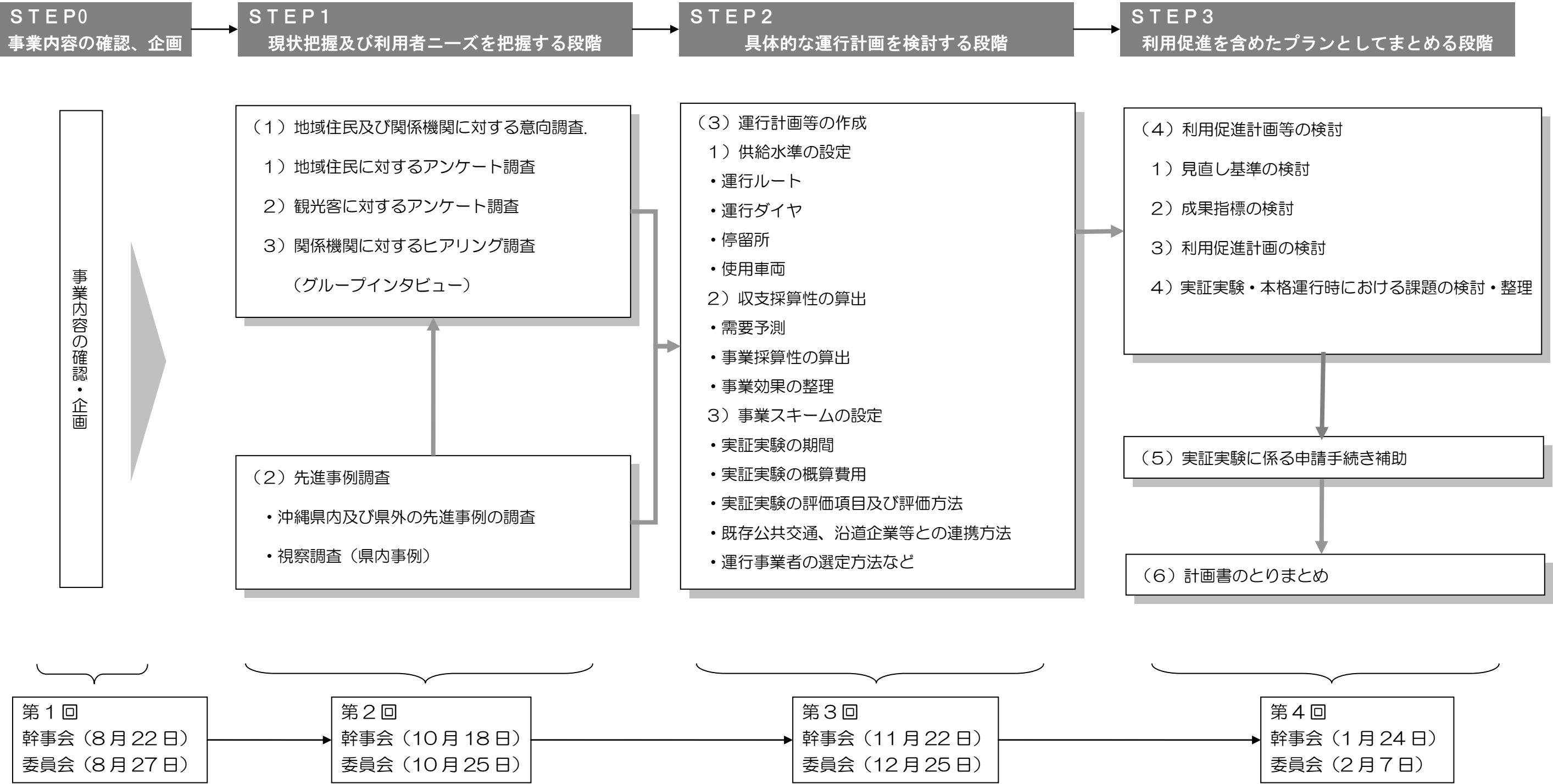
そのため、地域公共交通の再編・見直しにあたっては、先行的に地域の骨格となる公共交通として、那覇空港から大型宿泊施設や観光地を経由するバス路線（以下、「糸満市～那覇空港直行バス」）を構築し、段階的に公共交通の空白地域の解消や不採算路線の見直し等に取り組むこととした。糸満市～那覇空港直行バスの構築により、本県観光に訪れるリピーター層の希望するバス移動の手段が確保され、観光施策の充実につながることを期待される。

以上を踏まえ、本業務は糸満市～那覇空港直行バスの実証実験に向けて、沿道住民や観光客の利用意向を問うアンケート調査や、主要な観光施設・商業施設等に対して、実証実験バスとの連携・協働可能性等に関するヒアリング調査を行い、実証実験や本格運行を見据えた実証実験バス運行計画案について検討することを目的とする。



1-2. 業務内容

本事業では、以下に示す調査・検討を行い、「糸満市～那覇空港直行バス路線運行計画」を策定する。
なお、STEP1 現況把握及び利用者ニーズを把握する段階、STEP2 具体的な運行計画を検討する段階、STEP3 利用促進を含めプランとしてまとめる段階、の3つのステップで検討を進めた。



2. 糸満市の公共交通及び観光の現状

2-1. 糸満市～那覇空港直行バスに関連する現状

(平成 24 年度 新しい公共交通検討事業調査報告書より抜粋)

(1) 上位計画から見た課題

糸満市外からの観光としては、ひめゆりの塔や平和祈念公園等の沖縄県を代表する観光資源を有しながら、観光宿泊拠点の那覇市に近いとの地理的条件から素通り観光となっていた。近年は、糸満市内のリゾートホテル建設や広域幹線道路の南部地域への延伸、国道 331 号バイパスの建設等から、糸満市を宿泊拠点とした観光が期待される状況にある。観光客等の利便性を向上させるため、沖縄県総合交通体系基本計画に示される、沖縄県南部地域の観光地等を連携する新たな公共交通の整備が必要である。

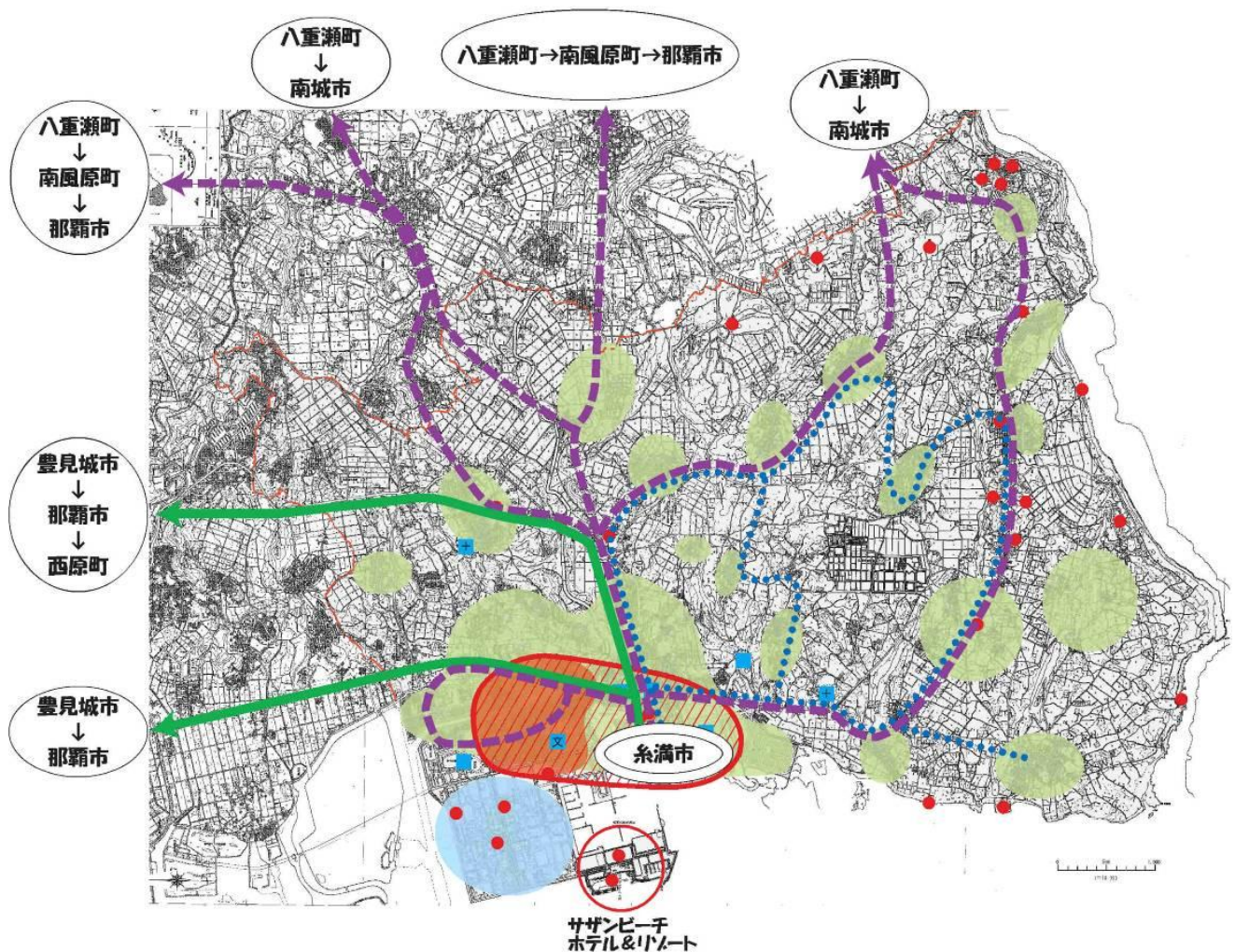


図 5-5 沖縄本島における観光拠点へのアクセス交通網（公共交通）の強化

資料：沖縄県総合交通体系基本計画 平成 24 年 6 月 (沖縄県)

各バス路線は、主要な公共公益施設が集中している字糸満市街地を通るようになっているが、西崎町等の新市街地とのアクセス性が十分ではないため、結びつきを強化する必要がある。

図. 路線バスのネットワーク

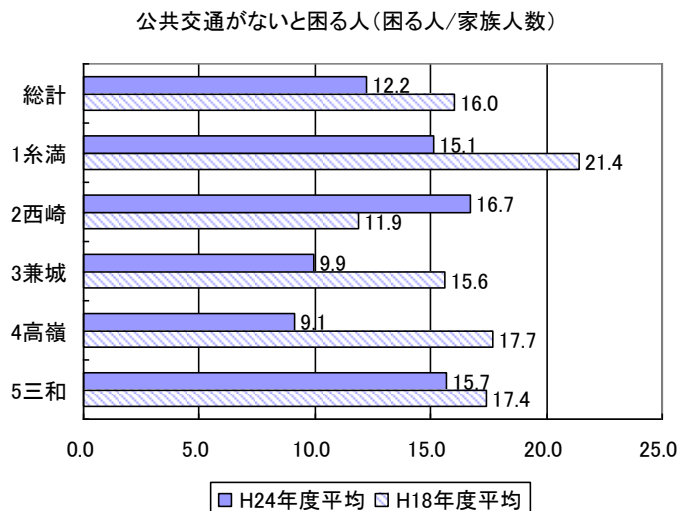


凡例

 幹線系
  市街地
  住宅地
  公共施設
 準幹線系
  新市街地
  工業地
  観光地
 支線系

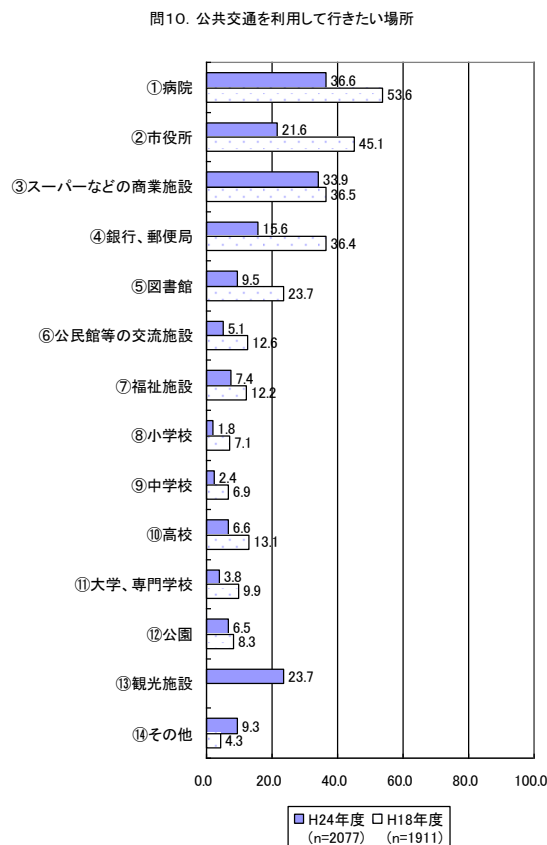
(3) 市民ニーズ等から見た課題

「公共交通がないと困る人」は、西崎地区が 16.7%と最も高い。次いで「三和地区」が 15.7%、「糸満地区」が 15.1%となっている。また、「西崎地区」は、H18 年度調査と比べ「公共交通がないと困る」と回答している人が 4.8%増加している。



公共交通を利用して行きたい場所は、「病院」が 36.6%と最も多く、「スーパーなどの商業施設」33.9%、「観光施設」23.7%と続いている。

「病院」は各施設送迎バスにより、交通手段は一定確保されている。今後、路線バスルートの変更などにより「商業施設」や「観光施設」を経由する公共交通が望まれている。



整備方針図（案）

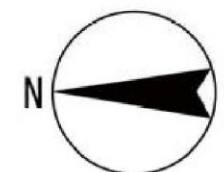
凡 例

高齢化率



平成 24 年 3 月末現在の年齢別
人口による高齢者率

公共交通



(仮称) 糸満市公共交通活性化会議の設置

住民の移動手段である公共交通を維持するため、事業者と行政だけではなく、利用者の住民、地域の企業等が連携し、地域の実情に合致した公共交通を作り上げる継続的な会議の場として（仮称）糸満市公共交通活性化会議の設置

見直し基準の設定

低利用の状態が続く路線については、地域全体の効率的輸送の観点から見直しの目安となる基準を設定。

交通不便地域等における移動手段の確保

地域が主体となって、交通事業者・行政等が相互に連携。地域特性に応じた運行形態を工夫をした交通サービスの地域公共交通サービスの導入。

地区拠点の整備

空港へのアクセス整備

沖縄県総合交通体系基本計画に基づき、観光客の玄関口である那覇空港から、道の駅等の観光拠点を経由し糸満市内を結ぶバス路線を整備。南部の観光資源との連絡強化とともに、糸満市を宿泊拠点とする観光をサポート。

地区拠点の整備

乗換拠点の整備

交通不便地域等における移動手段の確保

地域が主体となって、交通事業者・行政等が相互に連携。地域特性に応じた運行形態を工夫をした交通サービスの地域公共交通サービスの導入。

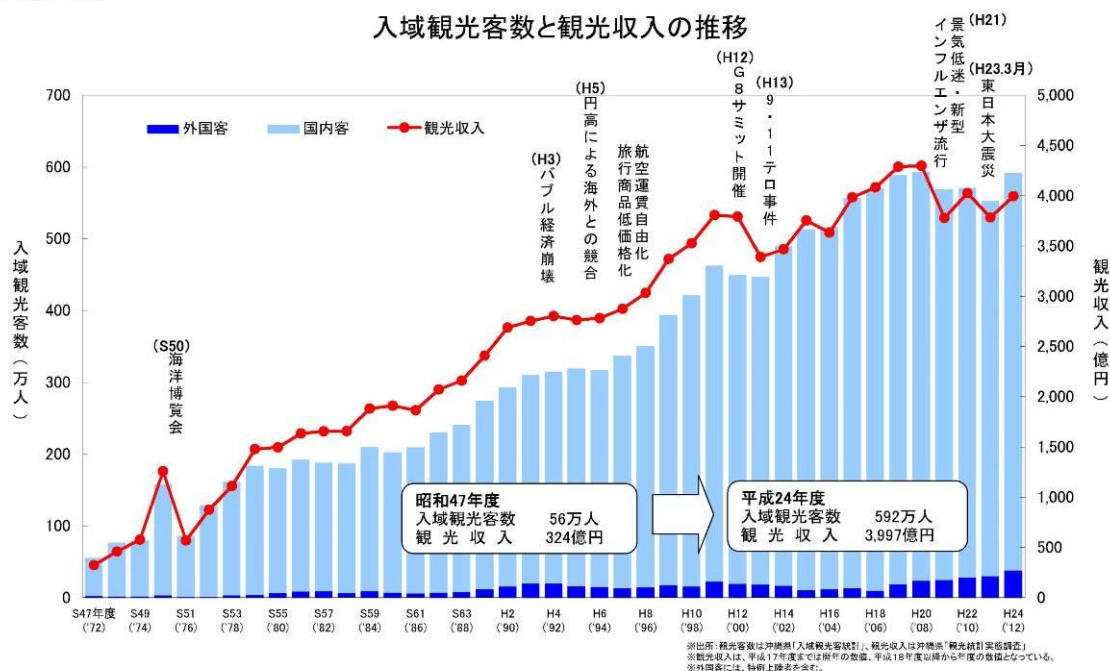
2-2. 観光の動向

(1) 観光客数の推移及び構成

沖縄県の観光客数は、平成20年の5,934,300人をピークに減少傾向にあったが、平成24年度は5,924,700人と回復傾向にある。

観光客のうち、国内観光客が5,542,200人(93.5%)、外国人観光客が382,500人(6.5%)である。外国人観光客は、「台湾」が39%と最も多く、次いで「中国本土」及び「香港」が15%、「韓国」が12%である。

1 沖縄観光の推移 (1) 概況(年度)



【年度】入域状況

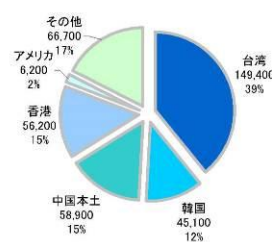
最近5年間の入域観光客数の動向

	入域観光客数		国内客		外国人客	
	人数(人)	対前年度比	人数(人)	対前年度比	人数(人)	対前年度比
H20年度	5,934,300	+0.7%	5,697,300	△0.1%	237,000	+25.5%
H21年度	5,690,000	△4.1%	5,443,800	△4.4%	246,200	+3.9%
H22年度	5,705,300	+0.3%	5,422,500	△0.4%	282,800	+14.9%
H23年度	5,528,000	△3.1%	5,226,600	△3.6%	301,400	+6.6%
H24年度	5,924,700	+7.2%	5,542,200	+6.0%	382,500	+26.9%

【年度】国籍別入域状況(海外)

区分	H24年度	H23年度	増減数	増減率	構成比
台湾	149,400 人	115,600 人	+ 33,800 人	+ 29.2%	39.1%
韓国	45,100 人	26,000 人	+ 19,100 人	+ 73.5%	11.8%
中国本土	58,900 人	44,500 人	+ 14,400 人	+ 32.4%	15.4%
香港	56,200 人	54,700 人	+ 1,500 人	+ 2.7%	14.7%
アメリカ	6,200 人	6,500 人	△ 300 人	△ 4.6%	1.6%
その他	66,700 人	54,100 人	+ 12,600 人	+ 23.3%	17.4%
合計	382,500 人	301,400 人	+ 81,100 人	+ 26.9%	100.0%

国内客 構成比 【平成24年度】 外国人客 構成比



資料：平成24年観光要覧 平成25年9月 (沖縄県)

(2) 交通手段

沖縄県観光客の路線バス利用率は「全体」で 5.1%と低い水準にある。また、訪問回数が増えるにしたがって、路線バスの利用率は増加傾向にある。

外国人観光客の路線バス利用率は、「全体」で 13.2%と国内観光客の路線バス利用率と比較すると高い傾向にある。

▼沖縄県観光の交通手段

図表 4-7 「観光地めぐり」の旅行内容（来訪回数別、複数回答）

	(%)							
	初めて	2回目	3回目	4回目	5～9回目	10～19回目	20回目以上	全体
交通 路線バス	5.3	2.6	3.8	5.6	7.6	8.4	10.3	5.1
機関 観光バス	38.1	37.1	31.9	23.2	19.8	15.1	10.3	30.7
タクシー	24.4	22.8	25.1	24.7	27.4	36.1	35.3	25.6
モノレール	24.2	17.0	16.7	17.7	19.8	21.8	27.9	20.1
レンタカー	58.0	56.9	64.3	67.7	69.5	64.7	67.6	62.0
自家用車・公用車	0.6	1.9	1.5	2.5	1.7	4.2	5.9	1.7
航空機(県内)	9.3	15.5	21.3	21.7	18.6	15.1	22.1	15.8
船(県内)	7.3	11.6	17.0	19.2	16.4	14.3	17.6	12.9
自転車	1.2	2.8	6.1	7.1	6.2	5.9	10.3	4.1
その他	0.3	1.7	1.2	1.0	2.5	3.4	4.4	1.5
合計	168.6	170.0	188.9	190.4	189.5	189.1	211.8	179.5

資料：平成 23 年度観光統計実態調査 平成 24 年 7 月（沖縄県）

▼外国人観光客の交通手段（空路調査）

	全国籍 (2327)	中国 (468)	マルチビザ有 (227)	マルチビザ無 (207)	台湾 (657)	香港 (614)	韓国 (365)	米国 (48)	その他 (175)
貸切バス	45.4	52.6	40.1	66.2	60.6	41.0	29.9	8.3	27.4
モノレール	34.8	31.0	35.7	27.1	37.4	39.3	30.1	18.8	33.7
レンタカー	28.4	9.6	11.0	7.2	20.1	41.4	47.9	8.3	29.7
一般タクシー	24.5	48.5	53.3	44.4	14.3	18.1	16.4	33.3	34.9
路線バス	13.2	20.7	25.1	17.4	10.7	11.2	7.1	18.8	21.1
定期観光バス	6.5	10.9	13.7	8.7	4.1	6.5	7.1	0.0	4.0
友人・親類の車	5.1	2.6	1.8	2.9	2.1	2.0	6.0	58.3	17.1
空港リムジン	4.9	6.2	7.0	5.8	5.2	5.2	2.7	8.3	3.4
船(遊覧船除く)	4.6	9.6	10.6	8.7	1.1	2.8	3.3	10.4	11.4
観光タクシー	2.3	6.2	7.9	4.3	1.2	1.5	0.8	4.2	1.7
レンタサイクル	1.7	1.9	1.8	1.9	0.9	2.4	0.3	4.2	4.0
飛行機(県内のみ)	1.6	3.0	2.6	3.4	1.1	0.5	1.1	0.0	5.7
その他	1.0	0.4	0.9	0.0	0.5	0.7	1.4	4.2	4.6

資料：平成 24 年度外国人観光客満足度調査報告書（沖縄県）

(3) 各エリアを訪れた日程

沖縄県観光客の日程は、平成 24 年では、2泊3日（3日）が 38.4%と最も多く、次いで3泊4日（4日）が 28.3%である。2泊3日（3日）及び3泊4日（4日）の合計が全体の 6 割を超えている。

沖縄県観光客は、どの日程においても、旅行最終日に沖縄県南部地域を訪れる傾向がある。

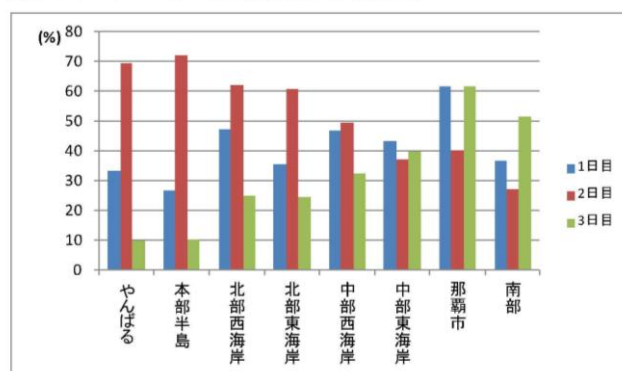
平均滞在日数別内訳

	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度
日帰り(1日)	1.2%	0.0%	0.7%	0.6%	0.4%	0.7%	0.5%
1泊2日(2日)	12.1%	11.1%	11.3%	11.6%	9.1%	12.2%	13.8%
2泊3日(3日)	41.3%	43.0%	41.2%	40.7%	39.1%	37.1%	38.4%
3泊4日(4日)	29.3%	31.4%	30.5%	30.7%	31.9%	29.7%	28.3%
4泊5日(5日)	9.2%	8.7%	9.6%	9.8%	13.0%	12.2%	11.1%
5泊6日(6日)	2.3%	2.0%	2.7%	2.8%	3.0%	3.2%	3.5%
6泊7日(7日)	1.2%	1.1%	1.8%	1.2%	1.3%	1.5%	1.4%
7泊以上(8日以上)	3.4%	2.6%	2.3%	2.5%	2.2%	3.4%	2.9%

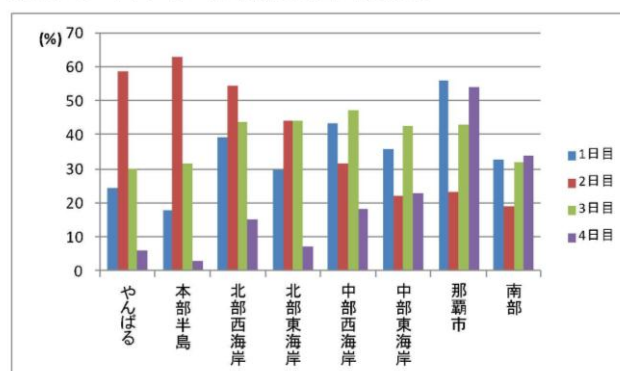
※出所：沖縄県「観光統計実態調査」(H18年度は航空機内で行った大規模調査による数値)

資料：平成 24 年観光要覧 平成 25 年 9 月（沖縄県）

図表 VI-2-109 各エリアを訪れた日数に（2泊3日）



図表 VI-2-110 各エリアを訪れた日数に（3泊4日）

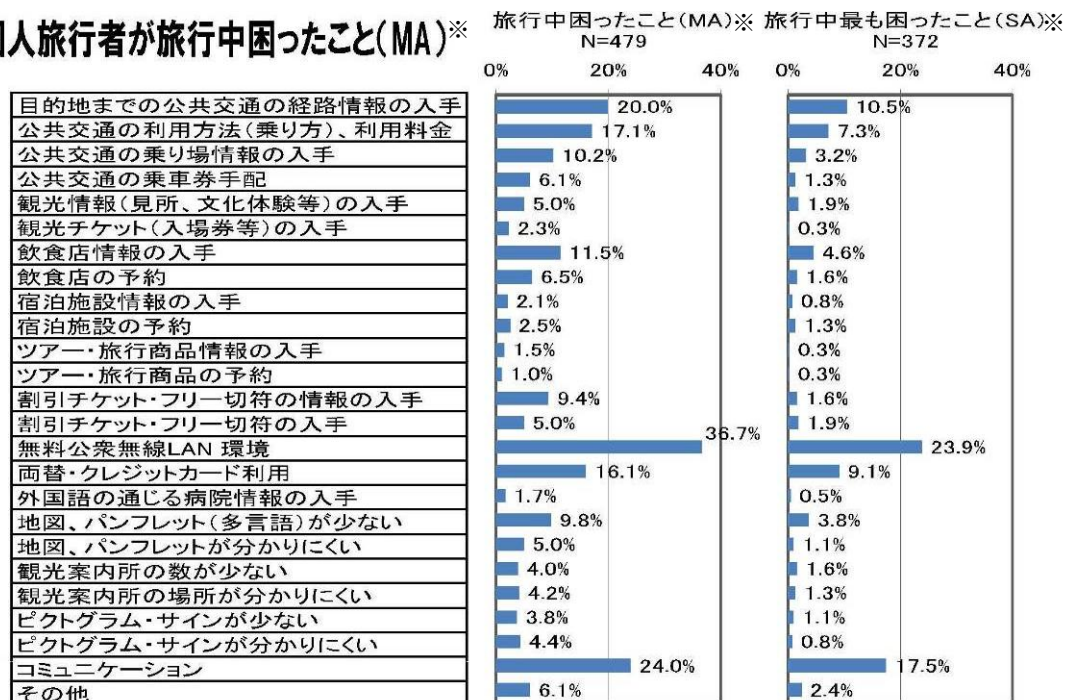


資料：戦略的リピーター創造事業報告書 平成 25 年 3 月（沖縄県）

(4) 外国人観光客のニーズ

外国人旅行者が旅行中に困ったことは、「無料公衆無線LAN環境」36.7%と最も高く、次いで「コミュニケーション」が24.0%、「目的地までの公共交通の経路情報の入手」が20.0%となっている。

■外国人旅行者が旅行中困ったこと(MA)※



※MA=複数回答 SA=単回答

■日本の外国人旅行者の受入環境に対する意見

(外国人観光案内所を訪問した外国人旅行者アンケート調査、国内の外国人観光案内所の実態調査(平成23年10月実施)より)

分野	外国人旅行者の意見	観光案内所からの意見聴取
公共交通	○フリーパスが充実していない。 ○Japan Rail Passを日本でも購入可能にしてほしい。	○次の目的地までの移動経路、交通手段に関する問い合わせが多い。 ○公共交通の乗り方や利用料金の問い合わせも多い。多くの外国人旅行者が安い料金での移動を求める傾向にある。
両替・クレジットカード利用環境	○日本円への両替が困難であった。 ○帰国時の移動であったためクレジットカード支払いを希望したが、利用できないところがあった。 ○海外発行のクレジットカードが利用できるATMがどこにあるのかを見つけにくい。	○海外発行のクレジットカード利用可能なATM情報についての質問が多い。 ○日本に来て、既にクレジットカードが使えない事態に遭遇しており、その際セブンイレブンでおろした経験があったのだと思われるが、セブンイレブンがどこにあるかという質問も多い。
無料公衆無線LAN環境	○Wi-Fiサービスの充実。 ○外国人旅行者にとって無料公衆無線LAN環境は重要。	○外国人からの無料公衆無線LAN環境へのニーズは非常に高い。 ○入国前にネットで日本を良く調べてきている旅行者が多い。ウェブページをブックマークしておいて、旅行中これらを参照したいということで、無料公衆無線LAN環境の問い合わせも多い。
地図・パンフレット	○広域の地図を入手しづらい。	○観光地のパンフレットは、当該地域の地図しか掲載されていないことが多く、その他の場所の案内には不向きである。そこで、広域的な地図が案内に必要となってくる。
WEBでの情報提供	○WEBサービスを充実させるべき。 ○Wi-Fiスポットの情報提供の充実。	○地図等の情報は自治体単独のものではなく、広域的な情報提供が必要である。
飲食施設	○飲食施設などでの英語の情報が不足している。	○飲食店情報については、おいしい料理を知りたいというニーズに加えて、ベジタリアンや宗教上の制限に関する情報も必要である。
コインロッカー	○コインロッカーは小さい規模の駅にも必要である。	○大型ロッカーの場所に関する質問が多い。

資料：外国人観光案内所を訪問した外国人旅行者アンケート調査、
平成23年10月実施(国土交通省観光庁)

3. 利用者及び関係機関に対する意向調査

3-1. 調査概要

(1) 調査の目的

本調査は、糸満市～那覇空港直行バスの実証実験に向けた意向を把握し、運行計画検討の基礎資料とすることを目的に実施する。

公共交通に関する市民の意向調査としては、「新しい公共交通検討事業（平成 25 年 2 月）」の中で市民を対象とした全世帯アンケート（19,652 世帯（広報誌配布世帯））、糸満市を訪れた観光客を対象とした観光客アンケート（92 件）を実施している。

このような状況を踏まえ、以下の目的を持って意向調査を実施する。

1) 住民アンケート（沿道地区）

糸満市～那覇空港直行バスについて、運行ルートやバス停位置、運行時間帯など運行計画（案）を示した上で、利用意向や詳細なニーズ等を把握するとともに、実証運行のプロモーション活動の一貫として利用促進を図るため、アンケート調査を実施する。

2) 観光客アンケート

糸満市～那覇空港直行バスの実証実験にあたり、糸満市を訪れた観光客の特性を把握するとともに、糸満市を訪れた観光客の現状やニーズを把握し、運行計画の作成及び今後の観光施策を推進するための基礎資料とする。

3) 関連者ヒアリング

那覇空港直行路線のルート沿線に立地する商業事業者や観光事業者等に対して意見を集約するとともに、路線バスの敷地内乗入れや観光イベント等との連携・タイアップの可能性を探るため、関係者ヒアリング調査を実施する。

※ 調査対象：沿道事業者（ホテル）／沿道事業者（店舗）／沿道事業者（集客施設）
／交通事業者／観光関連組織／旅行代理店

(2) 調査の方法及び回収率等

1) 住民アンケート（沿道地区）

①調査対象

- ・糸満市全世帯：6,479 世帯（平成 25 年 10 月配布世帯で算出）

【糸満 5 地区】

南区、前端区、新川区、町端区、第 1 市営住宅

【西崎 6 地区】

西崎 1 丁目、西崎 2 丁目、西崎団地、西崎 3 丁目西、西崎第 2 団地、航空局糸満宿舎

【高嶺 3 地区】

真栄里、ガタ原、真栄里団地

【三和 9 地区】

伊敷、南波平、福地、伊原、米須、米須団地、大度、さつきの城、摩文仁

②調査方法、回収数等

- ・自治連絡員による配布、郵送による回収
- ・調査期間：平成 25 年 11 月 5 日（火）～平成 26 年 1 月 10 日（金）
- ・回収数、回収率

区 分	総 計	糸満地区	西崎地区	兼城地区	高嶺地区	三和地区
配布数	6,479 件	2,090 件	2,517 件	—	880 件	992 件
回収数	359 件	93 件	154 件	—	58 件	54 件
回収率	5.5%	4.4%	6.1%	—	6.6%	5.4%

平成 26 年 1 月 10 日現在

住民アンケート（沿道地区）のサンプル数と信頼性について

通常、アンケート調査の必要標本数（信頼できる回収件数）は、統計理論に基づき、以下の計算式により求められる。

$$\text{誤差}(\varepsilon) = k \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}} \times 100$$

N：母集団（調査対象者の総数）

n：サンプル数

k：信頼度係数=1.96
(通常信頼度を95%とする)

p：回答率=0.5

ε：許容できる誤差の範囲（概ね5%以下）

今回の全世帯アンケートは、母集団である糸満市の世帯数 6,479 世帯に対して、サンプル数（n）が 359 件（1/10 時点）である。ある設問に対する回答率が 50%（割れる意見）である場合、最も誤差が大きいと考えられることから p を 0.5 と仮定すると、結果の誤差は±5.0%である。

一般的には、許容できる誤差の範囲は概ね 5%程度に納めることが、社会調査上望ましいと言われている。今回の調査は糸満市全体で、誤差は約 5%であることから、統計的にも妥当であると考えられる。

新しい公共交通検討事業

糸満～那覇空港直行バスに関するアンケート調査

中面の「糸満～那覇空港直行バス運行計画(案)」を見て、当てはまる項目や番号に○を付けてください。

(設問2以外は一つに○を付けてください)

- 問1 糸満～那覇空港直行バスが導入された場合、どの程度の頻度で利用すると思いますか。
- | | | | |
|---------|-------------|----------|-----------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週2～3回 | 3. 週1回 | 4. 月に2～3回 |
| 5. 月に1回 | 6. 2～3ヶ月に1回 | 7. 利用しない | |

(問1で「5. 月に1回、6. 2～3ヶ月に1回、7. 利用しない」と答えた方におたずねします。) 利用しづらい理由について教えてください。

1. 自家用車を利用した方が便利だから
2. 目的地に到着するまで時間がかかるから
3. 料金が安いと思うから
4. 自宅や目的地からの停留所が遠いから
5. バス路線が分かりにくいから
6. 時間通りに到着しないと思うから
7. 乗りたい時間帯に走っていないから
8. その他()

問2. 糸満～那覇空港直行バスを利用して行きたいバス停(目的地)を教えてください(3つ以内)。その他、必要なバス停の場所などがあれば教えてください。

- | | | | |
|-------------|------------|------------|---------------|
| 1. 那覇空港 | 2. 西崎運動公園 | 3. 道の駅いとまん | 4. サザンビーチホテル前 |
| 5. 糸満漁港入口 | 6. 糸満市役所 | 7. 真栄里入口 | 8. 南部病院前 |
| 9. 琉球ガラス村前 | 10. ひめゆりの塔 | 11. 米須 | 12. 平和祈念公園入口 |
| 13. 糸満観光農園前 | | | |
- その他、必要なバス停

問3. 糸満～那覇空港直行バスをどのような目的で利用すると思いますか。

- | | | | | | |
|-----------|-------|--------|-------|-------|-------|
| 1. 通勤 | 2. 通学 | 3. 買い物 | 4. 通院 | 5. 観光 | 6. 遊び |
| 7. その他() | | | | | |

問4. 環境や健康の面からも、公共交通の役割は重要であると考えられます。より路線バスを利用しやすくするためには、何が重要であるとお考えですか。

ご協力ありがとうございました。

平成 25 年 11 月 22 日(金)までに、返信用封筒に入れてご投函ください。(切手不要)

平成 26 年度

糸満～那覇空港直行バスのお知らせ



糸満市では、昨年度から全市民を対象にアンケート調査等を実施するなど、「新しい公共交通システム可能性調査」に取り組んでおり、今年度は『糸満～那覇空港直行バス路線実証実験』に向けた計画の策定を進めています。

このバス路線は、那覇空港から糸満市の主要な施設や観光地などを結び、観光客の区域内移動の円滑化と合わせて、糸満市から那覇市や県外に出かける市民に対しても、速達性と利便性の高い公共交通サービスの実現を目指すものです。

市民生活の足を担う路線バスの維持及び活性化を図ることが、糸満市の公共交通を支える原動力となります。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、『糸満～那覇空港直行バス路線』に対する率直なご意見をお聞かせいただくようご協力をお願い申し上げます。

平成 25 年 11 月
糸満市 企画開発部 政策推進課

1. この調査は、なるべく高齢者や学生など、普段バス等の公共交通を必要とされている方をお願いいたします。
 2. 回答していただいた調査票は、全ての方の回答を一括で統計的に処理し、個人の内容が明らかになることはありません。
 3. ご記入いただいた調査票は、平成 25 年 11 月 22 日(金)までに、返信用封筒に入れてご投函ください。(切手不要)
 4. ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。
- ◆糸満市企画開発部政策推進課(担当:喜納(キナ))
TEL: 098-840-8122(直通) FAX: 098-840-8157
- ◆株式会社オオバ沖縄支店(担当:経長(オナガ))
TEL: 098-951-1717 FAX: 098-951-1718



２）観光客アンケート

①調査対象者

- ・糸満市内の主要観光施設及び宿泊施設に訪れた観光客

②調査方法、回収数等

○主要観光施設

- ・調査員による直接ヒアリングによる調査。回答頂いた方には、観光PR誌を配布。
- ・調査期間：平成25年9月21日（土）、22日（日）
- ・回収数
 - ひめゆりの塔（162件）
 - 道の駅いとまん（33件）
 - 美々ビーチいとまん（106件）
 - 琉球ガラス村（170件）

○宿泊施設

- ・宿泊時にフロントにて調査票を配布・回収。回答頂いた方には、粗品を配布。
- ・調査期間：平成25年10月10日（木）～11月5日（火）
- ・回収数
 - サザンビーチホテル&リゾート（72件）
 - スポーツロッジ糸満（5件）

観光客アンケート回収率

区 分	総 計	ひめゆりの 塔	道の駅 いとまん	美々ビーチ いとまん	琉球 ガラス村	宿泊施設
回収数	548 件	162 件	33 件	106 件	170 件	77 件
構成比	100.0%	29.6%	6.0%	19.3%	31.0%	14.1%

平成 26 年度 社会実験ルート(案)



糸満市の観光交通に関するアンケート調査

この度は、糸満市へようこそお越しくださいました。

このアンケートは、皆さまの観光交通の実態と糸満市に対する感想を教えてください。また、魅力的な観光交通の実現を目指すものです。

ご旅行中の貴重なお時間に、調査にご協力いただけますことを心より感謝申し上げます。

平成 25 年 9 月
糸満市 企画開発部 政策推進課

【アンケート調査票記入及び情報の取扱いについて】

1. 今回ご旅行されたご家族、グループの代表者の方がお答えください。
2. 回答していただいた調査票は、一括で統計的に処理し、個人の回答内容が明らかになることはありません。

ご不明点がございましたら、下記までお問い合わせください。

◆調査実施機関

糸満市 企画開発部 政策推進課 (担当: 喜納)
TEL: 098-840-8122 (直通)
FAX: 098-840-8157

◆調査受託者

株式会社オオバ 沖縄支店 (担当: 若長)
TEL: 098-951-1717
FAX: 098-951-1718

問 1 あなた自身のことについてお答えください。

居住地	沖縄県以外の方 ⇒ () 都・道・府・県
	沖縄県在住の方 ⇒ () 市・町・村
性別	1. 男性 2. 女性
年齢	1. 10 歳代 2. 20 歳代 3. 30 歳代 4. 40 歳代 5. 50 歳代 6. 60 歳代 7. 70 歳以上

問 2 今回のご旅行について教えてください。

ご旅行のグループ	1. 一人で 2. 友達等の () 人 グループ旅行 3. 家族 () 人 旅行 4. 社内旅行・修学旅行等の団体旅行 5. その他 ()
ご旅行の日程 (沖縄県外の方のみ回答)	1. 日帰り 2. 1泊2日 3. 2泊3日 4. 3泊4日 5. 4泊以上 日
ご旅行の宿泊先 (沖縄県外の方のみ回答)	【市町村名、ホテル名など、具体的にお書きください。(複数回答可)】

問 3 これまでに糸満市を訪れた回数について教えてください。

	1. 初めて 2. 2回目 3. 3回目 4. 4回以上
--	------------------------------

問 4 今回のご旅行のスケジュールについて教えてください。

- (1) 今回、立ち寄った、または立ち寄る予定の「糸満市内の観光地」を教えてください。既に立ち寄った場所には○を、これから立ち寄りた場所には△を付けてください。

糸満市内	1. 平和祈念公園/沖縄県平和祈念資料館 2. 道の駅いとまん 3. ひめゆりの塔/ひめゆり平和祈念資料館 4. 糸満市中央市場 5. 西崎運動公園 6. 美々(びび)ビーチいとまん 7. 琉球ガラス村 8. 糸満市観光農園 9. 森塚(とどろきごう) 10. 喜屋武岬(きやんみさき) 11. その他 ()
糸満市での滞在時間	1. 2時間以内 2. 2. 半日程度 3. ほぼ一日 4. 1泊2日 5. 2泊3日 6. それ以上 ()
ここまでの移動手段	1. レンタカー 2. レンタルバイク 3. タクシー 4. マイカー 5. 友人・知人の車 6. 路線バス 7. 定期観光バス 8. 貸切バス 9. 徒歩 10. その他 ()
移動手段の選択理由	1. 費用が安いから 2. 所要時間が短いから 3. 移動が楽だから 4. 同行者が多いから 5. 複数立ち寄りたから 6. 荷物が多いから 7. バスについてよく知らないから 8. 小さい子どもがいるから 9. 旅行のバックに含まれているから 10. お酒が飲めるから 11. 他の手段がよく知らないから 12. その他 ()

- (2) 糸満市以外で、立ち寄った、または立ち寄る予定の「沖縄県本島南部」観光地を教えてください。既に立ち寄った場所には○を、これから立ち寄る予定の場所には△を付けてください。

立ち寄った場所	1. 那覇市内/国際通り 2. 牧志公設市場 3. 壺屋やちん通り 4. D F S ギャラリー 5. 首里街並み/首里城公園/守礼門 6. 旧海軍司令部壕 7. 沖縄アウトレットモールあしびなー 8. 沖縄ワールド/玉泉洞 9. 斎場御嶽(せーふあうたき) 10. 久高島 11. 糸満市以外のビーチ 12. その他 ()
---------	--

問 5 糸満市内の観光地を結ぶバス等の公共交通機関を利用する場合、どの位の運行間隔であれば、利用しても良いと思いますか。

※ 料金は、那覇空港から糸満市街地であれば片道 600 円程度を想定して下さい。

(モノレールとバスを利用した場合は片道 710 円、レンタカー(軽自動車)は 6 時間までの利用で 4,000 円程度です。)

1. 30 分毎	2. 1 時間毎	3. 1 時間 30 分毎	4. 2 時間毎
5. 運行間隔に関係なく利用しない	⇒理由 ()		

問 6 旅行の交通手段について、どのようなサービスがあれば、路線バス等を利用したいと思いますか? 最も当てはまると思うものを 3 つを選び、番号を記入してください。

サービスの番号		
番号	項目	概要
1	観光案内サービス	車内放送や観光ボランティアによる、観光スポットや見どころを案内
2	手荷物預かりサービス (有料: 500 円程度)	那覇空港や乗換拠点などで、スーツケースや御土産物など、手荷物を預かるサービス
3	宿泊先等でのレンタカー手続き	混み合うレンタカー窓口でなく、宿泊地や観光施設などでレンタカー手続きができるサービス
4	一日フリー乗車券 (有料: 1500 円程度)	乗り降り自由な路線バスのフリーバス乗車券の販売
5	観光地や商業施設での割引サービス	観光施設や商業施設でバス利用者を対象に、入場料や商品・飲食代の割引などが受けられるサービス
6	モノレールやタクシーへの乗換サービス	バス利用者を対象に、モノレールやタクシーの乗換に対する割引などのサービス
7	車両デザインや運転手の制服デザインなど	観光気分を盛り上げるバスの車両デザインや運転手の制服デザインなど
8	環境にやさしい車両の導入	電気エネルギーを動力源とする電気バス、電気とディーゼルのハイブリッドバスなど、環境にやさしい車両の導入
9	自転車や車イス等を積載可能な路線バス	自転車や車イス等を積載可能な、路線バスの導入
10	バスロケーションシステム	携帯電話などで、リアルタイムで停留所までの到着予測時刻や目的地までの到着予測時刻などを確認できるサービス
11	その他 【具体的な内容をお書き下さい】	

アンケート調査にご協力ありがとうございました。

3) 関係者ヒアリング

業 種	施設名・組織名
沿道事業者 (宿泊施設)	・サザンビーチホテル&リゾート ・ホテル スポーツロッジ糸満
沿道事業者 (商業事業者)	・うまんちゅ市場（道の駅いとまん） ・サンエーしおざきシティ
沿道事業者 (観光事業者等)	・ひめゆり平和祈念資料館 ・糸満観光農園
観光関連組織	・糸満市観光協会 ・いちまりん/美ら島観光バス ・沖縄南部広域観光協会（NPO自然体験学校） ・米須自治会（まち歩きモデル） ・沖縄観光コンベンションビューロー(OCVB)
交通事業者	・沖縄都市モノレール株式会社（ゆいレール） ・株式会社琉球バス交通 ・ときわ交通合資会社
旅行代理店	・株式会社JAL JTAセールス ・株式会社JTB ・沖縄ツアーリスト株式会社（OTS）

3-2. 調査結果

(1) 住民アンケート（沿道地区）

設 問	概 要
利用頻度	・利用頻度についてみると、「①ほぼ毎日」～「④月に2～3回」利用すると回答した割合が、40%を占めている。糸満市～那覇空港直行バスの運行により、一定の利用が見込まれることが伺える。一方、「⑦利用しない」と回答した割合は27%である。 ・地区別でみると、「①ほぼ毎日」～「④月に2～3回」利用すると回答した割合が、「三和地区」及び「高嶺地区」の市南部の地区では50%を超えており、他の地区に比べ高い利用ニーズが伺える。 ・利用頻度について「⑤月に1回」～「⑦利用しない」と回答した方に対し、利用しづらい理由を確認した所、「①自家用車を利用した方が便利だから」が43%である。運行計画に関連する内容としては、「②料金が安いから」が13%と最も高く、次いで「③乗りたい時間帯に走っていないから」が7%となっている。
目的地 (利用したいバス停)	・利用したいバス停（目的地）は、「①那覇空港」が54%と最も多く、次いで「③道の駅いとまん」が28%、「⑥糸満市役所」が25%、「②西崎運動公園」が20%となっている。 ・その他の意見としては、「アウトレットモールあしびなー」、「モノレール駅（赤嶺駅）」等の意見が多くあげられた。
利用目的	・糸満～那覇空港直行バスの利用目的は、「①買い物」が27%と最も多く、次いで「②通勤・通学」が17%、「③観光」が14%である。 ・地区別に見ると、「三和地区」及び「高嶺地区」の市南部の地区では「①買い物」が最も多い。また、「西崎地区」では「②通勤・通学」、「糸満地区」では「③観光」が最も多い。
利用しやすくする為 重要なこと	・より路線バスを利用しやすくするために必要なことは、「①定時運行」及び「②運賃改定」が16%で最も多く、次いで「④増便」が14%、「⑨バス停増設・ルート新設」が9%となっている。

(2) 観光客アンケート

設 問		概 要
① 回答者の属性	居住地	・「県内観光客」が23%、「県外観光客」が76%。 ・道の駅では、「県内観光客」が67%と、他の調査地点に比べると県内観光客の割合が高い。 ・「20代」が30%と最も多く、次いで「30代」が28%、「40代」が18%。
	年齢	
② 旅行の内容	旅行グループの構成	・「家族旅行」が44%と最も多く、次いで「友達等のグループ旅行」が31%。
	旅行グループの構成	・「2人」が37%と最も多く、次いで「3人」が16%。3人以下の少人数が、58%と約半数を占めている。 ・県外観光客についてみると、「1人」が4%「2人」が44%、「3人」が17%。3人以下の少人数が、65%を占めている。
	旅行の日程	・「2泊3日」が39%と最も多く、次いで「3泊4日」が25%。 ・県外観光客についてみると「2泊3日」が50%と最も多く、次いで「3泊4日」が31%、「4泊以上」が14%。
③ 糸満市の観光	糸満市に訪れた回数	・「初めて」が40%と最も多く、次いで「4回以上」が24%。 ・県外観光客についてみると「初めて」が49%と最も多い。「2回目」が24%、「3回目」が8%、「4回以上」が13%と、2回以上のリピーターが49%。
	糸満市の滞在時間	・「半日程度」が37%と最も多く、次いで「2時間以内」が23%。 ・県外観光客についてみると「半日程度」が38%と最も多い、次いで「2時間以内」が26%。
④ 移動手段	移動手段	・「レンタカー」が64%と最も多く、次いで「マイカー」が19%。「路線バス」は、1%。 ・県外観光客についてみると「レンタカー」が82%と最も多い、次いで「タクシー」が5%。「路線バス」は1%。
	移動手段の理由	・「移動が楽だから」が48%と最も多い。 ・県外観光客についてみると「移動が楽だから」が46%と最も多い、次いで「旅行のバックに含まれている」が12%、「複数立ち寄りたから」が10%。

⑤那覇空港 直行路線	運行間隔	・運行間隔は、「①30 分毎」が 55%と最も多く、短い運行間隔が望まれている。また、1 時間毎の運行（「②1 時間毎」～「⑤運行間隔に関係なく利用しない」の合計）は 37%が利用すると回答している。
	サービス	・「一日フリー乗車券（1,500 円程度）」が 67%と最も多く、次いで「観光案内サービス」が 42%。「手荷物預かりサービス（500 円程度）」が 36%

(3) 関係者ヒアリング

業種	施設名	指摘の要旨
沿道事業者 (ホテル)	サザンビーチホテル&リゾート ホテル スポーツ ロッジ糸満	・若者においても運転免許取得率が下がっている。 ・現状は、赤嶺駅からタクシー利用を案内している。 ・宿泊客の利用目的は、那覇市（国際通り等）、夜の食事、市内のファミレス。 ・利用者は、タクシー代と比較する。時間が掛かってもバス代の方が安いからバスに乗る。家族連れや3～4人グループをバスに乗せるのは、難しい。
沿道事業者 (店舗)	うまんちゅ市場 (道の駅いとまん) サンエーしおざきシティ	・購入したものを郵送するケースが、県外も県内も増えている。 ・30分位で次のバスに乗れるなら、降る気になるが、1時間以上待つことになるならば、途中下車しない。 ・買い物客は、ほとんどがマイカー利用。バス停が近くにあっても降りていない。 ・折込み広告に、アクセス手段として記載することを検討。 ・サンエーしおざきシティは、バス車両が乗り入れ出来る設計になっていない。
沿道事業者 (集客施設)	ひめゆり平和祈念資料館 糸満観光農園	・「平和祈念資料館」は、25年間広告しないできたが、体験講和者も7人となり、今後は広報活動にも取り組む。本日の来場者数は約4,000人。 ・「観光農園」は、イベント会場とすることは可能。
交通事業者	ゆいレール 琉球バス ときわ交通	・「ゆいレール」の駅&車内を広告の媒体とすることは、有料で可能。共通券は無理だが、今あるものに付加は可能。 ・中継ポイントは、集客性が高いことが要件。折返し便と直行便を混合させると投入台数が増える。 ・新たな乗客の開拓を目指したい。観光客は、非常に流動的。赤嶺駅周辺は渋滞するので、遅延の原因となる。 ・タクシー利用者の乗車距離は、3km未満の頻度がきわめて高い。 ・阿波根、兼城、糸洲、南波平あたりでタクシーを呼んだ場合、5～10分程度で駆け付ける体制になっているので、タクシーは、直行バスを補完する機能を持っている。

観光関連組織	糸満市観光協会 いちまりん 美ら島観光バス 沖縄南部広域観光協会（NPO 自然体験学校） 米須自治会（まち歩きモデル）	・「道の駅いとまん」に情報発信機能を持った管理棟を建設予定。建設すれば、荷物の一時預りは可能。イベント会場としての利用も可能。（無料） ・「南風号」の利用者は、7月20日（土）から9月1日（日）の44日間で、3,364人。ホテルのホームページ等に広告。 ・海外からの観光客は増えており、レンタカーよりも公共交通を望んでいる。 ・リピーターや個人客の多種多様な要求（期待）に対して、移動手段を増やすことは、地元にとっても経済効果が大きい。 ・観光客が増えれば、興味を持った市民も利用する。 ・那覇市からバスで南部を廻ってみるとレンタカーよりも得した感じを得ることができる仕組みが大切。 ・単発ではなく、毎年度継続させてこそ、人が呼べる。
旅行代理店	J T A セールス J T B O T S	< P R ポイント > ・路線沿いの施設で利用できるクーポン券と組み合わせる。 ・南部に注目を浴びる企画を立てる。 ・「糸満まちあるき」等、他の企画と協調する。 ・夏のターゲットは、親子連れとなる。 ・個人向け商品に組み入れる。 ・観光客の動線に配慮したバスルートを考案すべき。 ・那覇市内に宿泊している観光客もターゲットに含める。 ・インフォメーションには、多言語（英語・中国語・韓国語）が不可欠。

旅行代理店	J T A セールス J T B O T S	<乗降客を増やす方策> ・ 8月から運行するならば、3月中旬から宣伝。P Rに時間をかける。 ・ 観光客の滞在中に目に留まる方法でP Rする。 ・ 終着駅の糸満観光農園でイベントを開催するか、バスに乗るところから始まる企画を考案する。 ・ 那覇市内の宿泊者にも利用しやすくするために、久茂地から“うみそらトンネル”を通して、那覇空港を経由するルートとする。 ・ 外国人にとって、時間的にも安心感が持てるような観光コースを設定する。 ・ 観光客の集客率は企画性によって左右させるので、糸満市がプロデュースする親子連れを狙った仕掛けを考案する。 ・ Webでの旅行商品の関連情報として紹介する。 ・ 入場券の割引等、利用することにお得感を与える。付加価値を加える。 ・ ホテルや空港での案内所にP Rを依頼する。 ・ Webサイトを活用し、その充実をはかる。 <商品化の可能性(連携の可能性)> ・ 現在の商品、「糸満まちあるき」や「観光農園」等では商品に魅力がないので商品化は困難。 ・ J T Aセールスでは、商品開発を行う意思はないが、糸満市で商品を開発し魅力的な商品があればとしたら商品として取り入れ販売する可能性がある。 ・ 現行の商品では商品化は困難 ・ 夏場の南部観光としては、北部のリゾートホテルに予約が取れなかったお客様をターゲットにできる。 ・ 県外客のターゲットは極めて少ない。県内客、外国人客の獲得を目指した商品化が必要。 ・ 受託の可能性はある。 ・ 現行の商品では商品化は困難。 「飛行機＋ホテル」と「飛行機＋ホテル＋レンタカー」は、販売協定があり、同じ値段で販売している。「飛行機＋ホテル＋バス代金」も同金額で勝負するしかなく、日本人観光客向け商品としては弱い。 ・ 受託の可能性はある。 「琉球ガラス村」「ひめゆりの塔」「平和祈念公園」をメインに、外国人をターゲットにした提案を行いたい。
-------	---	---

3-3. 住民アンケート（沿道地区）

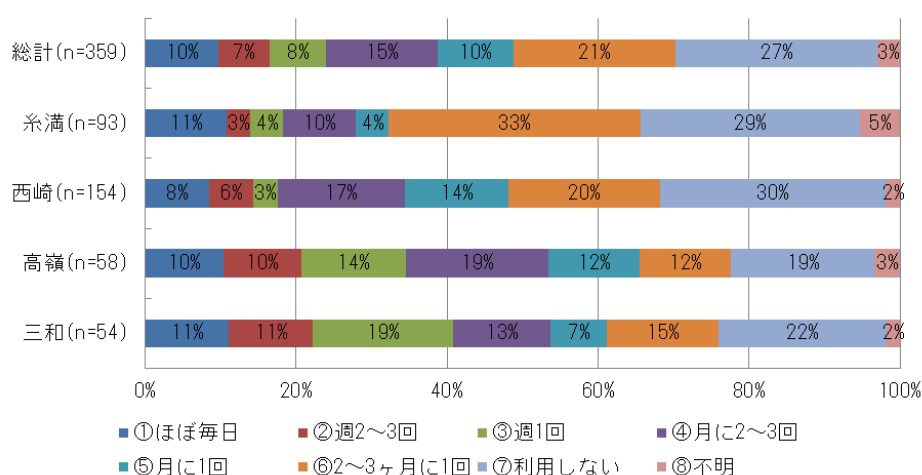
1) 利用頻度

利用頻度についてみると、「①ほぼ毎日」～「④月に2～3回」利用すると回答した割合が、40%を占めている。糸満市～那覇空港直行バスの運行により、一定の利用が見込まれることが伺える。一方、「⑦利用しない」と回答した割合は27%である。

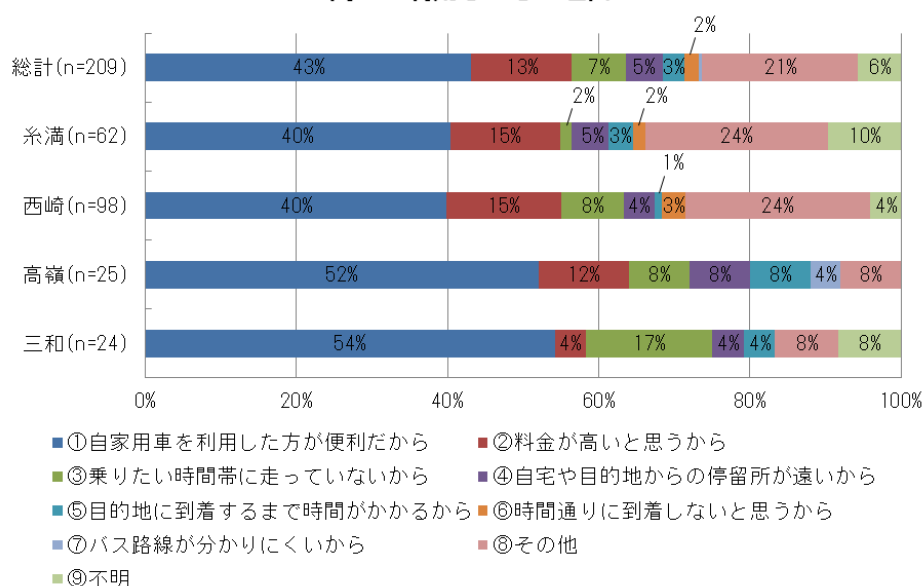
地区別でみると、「①ほぼ毎日」～「④月に2～3回」利用すると回答した割合が、「三和地区」及び「高嶺地区」の市南部の地区では50%を超えており、他の地区に比べ高い利用ニーズが伺える。

利用頻度について「⑤月に1回」～「⑦利用しない」と回答した方に対し、利用しづらい理由を確認した所、「①自家用車を利用した方が便利だから」が43%である。運行計画に関連する内容としては、「②料金が高いから」が13%と最も高く、次いで「③乗りたい時間帯に走っていないから」が7%となっている。

問1-1. 利用頻度



問1-2. 利用しづらい理由

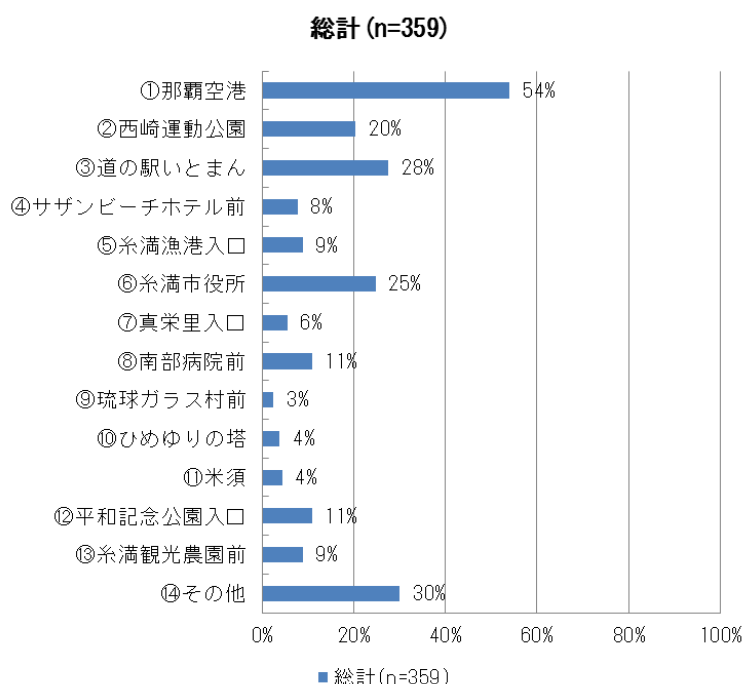


2) 目的地

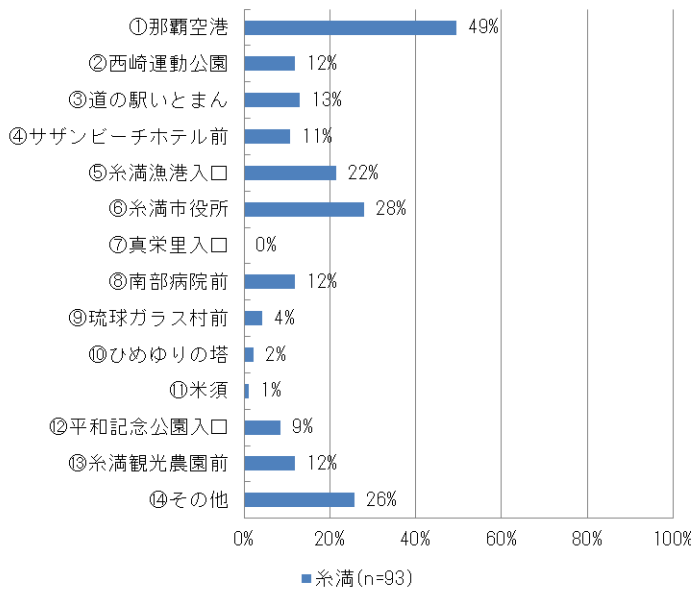
利用したいバス停（目的地）は、「①那覇空港」が 54%と最も多く、次いで「③道の駅いとまん」が 28%、「⑥糸満市役所」が 25%、「②西崎運動公園」が 20%となっている。

地区別にみると、全ての地区で「①那覇空港」が最も多く、次いで「三和地区」及び「高嶺地区」の市南部の地区では「③道の駅いとまん」、「糸満地区」では「⑥糸満市役所」、「西崎地区」では「②西崎運動公園」となっている。

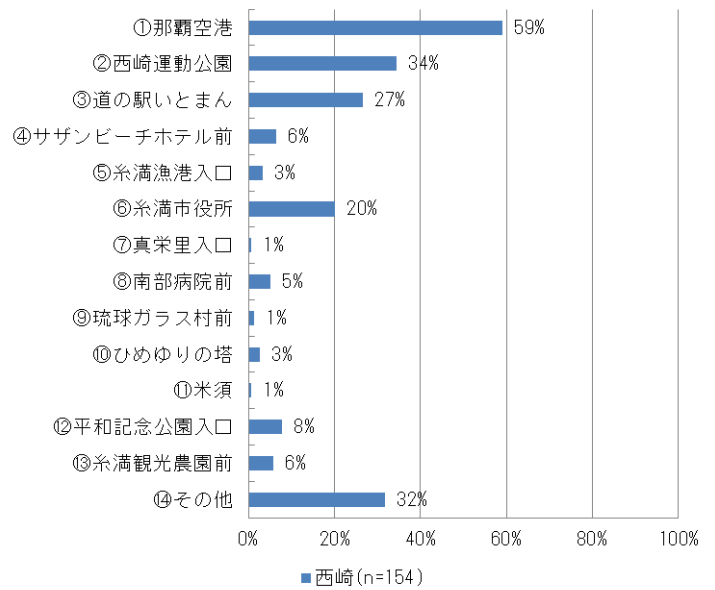
その他の意見としては、「アウトレットモールあしびなー」、「モノレール駅（赤嶺駅）」等の意見が多くあげられた。



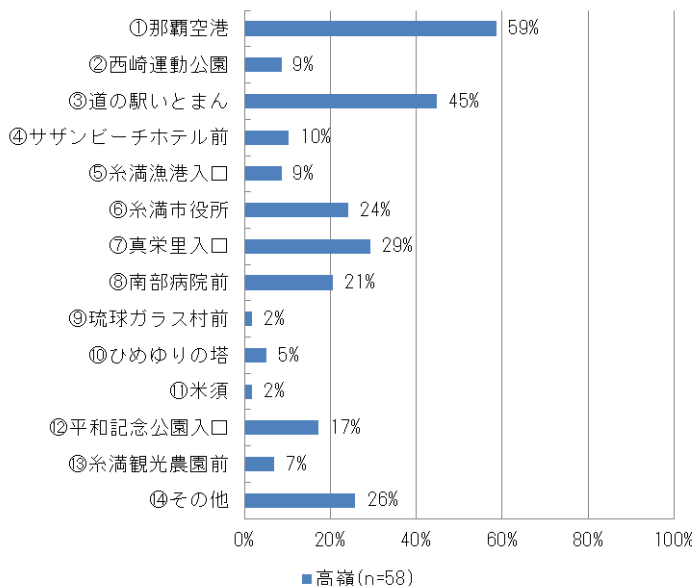
糸満 (n=93)



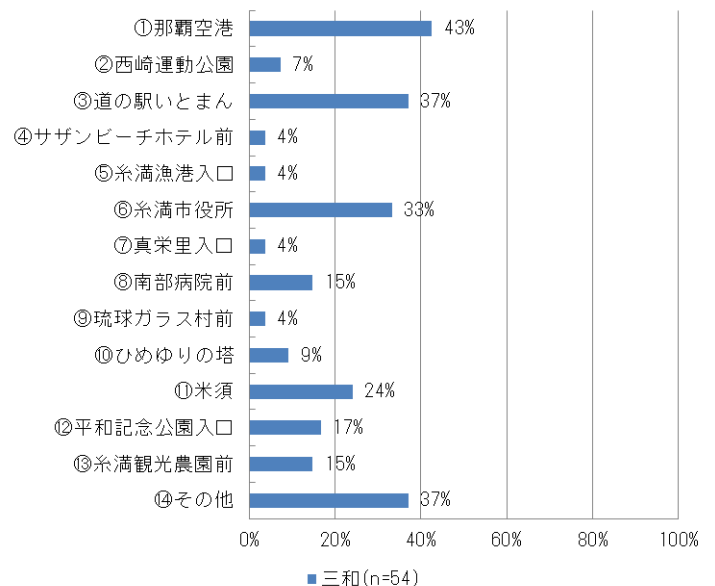
西崎 (n=154)



高嶺 (n=58)



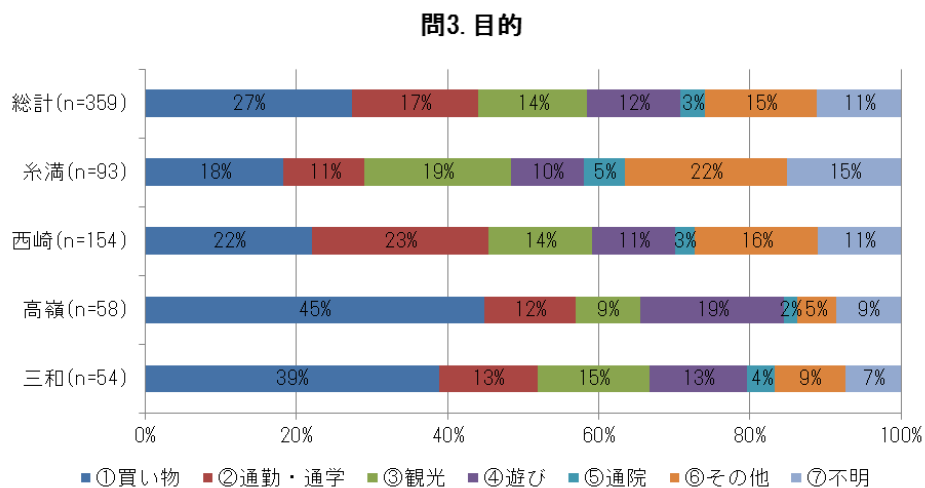
三和 (n=54)



3) 利用目的

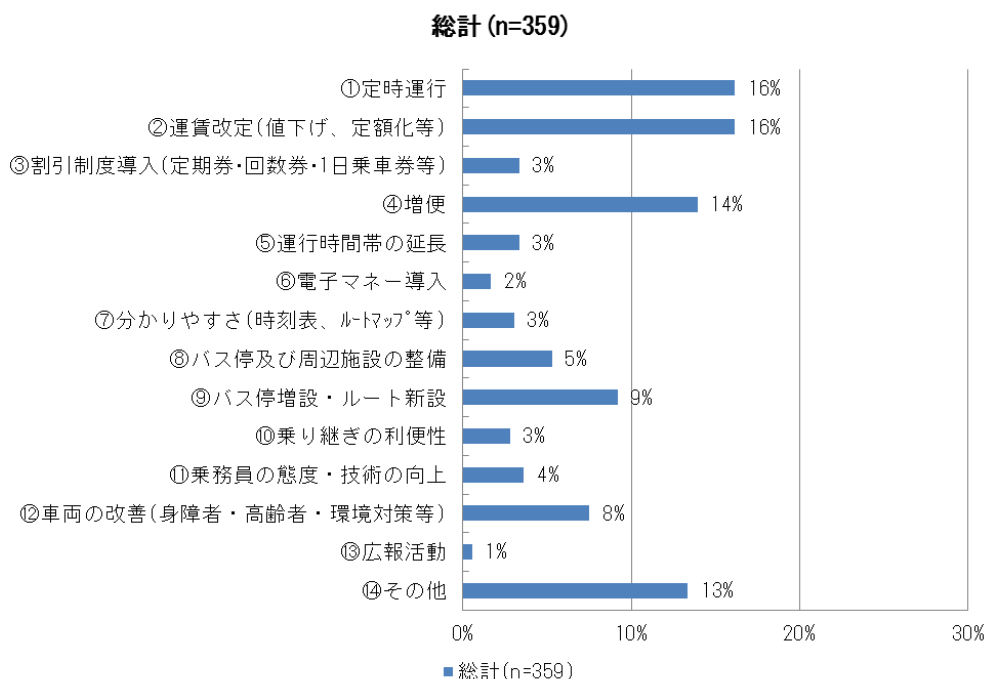
糸満～那覇空港直行バスの利用目的は、「①買い物」が27%と最も多く、次いで「②通勤・通学」が17%、「③観光」が14%である。

地区別に見ると、「三和地区」及び「高嶺地区」の市南部の地区では「①買い物」が最も多い。また、「西崎地区」では「②通勤・通学」、「糸満地区」では「③観光」が最も多い。



4) 利用しやすくするために重要なこと

より路線バスを利用しやすくするために必要なことは、「①定時運行」及び「②運賃改定」が16%で最も多く、次いで「④増便」が14%、「⑨バス停増設・ルート新設」が9%となっている。



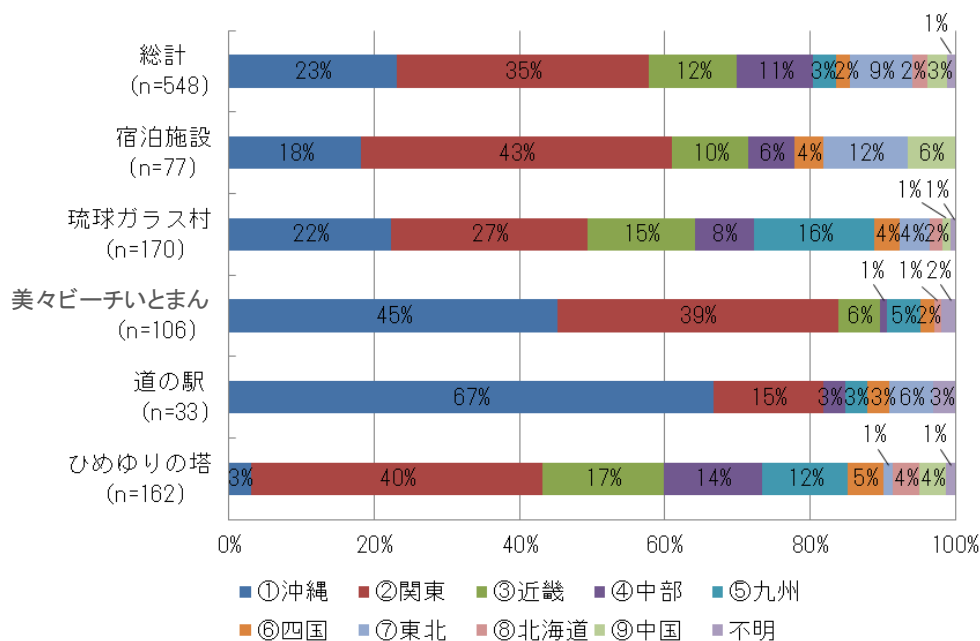
3-4. 観光客アンケート

1) 居住地

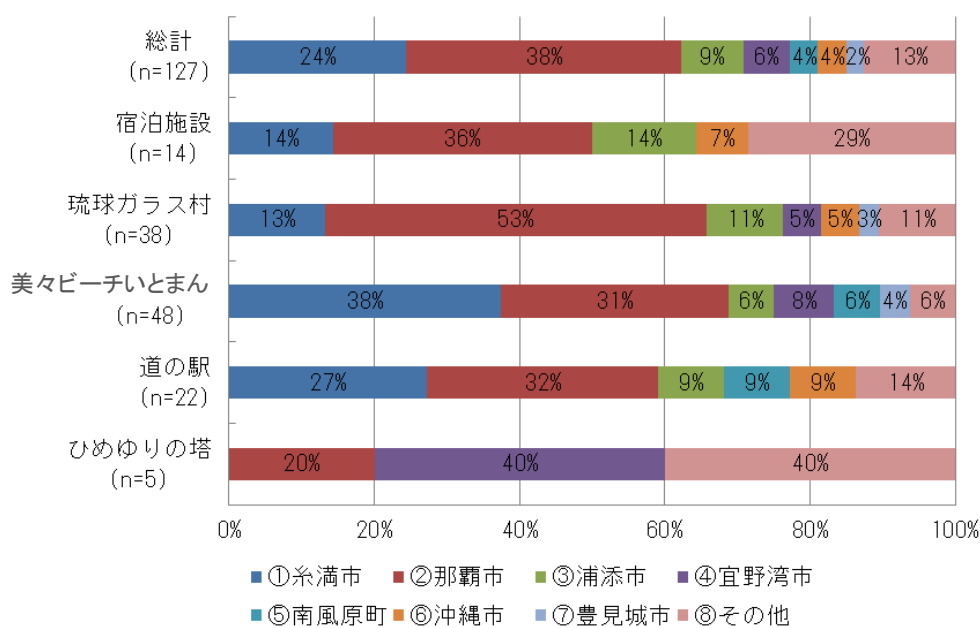
回答者の居住地は、「②関東」が35%と最も多い。次いで「①沖縄」が23%、「③近畿」が12%、「④中部」が11%である。また、「道の駅」での回答者は「①沖縄」が67%と他の観光地に比べ県内観光客が多い。

県内観光客の内訳でみると、「②那覇市」が38%と最も多く、次いで「①糸満市」が24%であり、県内観光客の約6割が那覇市及び糸満市内の観光客である。

問1-1. 居住地



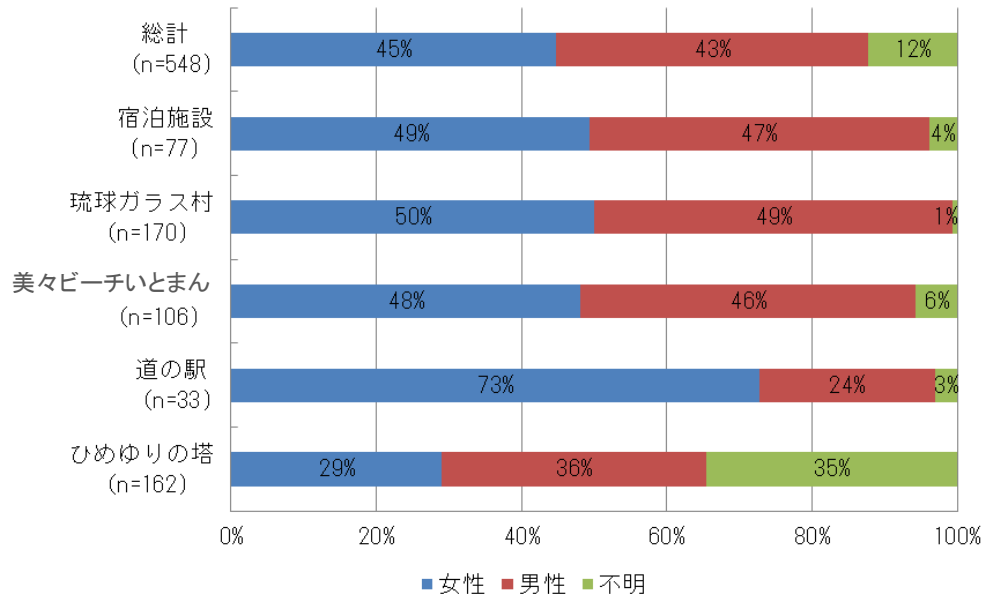
問1-1. 居住地（県内観光客の内訳）



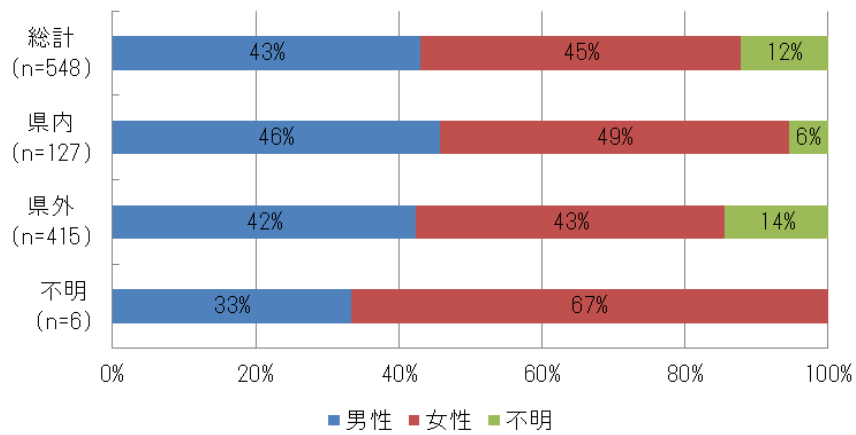
2) 性 別

回答者の性別は、女性が 45%、男性が 43%と、男女比は、ほぼ同じ割合である。
「道の駅」は、「女性」の回答者が 7 割と、他の観光地と比べ女性の割合が高い。

問1-2. 性別



問1-2. 性別

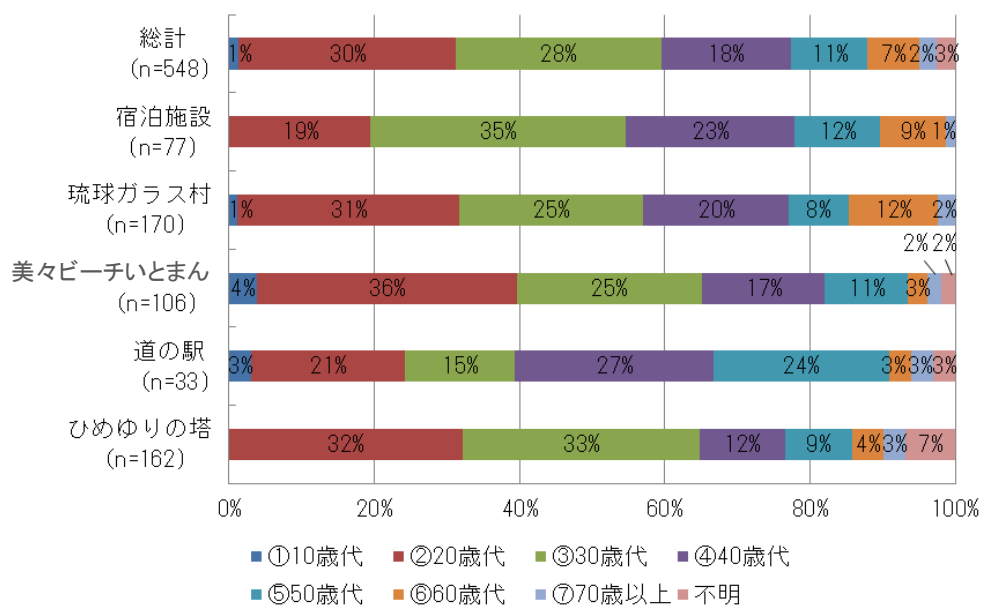


3) 年 齢

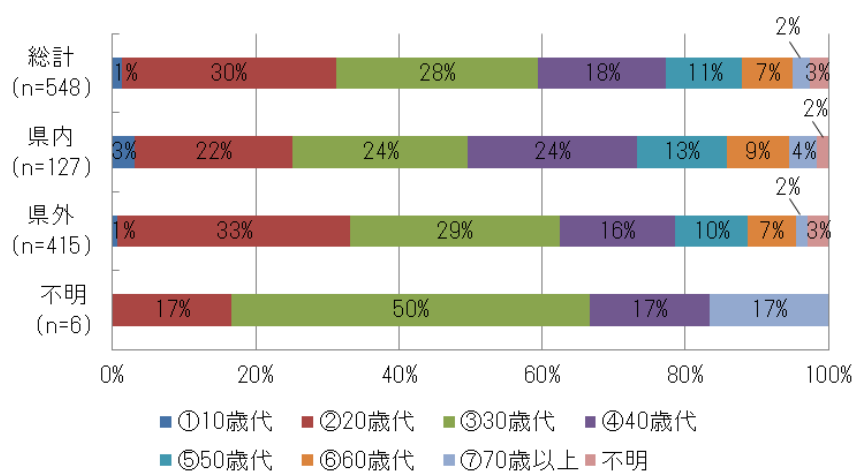
年齢は、「②20 歳代」が 30%と最も多く、次いで「③30 歳代」が 28%、「④40 歳代」が 18%となっている。

「道の駅」は、「④40 歳代」以上の割合が 57%と他の観光地に比べ、中高年層の割合が高い。

問1-3. 年齢



問1-3. 年齢

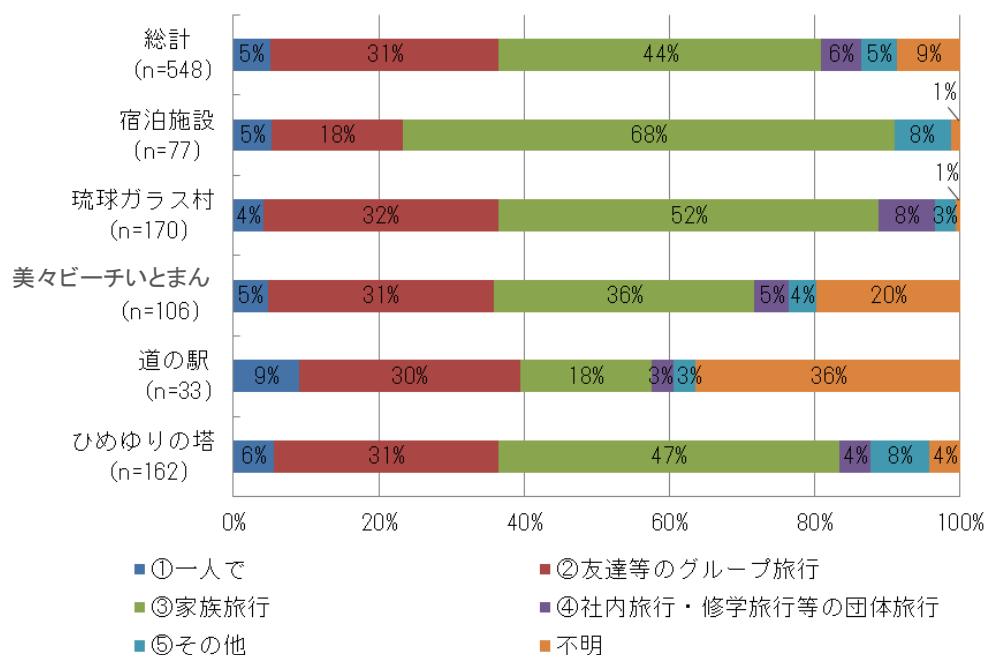


4) 旅行のグループ（構成）

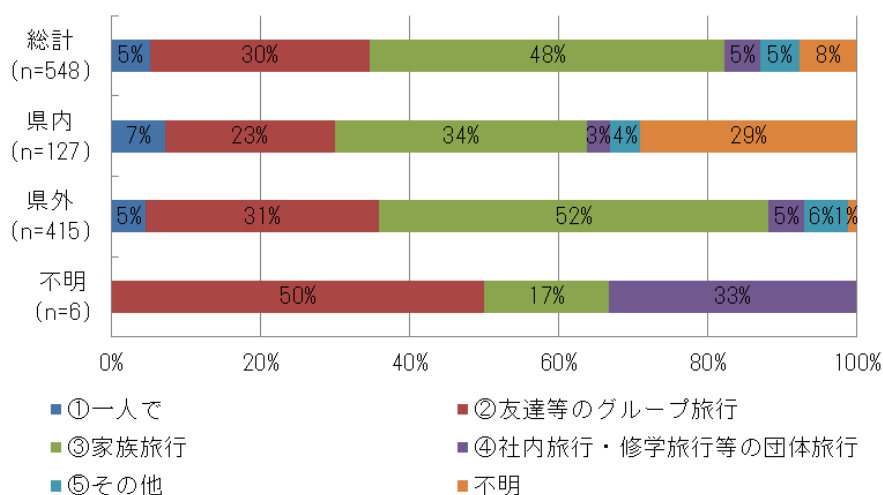
旅行のグループ構成は、「③家族旅行」が44%と最も多く、次いで「②友達等のグループ旅行」が31%となっている。

県内外別でみると、県外の観光客は「③家族旅行」が52%と最も割合が高い。

問2-1. 旅行のグループ（構成）



問2-1. 旅行のグループ（構成）

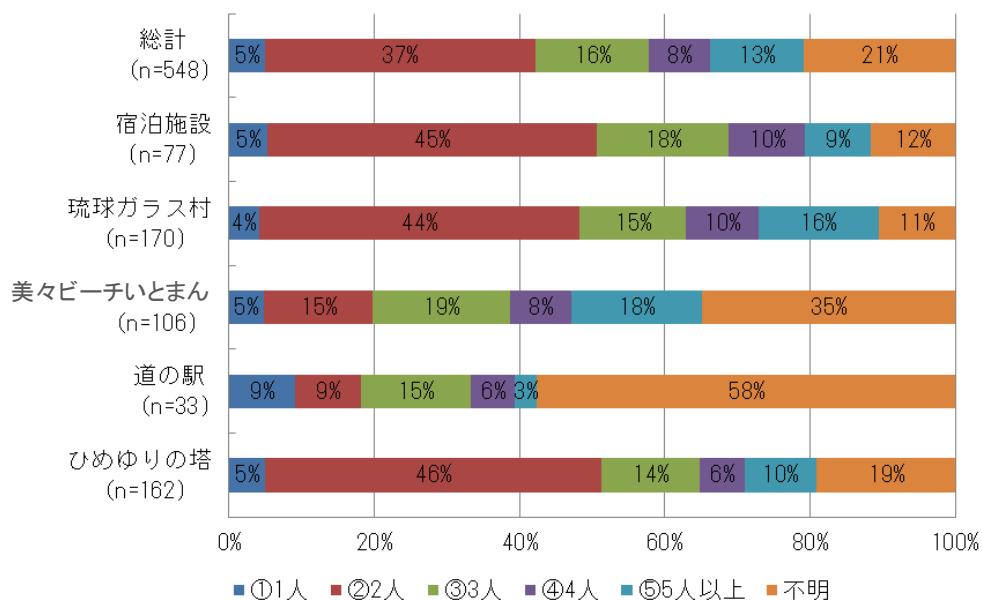


5) 旅行のグループ（人数）

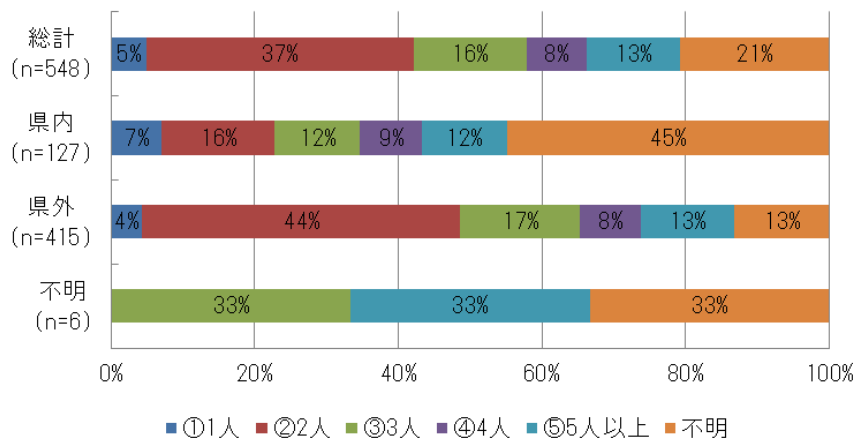
旅行のグループの人数は、「②2人」が37%と最も多く、次いで「③3人」が16%である。「③3人」以下の少人数の旅行グループが58%と約6割を占めている。

県外の観光客は「③3人」以下のグループが65%と多くの割合を占めている。

問2-1. 旅行のグループ（人数）



問2-1. 旅行のグループ（人数）

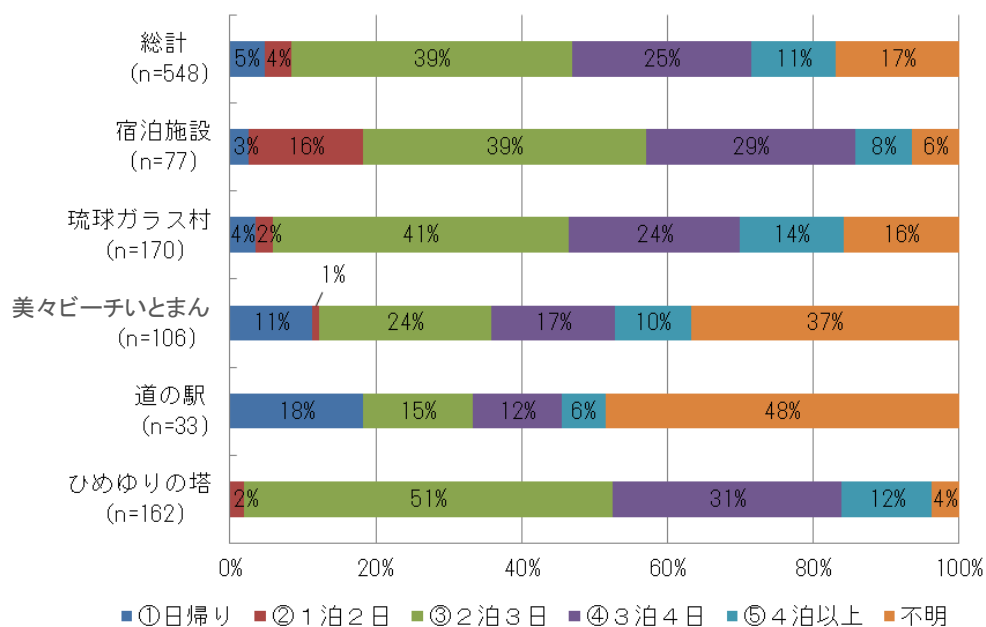


6) 旅行の日程

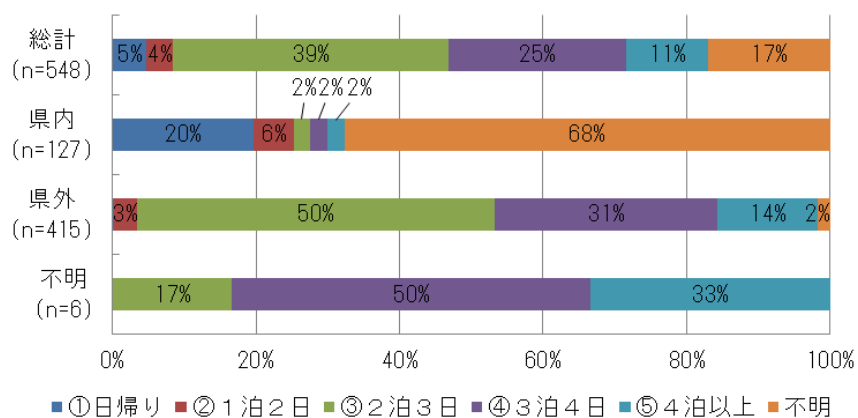
旅行の日程は、「③ 2泊3日」が39%と最も多く、次いで「④ 3泊4日」が25%となっている。

県外観光客の旅行日程は、「④ 3泊4日」が50%と最も多く、次いで「③ 2泊3日」が17%である。また、「④ 4泊以上」と回答した長期滞在の旅行者は33%である。

問2-2. 旅行の日程



問2-2. 旅行の日程

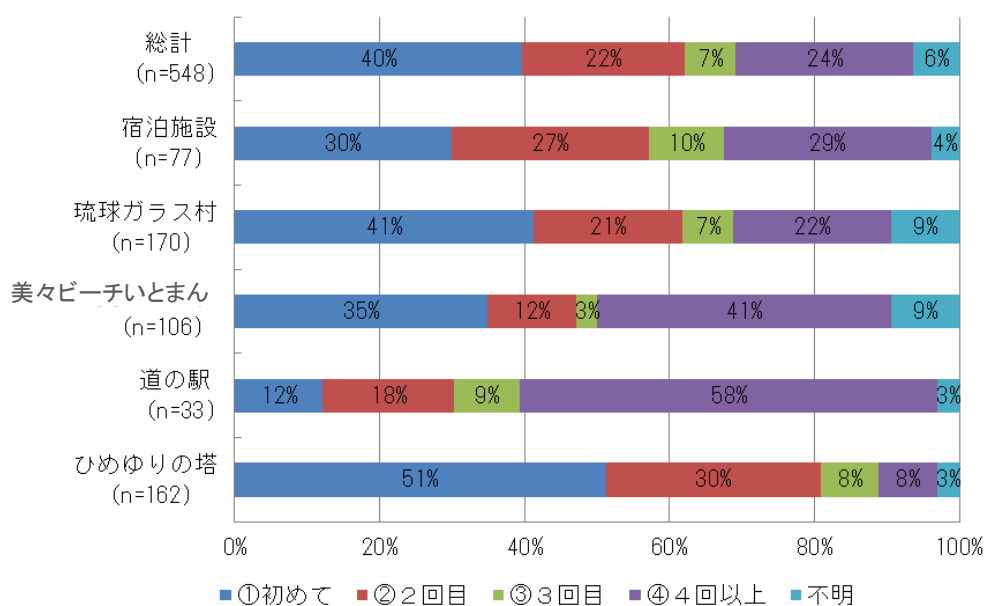


7) 糸満市に訪れた回数

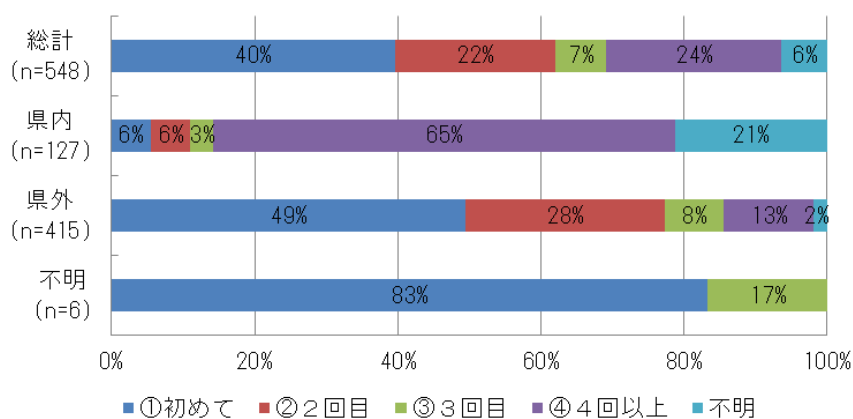
糸満市に訪れた回数は、「①初めて」が40%と最も多く、次いで「④4回以上」が24%、「②2回目」が22%となっている。

県外観光客は「①初めて」が49%と最も多く、次いで「②2回目」が28%である。また、「③3回」以上のリピーターは21%である。

問3. 糸満市に訪れた回数



問3. 糸満市に訪れた回数



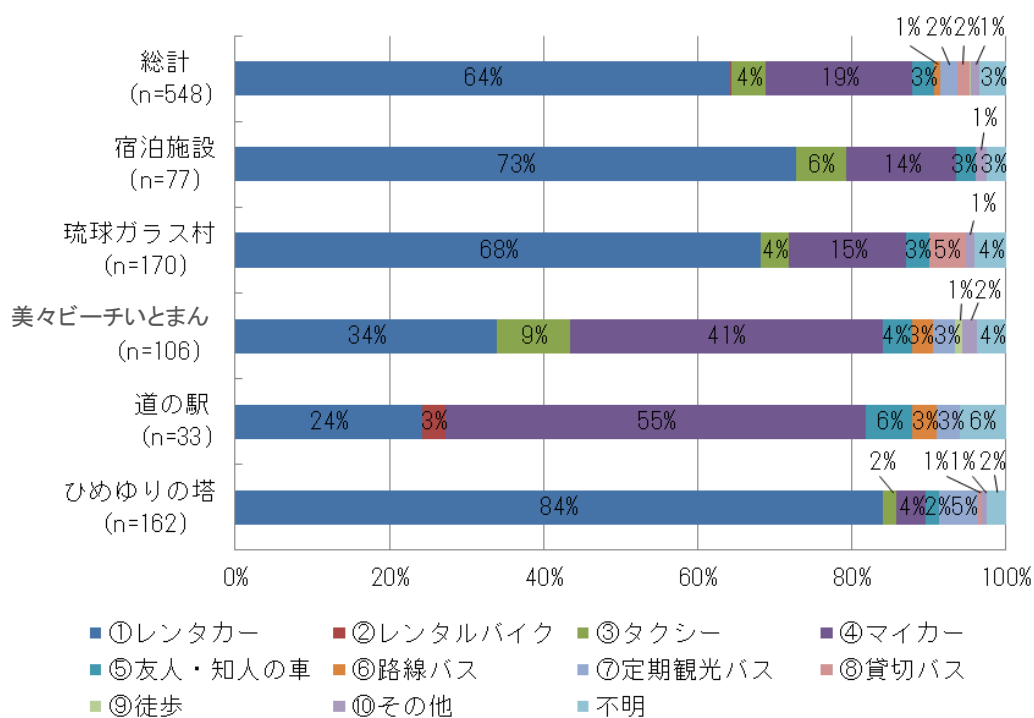
8) 移動手段

移動手段は、「レンタカー」が64%、「マイカー」が19%になっている。また。「路線バス」は1%である。

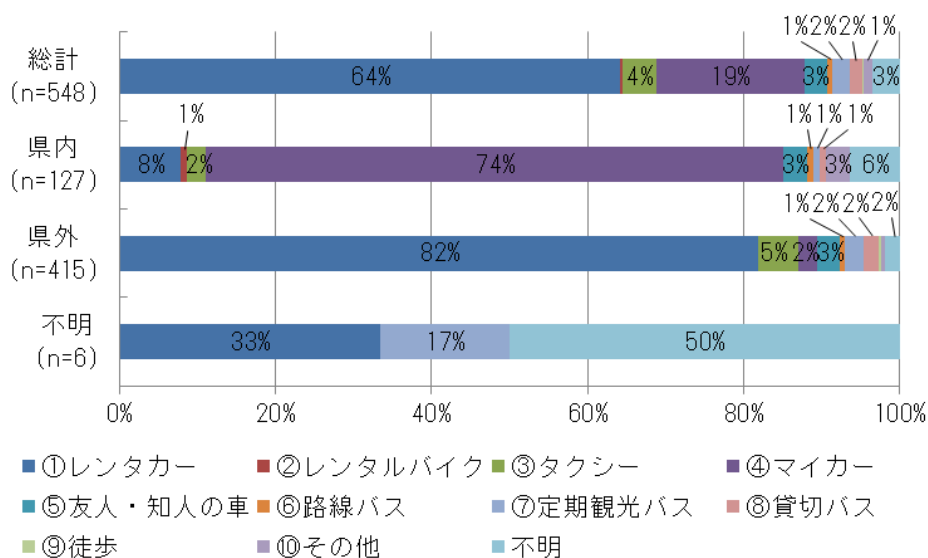
県内外別でみると、県外の観光客は「レンタカー」が82%と最も多く、県内の観光客は「マイカー」が74%と最も多い。

観光地別でみると、「ひめゆりの塔」と「琉球ガラス村」は「レンタカー」の割合が最も高く、「道の駅」と「美々ビーチいとまん」は「マイカー」の割合が最も高い。

問4. 移動手段



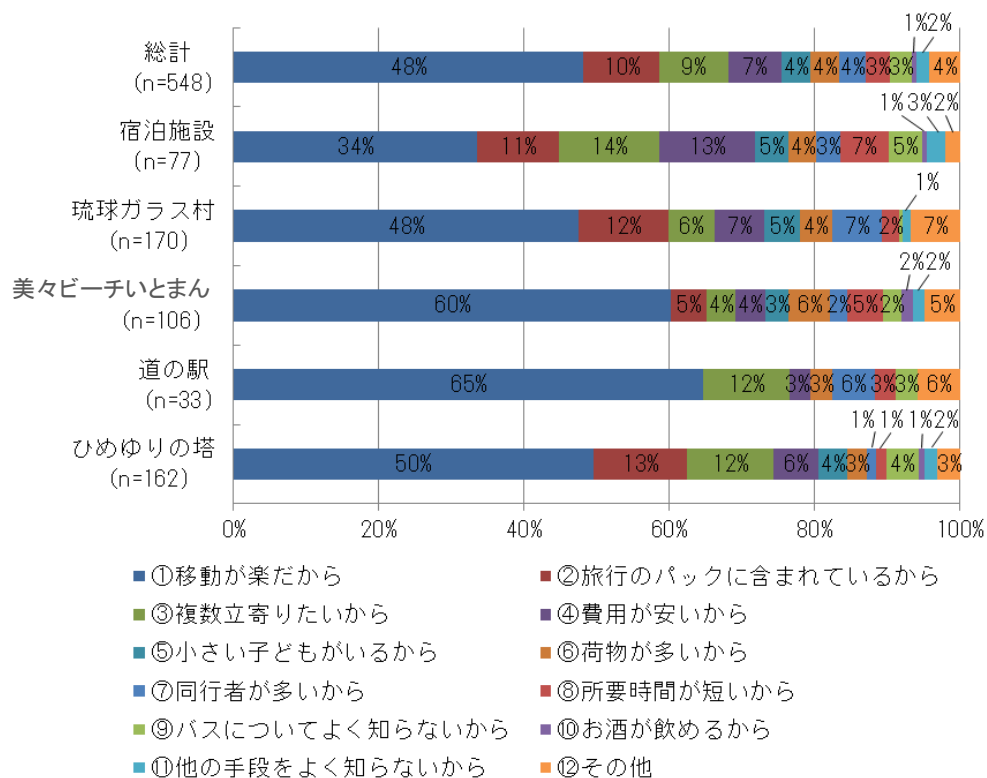
問4. 移動手段



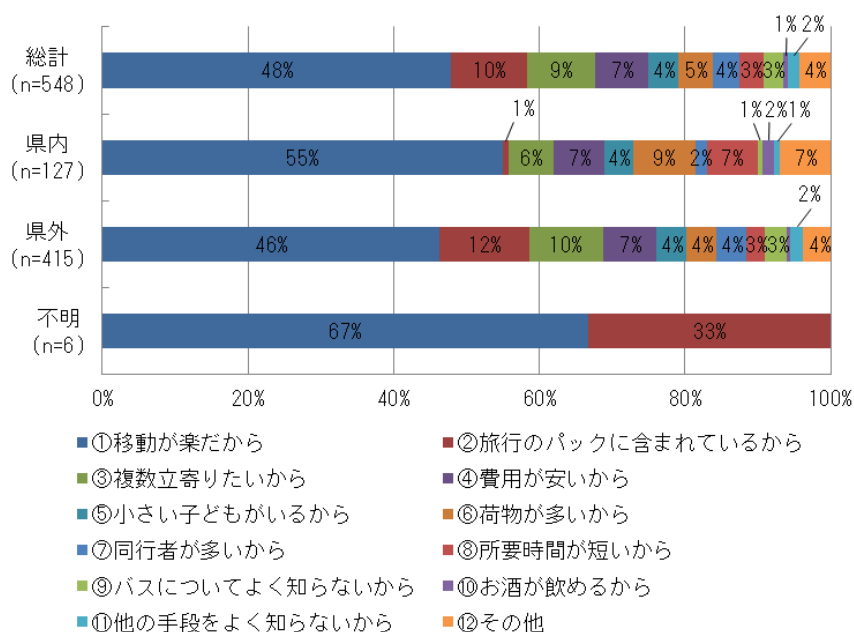
9) 理由

移動手段の選択理由は、どの観光地でも「①移動が楽だから」が最も多い。
 県外観光客は、「①移動が楽だから」が46%と最も多いが、次いで「②旅行のパックに含まれているから」で12%を占めている。

問4. 理由



問4. 理由

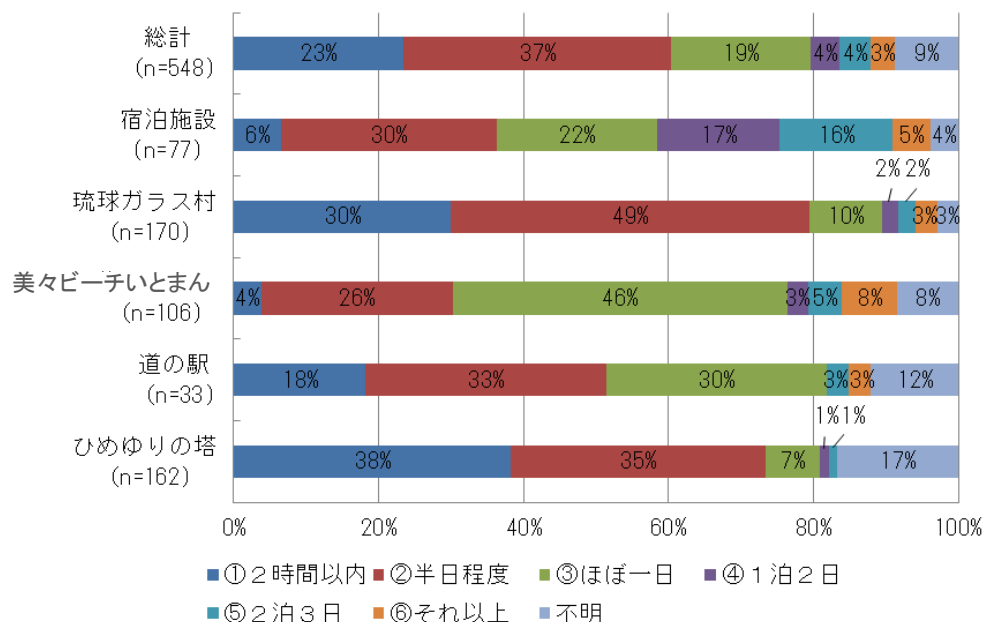


10) 滞在時間

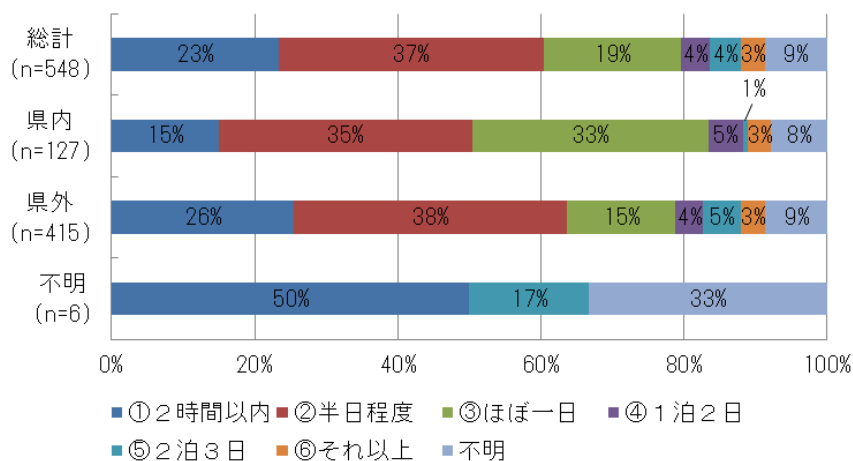
滞在時間は、「②半日程度」が37%と最も多く、次いで「①2時間以内」が23%である。「①2時間以内」及び「②半日程度」の合計が60%を占めている。

県内外別では、どちらも「②半日程度」が最も多い。

問4. 滞在時間



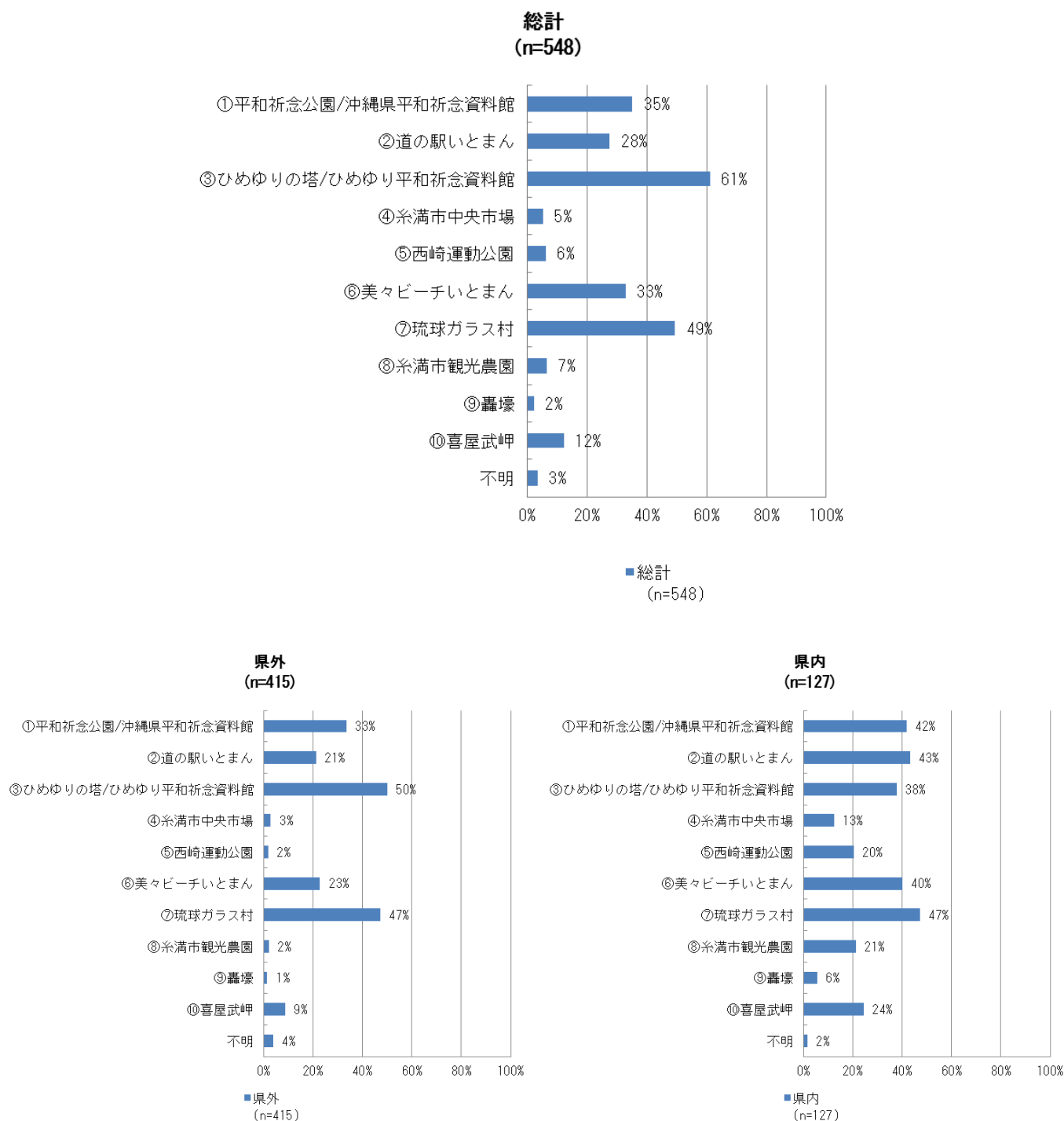
問4. 滞在時間



1 1) 糸満市内の目的地

糸満市内の目的地は、「③ひめゆりの塔/ひめゆり平和祈念資料館」が 61%と最も多く、次いで「⑦琉球ガラス村」が 49%、「①平和祈念公園/沖縄県平和祈念資料館」が 35%となっている。

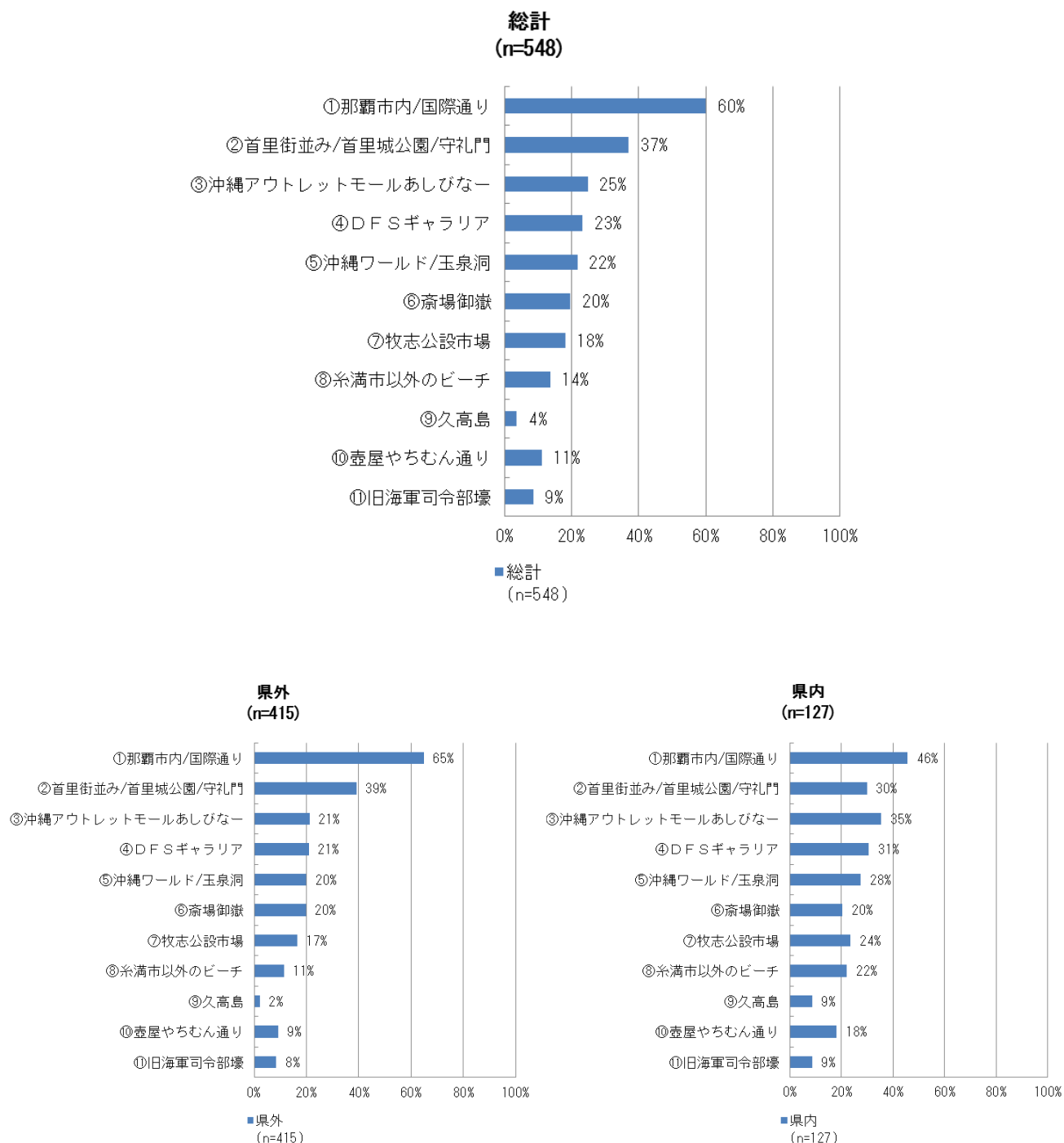
県外観光客の約半数は「③ひめゆりの塔/ひめゆり平和祈念資料館」と「⑦琉球ガラス村」を訪れている。



12) 沖縄県南部地域の目的地

南部地域の目的地は、「①那覇市内/国際通り」が60%と最も多く、次いで「②首里街並み/首里城公園/守礼門」が37%、「③沖縄アウトレットモールあしびなー」が25%となっている。

県内と県外のどちらの観光客も「①那覇市内/国際通り」が最も多い。

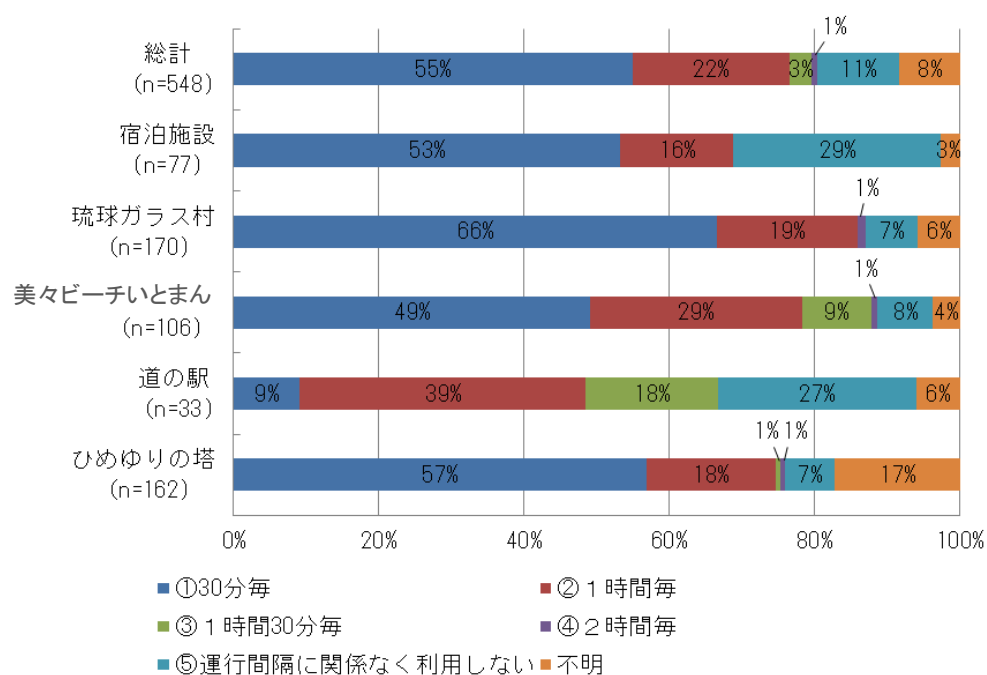


1 3) 運行間隔

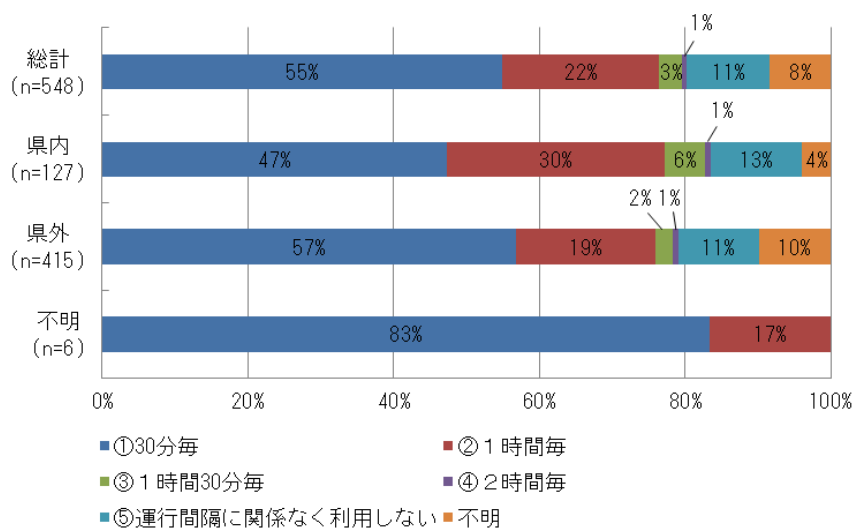
運行間隔は、「①30分毎」が55%と最も多く、短い運行間隔が望まれている。また、1時間毎の運行（「②1時間毎」～「⑤運行間隔に関係なく利用しない」の合計）は37%が利用すると回答している。特に、県内観光客の多い「道の駅」では、「⑤運行間隔に関係なく利用しない」と回答が27%と多い。

県内外別にみると、県内の観光客より県外の観光客の方が短い運行間隔を望んでいる。

問5. 運行間隔



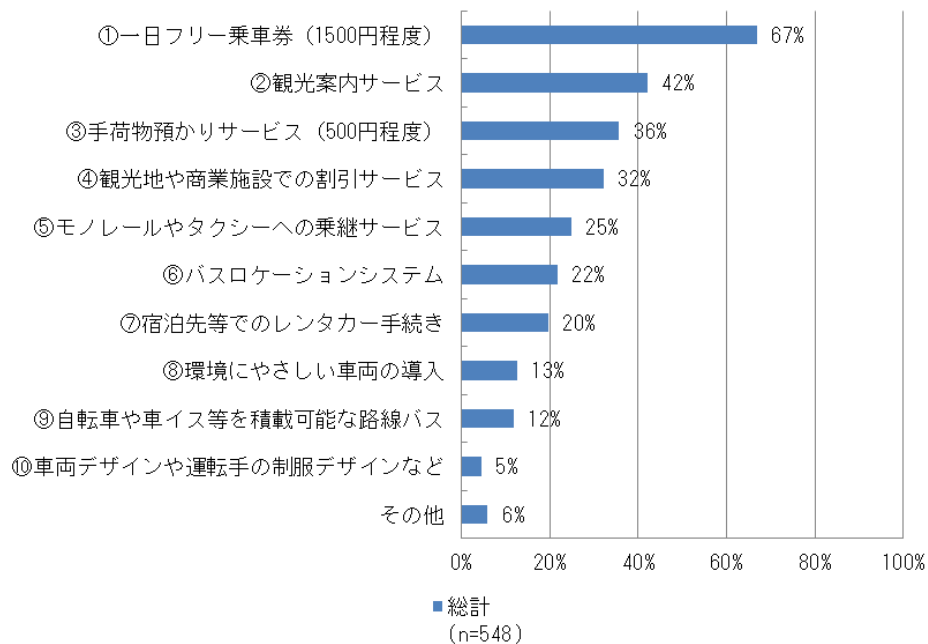
問5. 運行間隔



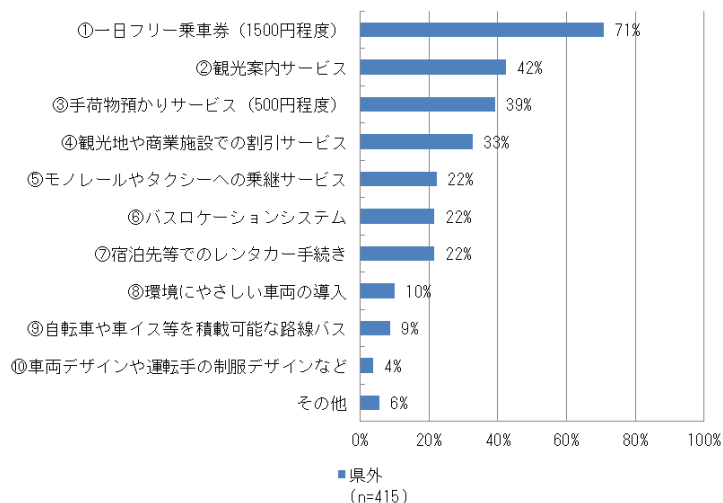
14) サービス

利用促進に向けてサービスは、「①一日フリー乗車券(1500円程度)」が67%と最も多く、次いで「②観光案内サービス」が42%、「③手荷物預かりサービス(500円程度)」が36%となっている。

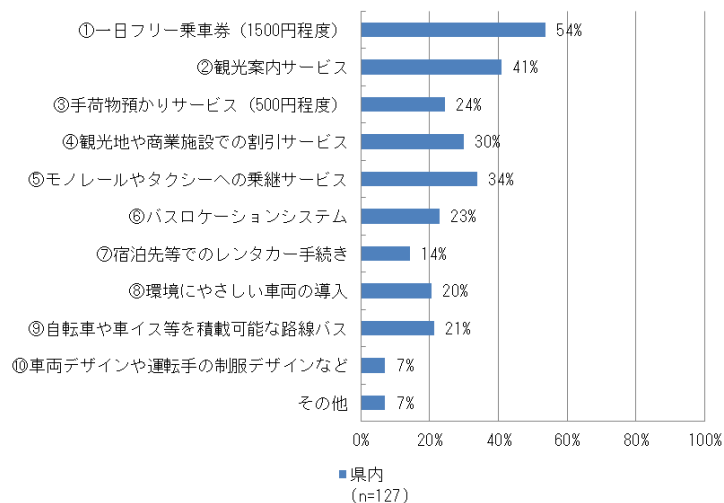
総計
(n=548)



県外
(n=415)



県内
(n=127)



4. 運行計画

4-1. 利用者像（ターゲット）

新しい公共交通の運行は、沖縄における県外来訪者の主要な交通施設である「那覇空港」と「糸満市」を結び、糸満市南部に点在する観光資源へのアクセス性および周遊性を高めることで、観光客の糸満市内に滞在する時間の増大化を図り、観光による地域活性化を達成させることを目的とする。観光ニーズが多様化し、繰り返し沖縄県に訪れるリピーター観光客や海外から訪れる観光客などへの対応が求められるなか、那覇空港から糸満市への直行バス路線は、沿線施設への経済効果も期待できる。

また、沿線地域住民にとってこの直行バス路線は、糸満市と県の玄関口とをつなぐ幹線路線にも位置付けることができ、市民の公共交通の充実を図る効果も期待できる。幹線となるバス路線を充実させることでバスを利用する機会が増え、既存のバス路線を利用する頻度も高まる。バスに乗ることの習慣を高めることで、既存路線との相乗効果や二酸化炭素の削減に期待することができる。

実証実験のターゲットニーズ

	観光客のニーズ	地域住民のニーズ
①路線	公共交通での観光地間の移動が容易に 目的地まで速く、渋滞の少ないルート 病院・商業施設など、生活施設	
②運行頻度など	観光シーズン、土日の昼間のニーズ	平日の朝夕通勤・通学のニーズ
③運賃・料金	運賃・料金は安いほど利用しやすい 分かり易い運賃・料金体系	
④情報提供	初めての利用者や外国人観光客にも 分かり易いしやすい経路案内・乗り換え案内 環境負荷の低減、渋滞緩和などへの効果周知	

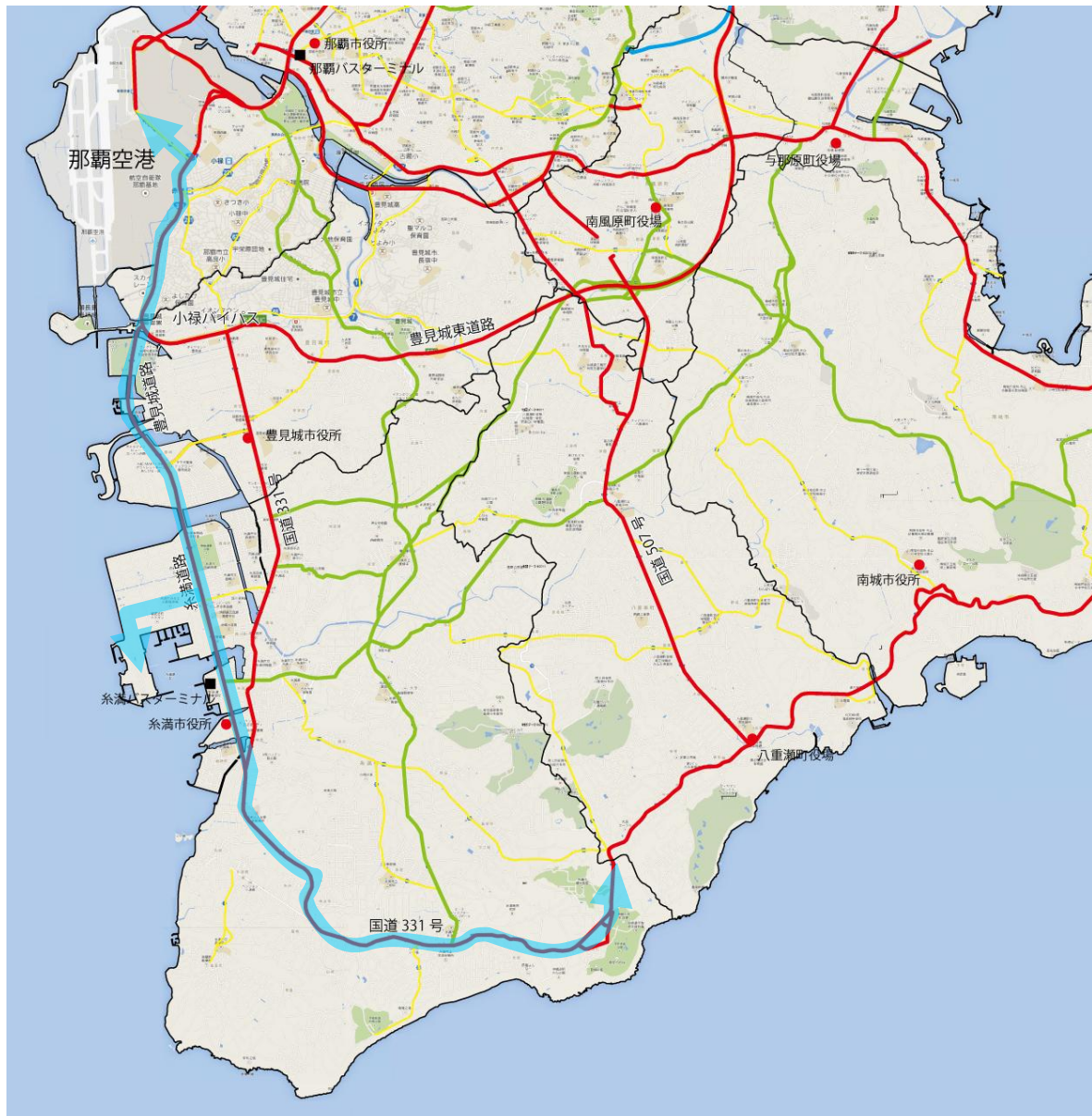
4-2. 運行計画

(1) 運行ルート設定の考え方

運行ルートは、次の考え方にに基づき設定した。

- ①那覇空港～糸満市街は、速達性を求め国道 331 号のバイパスである豊見城道路と糸満道路を利用する。
- ②糸満市南部の主要観光施設の周遊性を高め糸満中心部へのアクセス性を強化するため、国道 331 号を利用する。

運行ルート



糸満～那覇空港直行バス路線運行計画（案）

3月～12月の毎日
日本
時～午後8時（那覇空港を基準）
フリー乗車券 1,500 円を検討）
観光農園（約70分）：790 円程度
駅いとまん（約30分）：490 円程度

凡例

- 運行ルート
- バス停

※バス停名は仮称です

0 2 4km

例2 那覇空港→道の駅いとまん（約30分）：490円程度



(2) バス停位置

【名称（仮称）】那覇空港 国内線ターミナル

【概要】既設の「那覇空港国内線路線バス乗り場」を利用する。

【周辺施設】那覇空港（国内線旅客ターミナルビル）、沖縄都市モノレール「那覇空港駅」

【現況写真】

○那覇空港⇒糸満観光農園、糸満観光農園⇒那覇空港（同一乗場）



【設置位置図】



【名称（仮称）】那覇空港 国際線ターミナル

【概要】「那覇空港国際線路線バス乗り場」を利用する。

【周辺施設】那覇空港（新 国際旅客ターミナルビル（平成 26 年 2 月供用開始））、
沖縄都市モノレール「那覇空港駅」

【現況写真】

○那覇空港⇒糸満観光農園、糸満観光農園⇒那覇空港（同一乗場）



【設置位置図】



【名称（仮称）】西崎運動公園前

【概要】既設の「西崎運動公園前」バス停を利用する。

【周辺施設】西崎運動公園、県営西崎団地等

【現況写真】

○那覇空港⇒糸満観光農園



○糸満観光農園⇒那覇空港



【設置位置図】



【名称（仮称）】道の駅いとまん前

【概要】「道の駅いとまん」敷地内に仮設バス停を設置する。

【周辺施設】糸満市物産センター、ファーマーズマーケットいとまん、糸満漁港協同組合 お魚センター 等

【現況写真】

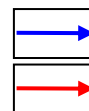
○那覇空港⇒糸満観光農園、糸満観光農園⇒那覇空港（同一乗場）



【設置位置図】



凡例



糸満観光農園⇒那覇空港



那覇空港⇒糸満観光農園

【名称（仮称）】サザンビーチホテル前

【概要】「サザンビーチホテル」敷地内に仮設バス停を設置する。

【周辺施設】サザンビーチホテル、美々ビーチいとまん

【現況写真】

○那覇空港⇒糸満観光農園、糸満観光農園⇒那覇空港（同一乗場）



【設置位置図】



【名称（仮称）】糸満市役所前

【概要】既設の「糸満市役所前」バス停を利用する。

【周辺施設】糸満市役所、サンエーしおぎシティ

【現況写真】

○那覇空港⇒糸満観光農園



○糸満観光農園⇒那覇空港



【設置位置図】



【名称（仮称）】真栄里入口

【概要】既設の「真栄里入口」バス停を利用する。

【周辺施設】糸満市立中央図書館、（あるつく糸満 字真栄里コース）

【現況写真】

○那覇空港⇒糸満観光農園



○糸満観光農園⇒那覇空港



【設置位置図】



【名称（仮称）】南部病院前

【概要】既設の「南部病院前」バス停を利用する。

【周辺施設】南部病院、糸満市社会福祉センター

【現況写真】

○那覇空港⇒糸満観光農園



○糸満観光農園⇒那覇空港



【設置位置図】



【名称（仮称）】琉球ガラス村前

【概要】「琉球ガラス村」敷地内に仮設バス停を設置する。

【周辺施設】琉球ガラス村

【現況写真】

○那覇空港⇒糸満観光農園、糸満観光農園⇒那覇空港（同一乗場）



【設置位置図】



【名称（仮称）】ひめゆりの塔前

【概要】既設の「ひめゆりの塔前」バス停を利用する。

【周辺施設】ひめゆり祈念資料館 等

【現況写真】

○那覇空港⇒糸満観光農園



○糸満観光農園⇒那覇空港



【設置位置図】



【名称（仮称）】米須

【概要】既設の「米須」バス停を利用する。

【周辺施設】（米須村丸ごと生活博物館）

【現況写真】

○那覇空港⇒糸満観光農園



○糸満観光農園⇒那覇空港



【設置位置図】





【名称（仮称）】糸満観光農園前

【概要】「糸満観光農園」敷地内に仮設バス停を設置する。

※ 開園時間（9 時～18 時）以外は乗入れない。

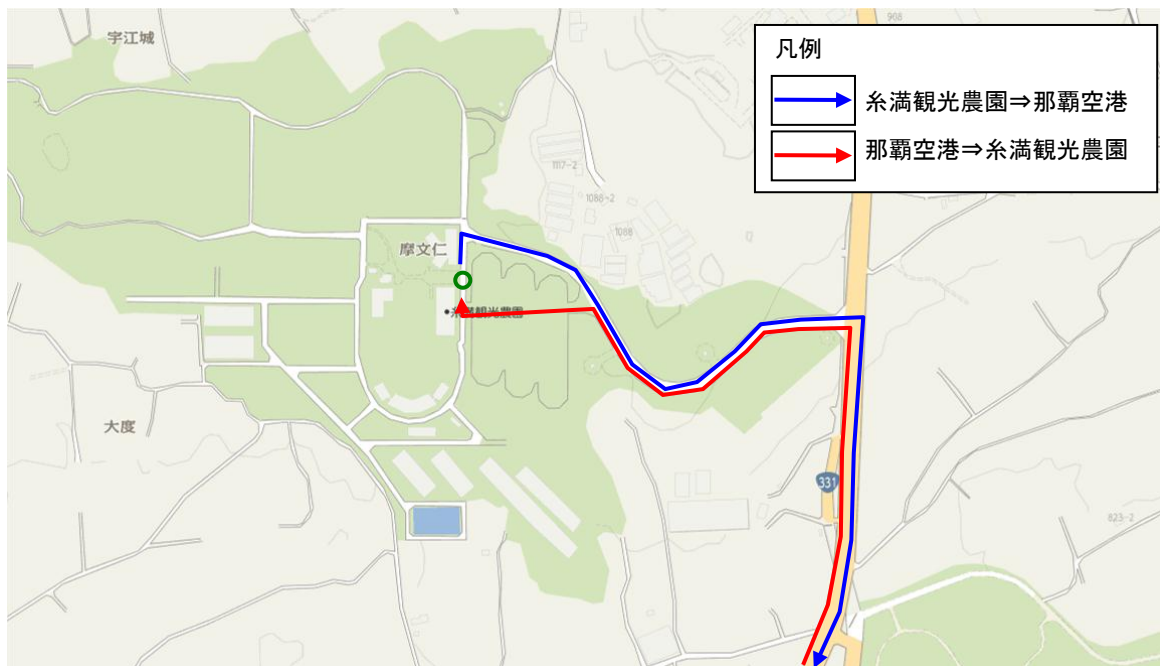
【周辺施設】糸満観光農園

【現況写真】

○那覇空港⇒糸満観光農園、糸満観光農園⇒那覇空港（同一乗場）



【設置位置図】



参考：その他のバス停候補地

【名称（仮称）】 赤嶺駅前

【概要】 糸満市方面から「赤嶺駅」に向かう際、赤嶺交差点は交通量が多く、右折に時間を要する。そのため「赤嶺駅」を経由するよりも「那覇空港駅」に直接向かう場合の方が時間ロスが少ない事が想定される。

また、国道 331 号沿いにバス停を設置した場合、歩行者にとっては、5 分程度（約 400m）歩かなければ「赤嶺駅」に到着しないことから、利用者にとって時間ロスは大きい。

加えて、「那覇空港駅」「赤嶺駅」から他の駅へは、同一料金の区間が多く、料金差が発生する場合でも最大 40 円であることから、利用者にとって料金的負担は大きくないと考えられる。

【周辺施設】 沖縄都市モノレール「赤嶺駅」等

【現況写真】

○那覇空港⇒糸満観光農園



○糸満観光農園⇒那覇空港



【設置位置図】



【名称（仮称）】 アウトレットモール前

【概要】 アウトレットモール「あしびなー」を経由する場合、国道 331 号バイパスの構造上、遠回りをしなければならない。また、周辺には「豊崎レンタカーステーション」があり、観光シーズンはバイパスの出入口などで渋滞が発生することから、時間的ロスが大きい。（ヒアリングによると、渋滞により路線バスの時刻が 30 分以上遅延する場合もある。）

加えて、「あしびなー」を経由する場合、既存バス路線 95 番（那覇バス）と、路線が重複するが、95 番は不採算路線であることもあり、関係部局と負担金について協議が必要となる。

【周辺施設】 沖縄アウトレットモール「あしびなー」、豊崎レンタカーステーション等

【現況写真】



【設置位置図】



(3) 運行日

糸満市～那覇空港直行バスは、観光客の利用を中心に地域住民も利用できる公共交通機関として、平日・休日問わず需要が発生する見込みがあるため、平日・休日ともに運行する。

実証実験は、平成 26 年度に運行することを目標に、準備期間や実証実験結果の取りまとめ等を考慮し、運行期間は、平成 26 年 8 月～12 月の 5 ヶ月間とする。

糸満市～那覇空港直行バス 運行日（案）

- 運行日は、「平日・休日」とも運行する。
- 実証実験の運行期間は、8 月～12 月の 5 ヶ月間とする。

実証実験期間中（8 月～12 月）の糸満市内主要イベント

8 月

○獅子舞・エイサー・角力（沖縄すもう）

旧暦 7 月 15 日・旧盆

会場／市内各地域

9 月

○糸満大綱引き

旧暦 8 月 15 日

会場／国道 331 号（白銀堂～糸満ロータリー間）

○真栄里大綱引

旧暦 8 月 16 日

会場／真栄里メーチ広場

10 月

○南部豊かな海づくり大会

会場／沖縄県水産公社（糸満漁港 北区）

12 月

○平和の光・ピースフルイルミネーション（平和の光事業）

会場／糸満観光農園

(4) 運行間隔及び運行時間帯

那覇空港直行路線バスの運行間隔は、観光に必要な運行間隔として、1時間に1本を基本とする。また、運行時間帯は那覇空港発着便及び観光施設の運営時間帯から、午前8時～午後8時とする。

糸満市～那覇空港直行バス 運行間隔及び運行時間帯（案）

○運行間隔は「1時間に1本」を基本とする。

○運行時間帯は、那覇空港を基準に午前8時～午後8時とする。

※運行間隔及び運行時間帯は、実証実験において利用者ニーズや交通状況等を踏まえ、見直す場合もある。

糸満市～那覇空港直行バス 運行ダイヤ（案）

【下り】	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
国内線	8:30	9:30	10:30	11:30	12:30	13:30	14:30	15:30	16:30	17:30	18:30	19:30
国際線	8:31	9:31	10:31	11:31	12:31	13:31	14:31	15:31	16:31	17:31	18:31	19:31
西崎運動公園前	9:04	10:04	11:04	11:54	12:54	13:54	14:54	16:04	17:04	18:04	19:04	20:04
道の駅いとまん	9:09	10:09	11:09	11:59	12:59	13:59	14:59	16:09	17:09	18:09	19:09	20:09
サザンビーチホテル	9:11	10:11	11:11	12:01	13:01	14:01	15:01	16:11	17:11	18:11	19:11	20:11
美々ビーチいとまん	9:12	10:12	11:12	12:02	13:02	14:02	15:02	16:12	17:12	18:12	19:12	20:12
道の駅いとまん	9:14	10:14	11:14	12:04	13:04	14:04	15:04	16:14	17:14	18:14	19:14	20:14
糸満漁港入口	9:17	10:17	11:17	12:07	13:07	14:07	15:07	16:17	17:17	18:17	19:17	20:17
糸満市役所前	9:19	10:19	11:19	12:09	13:09	14:09	15:09	16:19	17:19	18:19	19:19	20:19
真栄里入口	9:29	10:29	11:29	12:19	13:19	14:19	15:19	16:29	17:29	18:29	19:29	20:29
南部病院前	9:30	10:30	11:30	12:20	13:20	14:20	15:20	16:30	17:30	18:30	19:30	20:30
琉球ガラス村	9:35	10:35	11:35	12:25	13:25	14:25	15:25	16:35	17:35	18:35	19:35	20:35
ひめゆりの塔	9:39	10:39	11:39	12:29	13:29	14:29	15:29	16:39	17:39	18:39	19:39	20:39
米須	9:41	10:41	11:41	12:31	13:31	14:31	15:31	16:41	17:41	18:41	19:41	20:41
平和祈念堂入口	9:46	10:46	11:46	12:36	13:36	14:36	15:36	16:46	17:46	18:46	19:46	20:46
糸満観光農園	9:50	10:50	11:50	12:40	13:40	14:40	15:40	16:50	17:50	—	—	—

【上り】	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
糸満観光農園	—	—	—	9:40	10:40	11:40	12:40	13:40	14:40	15:40	16:40	17:40
平和祈念堂入口	6:44	7:44	8:44	9:44	10:44	11:44	12:44	13:44	14:44	15:44	16:44	17:44
米須	6:49	7:49	8:49	9:49	10:49	11:49	12:49	13:49	14:49	15:49	16:49	17:49
ひめゆりの塔	6:51	7:51	8:51	9:51	10:51	11:51	12:51	13:51	14:51	15:51	16:51	17:51
琉球ガラス村	6:55	7:55	8:55	9:55	10:55	11:55	12:55	13:55	14:55	15:55	16:55	17:55
南部病院前	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
真栄里入口	7:01	8:01	9:01	10:01	11:01	12:01	13:01	14:01	15:01	16:01	17:01	18:01
糸満市役所前	7:11	8:11	9:11	10:11	11:11	12:11	13:11	14:11	15:11	16:11	17:11	18:11
糸満漁港入口	7:13	8:13	9:13	10:13	11:13	12:13	13:13	14:13	15:13	16:13	17:13	18:13
道の駅いとまん	7:16	8:16	9:16	10:16	11:16	12:16	13:16	14:16	15:16	16:16	17:16	18:16
美々ビーチいとまん	7:18	8:18	9:18	10:18	11:18	12:18	13:18	14:18	15:18	16:18	17:18	18:18
サザンビーチホテル	7:19	8:19	9:19	10:19	11:19	12:19	13:19	14:19	15:19	16:19	17:19	18:19
道の駅いとまん	7:21	8:21	9:21	10:21	11:21	12:21	13:21	14:21	15:21	16:21	17:21	18:21
西崎運動公園前	7:26	8:26	9:26	10:26	11:26	12:26	13:26	14:26	15:26	16:26	17:26	18:26
国内線	7:59	8:59	9:59	10:49	11:49	12:49	13:49	14:59	15:59	16:59	17:59	18:59
国際線	8:00	9:00	10:00	10:50	11:50	12:50	13:50	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00

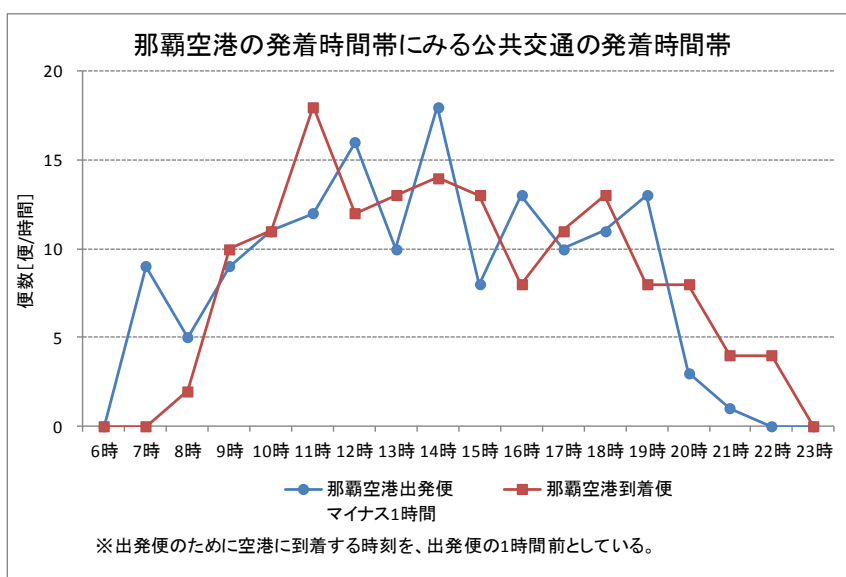
参考：関連施設等の時間帯

①空港の出発到着分布

那覇空港の時間別発着便数により、望ましい運行時間帯をみると、9時～20時に発着便が多くなってきている。なお、出発便は空港への到着を出発時刻の1時間前と考え算出。

那覇空港発着便からみた那覇空港直行路線の運行時間帯は、那覇空港を基準として8時～20時が望ましいと考えられる。

[便数]		
	那覇空港出発便 マイナス1時間	那覇空港到着便
6時	0	0
7時	9	0
8時	5	2
9時	9	10
10時	11	11
11時	12	18
12時	16	12
13時	10	13
14時	18	14
15時	8	13
16時	13	8
17時	10	11
18時	11	13
19時	13	8
20時	3	8
21時	1	4
22時	0	4
23時	0	0
計	149	149



※2013年9月のスケジュール

図 那覇空港の時間帯別発着便数

②観光地の見学時間

観光地の見学時間は下表となっており、8時～20時までの運行時間であれば、主要観光施設へのアクセスに観光客が利用できる。

施設名	営業時間	平均所要時間
糸満市 物産センター	10:00～20:00	60分
琉球ガラス村	9:00～18:00	60分
ひめゆり平和 祈念資料館	9:00～17:00	60分
平和祈念資料館	9:00～17:00	50分
糸満観光農園 (レストラン)	9:00～18:00 (11:30～18:00)	60分

※平均所要時間は観光バスツアーのスケジュールおよび糸満市ホームページより作成

(5) 料金

運賃は、当該地域を運行している既存路線バスの運賃を踏まえ、距離制による料金体系とする。また、一日フリー乗車券は、他の交通手段の料金等を踏まえ、1,500 円程度とする。

糸満市～那覇空港直行バス運賃（案）

○運賃は「対キロ区間制」を基本とする。

- ・那覇空港～糸満観光農園：790 円
- ・那覇空港～道の駅いとまん：490 円

○一日フリー乗車券は、1,500 円程度とする。

※運行ルートの一部変更により、料金変更の可能性あり

推定運賃（増税後）

国内線											
国際線											230
西崎運動公園前											390
道の駅いとまん											490
サザンビーチホテル											490
道の駅いとまん											490
糸満漁港入口											520
糸満市役所前											580
真栄里入口											600
南部病院前											650
琉球ガラス村											680
ひめゆりの塔											680
米須											710
平和祈念堂入口											790
糸満観光農園											790

（６）車両

実証実験において利用する車両は、バス事業者からのリースを想定し、中型バス（25～28人乗り程度）とする。今後、本格運行に移行した段階で、専用車両の購入等を検討する。

また、車両の利便性を高めるため、車両デザイン・愛称の検討、車内での観光案内、公衆無線 LAN（Wi-Fi）接続サービスの実施を行う。

①車両デザイン・愛称

- ・糸満市の観光イメージにあった愛称とバス車体のデザインを新たに施す。
- ・利用者に親しみや愛着を持ってもらおうと伴に、バスが運行されていることを広く周知されるようなデザインとする。

②観光案内

- ・車内では、音声だけでなく観光案内映像も流し、糸満市の魅力や観光施設の情報を伝える。
- ・アナウンス及びサインは、外国人観光客のためにも多言語（日本語、英語、韓国語、中国語（繁体字・簡体字））とする。

③公衆無線 LAN（Wi-Fi）接続サービス

- ・国内外の観光客のニーズに応えるために、車内での公衆無線 LAN（Wi-Fi）接続サービスを提供する。

▼玉泉洞糸満線（中型バス）



▼那覇市「ゆいゆい号」（中型バス）



(7) 既存路線への影響

1) 玉泉洞糸満線

「玉泉洞糸満線」は向陽高校への通学利用が多い路線である。「糸満市～那覇空港直行バス」と路線が重複するものの、重複するバス停は、「糸満市役所」「真栄里入口」「南部病院前」「ひめゆりの塔前」「米須」「平和祈念堂入口」の6箇所である。

また、平成25年度糸満市バス対策会議資料によると、重複するバス停での目的地とする利用者（降車数）は、「下り・玉泉洞向け」で18人/86人「上り・糸満向け」で15人/63人とである。乗車・降車の状況から、玉泉洞糸満線への影響は限定的であると考えられる。

▼玉泉洞糸満線の乗降者数（平成25年6月13日）

下り・玉泉洞向け	輸送人員	
	乗車	降車
糸満バスターミナル	6.0	
糸満市役所入口	3.0	
糸満市場入口	11.0	
糸満ロータリー	6.0	
糸満市場前	3.0	
潮崎二丁目		1.0
糸満市役所前		
潮崎入口		
双子橋	1.0	
双子橋	11.0	
糸満郵便局前	1.0	1.0
真栄里入口	1.0	
南部病院前	1.0	3.0
名城		
小波蔵		1.0
糸洲		1.0
波平入口	6.0	1.0
山城入口		1.0
伊原入口		1.0
伊原		
ひめゆりの塔前	4.0	2.0
米須入口	1.0	1.0
米須農協前		2.0
米須	5.0	2.0
大度		4.0
晴明病院前		6.0
摩文仁ファミリー		
みなみの里前		2.0
健児の塔入口		
平和祈念堂入口	8.0	11.0
ひめゆりパーク		1.0
仲座	1.0	1.0
与座		1.0
安里	1.0	1.0
坡名城	1.0	
坡名城入口	1.0	
具志頭	12.0	1.0
具志頭売店前	2.0	2.0
具志頭ドライブイン		2.0
向陽高校前		20.0
港川		6.0
魚市場前		
長毛		4.0
公民館前		1.0
長毛東口		
玉泉洞前		6.0
計	86.0	86.0

上り・糸満向け	輸送人員	
	乗車	降車
玉泉洞前	2.0	
長毛東口		
公民館前		1.0
長毛	1.0	
魚市場前		
港川		
向陽高校前	29.0	
具志頭ドライブイン	1.0	
具志頭売店前		
具志頭	3.0	
坡名城入口	2.0	1.0
坡名城		
安里		4.0
与座	1.0	1.0
仲座	1.0	1.0
ひめゆりパーク		
平和祈念堂入口	8.0	
健児の塔入口		
みなみの里前		
摩文仁ファミリー	1.0	
晴明病院前	4.0	
大度	1.0	
米須	3.0	5.0
米須農協前		
米須入口		
ひめゆりの塔前	2.0	
伊原		
伊原入口		
山城入口	1.0	1.0
波平入口		
糸洲		
小波蔵		1.0
名城	3.0	
南部病院前		4.0
真栄里入口		6.0
糸満郵便局前		3.0
双子橋		5.0
潮崎入口		
糸満市役所前		
潮崎二丁目		
糸満市場前		
糸満市場前		1.0
糸満ロータリー		4.0
糸満市場入口		10.0
糸満市役所入口		3.0
糸満バスターミナル		12.0
計	63.0	63.0

H25.6.13調査

2) 南部循環線

「南部循環線」は三和地区・高嶺地区から市役所や病院・買い物等、日常生活での利用が多い路線である。「糸満市～那覇空港直行バス」と路線が重複するものの、重複するバス停は、「糸満市役所」「真栄里入口」「南部病院前」「ひめゆりの塔前」「米須」「平和祈念堂入口」の6箇所である。

また、平成25年度糸満市バス対策会議資料によると、重複するバス停での目的地とする利用者（降車数）は、「真壁・喜屋武廻り」で11人/47人「喜屋武・真壁廻り」で4人/35人とである。乗車・降車の状況から、南部循環線への影響は限定的であると考えられる。

▼南部循環線の乗降者数（平成25年6月13日）

真壁・喜屋武廻り	輸送人員	
	乗車	降車
糸満バスターミナル	6.0	
糸満市役所入口	1.0	
潮崎入口		
潮崎二丁目		
糸満市役所前		
糸満市役所入口		
糸満市場入口	5.0	
糸満ロータリー	1.0	
新島	3.0	
糸満小学校前	1.0	
照屋		
照屋入口		
高嶺入口		
大里	3.0	
高嶺小学校前	1.0	3.0
県営新垣団地入口		
新垣		1.0
真栄平		
宇江城	1.0	2.0
真壁入口		1.0
北真壁		
真壁	1.0	1.0
真壁小学校前		
保育所前	1.0	1.0
南真壁	1.0	
米須	1.0	3.0
米須農協前	1.0	
米須入口		1.0
ひめゆりの塔前	1.0	3.0
伊原		
伊原入口		
山城入口		
波平入口	2.0	3.0
糸洲	1.0	
小波蔵	3.0	1.0
喜屋武小学校前	1.0	
喜屋武	3.0	2.0
喜屋武小学校前		
小波蔵	3.0	1.0
名城	2.0	
南部病院前	3.0	3.0
真栄里入口	1.0	1.0
糸満郵便局前		2.0
双子橋		1.0
潮崎入口		
糸満市役所前		1.0
潮崎二丁目		
糸満市場前		1.0
糸満市場前		4.0
糸満ロータリー		4.0
糸満市場入口		3.0
糸満市役所入口		
糸満バスターミナル		4.0
計	47.0	47.0

喜屋武・真壁廻り	輸送人員	
	乗車	降車
糸満バスターミナル	7.0	
糸満市役所入口	1.0	
糸満市場入口	3.0	
糸満ロータリー	1.0	
糸満市場前	1.0	
潮崎二丁目		
糸満市役所前		
潮崎入口		
双子橋	1.0	
双子橋		
糸満郵便局前	1.0	
真栄里入口	5.0	1.0
南部病院前	5.0	1.0
名城		1.0
小波蔵		
喜屋武小学校前		3.0
喜屋武	2.0	4.0
喜屋武小学校前	1.0	
小波蔵		
糸洲		
波平入口		10.0
山城入口		
伊原入口		1.0
伊原		
ひめゆりの塔前		2.0
米須入口		1.0
米須農協前		1.0
米須	2.0	
南真壁		1.0
保育所前		
真壁小学校前		
真壁		
北真壁		
真壁入口		
宇江城	1.0	
真栄平		2.0
新垣		
県営新垣団地入口		
高嶺小学校前	1.0	
大里	3.0	
高嶺入口		
照屋入口		
照屋		
糸満小学校前		3.0
新島		
糸満ロータリー		
糸満市場入口		4.0
糸満市役所入口		
糸満市役所前		
潮崎二丁目		
潮崎入口		
糸満市役所入口		
糸満バスターミナル		
計	35.0	35.0

H25.6.13調査

4－3．利用促進策

（１）観光地滞在の魅力づくり

１）テーマや所要時間別の旅行プランの提案

- ・歴史や食、風景などの糸満市の観光資源をまとめ、テーマ別・所要時間別でめぐる観光プランを設定してアピールする。
- ・各観光資源の見頃の時期、アクセス方法と、めぐるのに適した順番やルート、費用などを記したパンフレット・地図等を提供する。
- ・美しい風景等は、写真の対象となりやすく、ブログやＳＮＳへの掲載などの効果が期待されるので、インターネット等との連携を検討する。
- ・知られていない資源を発掘するほか、魅力を高めるための取組みも必要である。

２）南部地域観光資源のＰＲ

- ・「沖縄ワールド・玉泉洞」や「斎場御嶽」など、他の南部地域の観光資源についても、観光資源の連携を考慮し、必要に応じて積極的なＰＲを行う。

（２）観光交通の利便性の向上

１）観光交通マップ等の作成

- ・那覇市中心部から那覇空港までの交通機関を含め、糸満～那覇空港直行バスの沿線の観光施設、主な区間の所要時間、料金、運行頻度等を掲載した観光交通マップを作成する。
- ・外国人観光客に提供するための多言語（英語、韓国語、簡体字・繁体字）の観光交通マップを作成する。

２）お得な乗車券の販売とわかりやすいＰＲ

- ・「一日フリー乗車券」を利用することで、観光施設の施設入場料割引やお土産の割引が受けることが出来るサービスを実施するとともに、そのようなサービスの存在を観光客に分かりやすく広報する。

３）荷物預かりサービス

- ・「那覇空港」の荷物預かりサービスをＰＲするとともに、「道の駅いとまん」等、各観光施設で荷物預かりサービスを検討する。

4) 利便性の高い車両設備など

①車両デザイン・愛称

- ・利用者に親しみや愛着を持ってもらうと共に、バスが運行されていることを広く周知するために、糸満市の観光イメージにあった愛称を付け、直行バスであることが一目で分かるデザインの車体とする。

②観光案内

- ・車内放送は、例えば「米須地区の紹介」などの観光案内映像を流し、糸満市の魅力や観光施設の情報を伝える。
- ・外国人観光客のために、多言語（英語、韓国語、中国語（繁体字、簡体字））の情報も提供する。

③公衆無線 LAN (Wi-Fi) 接続サービス

- ・外国人観光客からの無料公衆無線 LAN 環境へのニーズは非常に高く、車内での利便性向上を図るため、車内での公衆無線 LAN (Wi-Fi) 接続サービスを実施する。

(3) 広報活動

1) 多様なニーズに対応した情報提供

- ・那覇空港やモノレール駅での広報に加え、那覇市中心部のホテルの集客効果を考慮して、宿泊施設などでの広報を行う。
- ・観光協会、交通事業者、旅行代理店、航空会社、などと連携した PR を実施する。
- ・糸満市への訪れた観光客はリピーターになってもらうとともに、インターネットや口コミによる情報発信を期待する。

2) マスコミの活用

- ・実証実験の取り組みや観光施設の話題（ニュース）は、新聞やテレビ等、マスコミで取り上げてもらうよう「話題づくり」を意識した取り組みを心がける。

（４）他事業との連携

１）観光資源を活かすイベントとの連携

- ・既に多数のイベントが行われているのでそれらの魅力アップを図るとともに、「あ・るっく糸満」や「米須村丸ごと生活博物館」、「平和の光事業」など、既存の観光資源を活かすイベントと連携を検討する。
- ・公共交通で訪れるメリット含めて、他事業との連携が大切である。例えば、食事と併せてお酒が飲めるなど、公共交通独自の特徴を整理する。

２）観光ボランティアの人材の育成（発掘）と活用

- ・糸満市の観光ボランティアの人材の育成事業等と連携し、糸満市～那覇空港直行バスの車内ガイドとして案内を検討する。

（５）その他

１）体験メニュー等の情報及び手配の一元化

- ・体験メニューの情報、ガイドやインストラクターの情報等を一元化し、利用者が希望するものを直接手配するのではなく、希望するものを選んで申し込むとその手配が出来る窓口等、情報および手配の一元化を検討する。

２）外国人観光客の受入態勢の整備

①外国人観光客のための案内の充実

- ・外国人観光客にお薦めの観光スポットの情報、外国人観光客が興味を持ちそうなテーマの情報、周遊する周辺観光地に関する情報をストックしておき、ニーズに応じた情報提供ができるよう準備を行う。

②外国語パンフレット・地図の作成

- ・外国人観光客に提供するための外国語のパンフレット・地図を作成する。
- ・観光対象へのアクセス、見学に要する時間、料金など実用性のある情報を掲載する。

③外国語案内サインの整備

- ・主要な観光地点、観光ルート上の主要な地点、バス停などに外国語表記の簡易案内サインを整備する。

5. 事業収支

5-1. 実証実験運行経費の試算

実証実験（運行期間 5 ヶ月）では、以下の経費が想定される。

ただし、本格運行を開始する際の経費は「1. (1) 運行経費」程度となる。

表 平成 26 年実証実験運行経費

項 目	概 要	金 額 (円)
1. 糸満市～那覇空港直行バス運行経費 (1) 運行経費 (2) 施設整備費	・バス運行経費（153 日＋1 日） ・車両・設備等リース ・車両改造費 ・車両デザイン費 ・仮設バス停設置費 ・バス停サイン ・一日フリー乗車券印刷費	27,709,035 ※内運行経費 18,854,035
2. 観光プログラム企画・提案 (1) 観光プログラムの企画等 (2) ボランティアガイドの養成 (3) 関連施設との連携	・観光プログラム企画 ・ボランティアガイド養成・人件費 ・ガイド資料印刷費 ・関連施設との連携	6,542,075
3. プロモーション活動等 (1) ポスター・チラシデザイン製作 (2) WEB サイト、PR 動画製作 (3) 県外旅行イベント等への参加	・ポスター・チラシ印刷費 ・県外旅行イベント参加等 ・Wi-Fi（無線 LAN）構築 ・広告掲載料	16,874,138
4. 利用実態調査 (1) 利用実態調査 (2) 運行計画の見直し検討 ① 中間見直し（案）の検討 ② 本格運行の検討 (3) 地域路線の方向性検討	・地域住民に対するアンケート調査 ・観光客に対するアンケート調査 ・乗り込み実態調査 ・見直し運行計画 ・本格運行（案） ・地域路線への影響等の整理	4,301,171
5. 実証実験の運営補助 (1) 実証実験運営に関する事務 (2) 委員会等の運営補助 ① 委員会（4 回） ② 幹事会（4 回） ③ 庁議等への報告（2 回）	・実証実験運営に関する事務 ・委員会等の運営補助	3,249,306
計		58,675,725
改 め		58,680,000
消費税相当額		4,694,400
合 計		63,374,400

(参考)

事業費		63,374,400
運賃収入（見込み）	需要予測結果より	15,540,000
補助相当額	事業費－運賃収入（見込み）	47,834,400

5-2. 需要予測

(1) 需要予測の概要

観光客アンケート調査及び住民アンケート調査（沿道地区）、その他既存の調査結果等を基に、糸満市～那覇空港直行バスの利用者予測を行う。

需要予測としては、主なターゲットとなる①沖縄県内及び県外からの観光客、②外国人観光客、③沿線住民に対し、以下の手順で利用者予測を行う。

1) 沖縄県内及び県外観光客

①糸満市を訪れる個人観光客数

「沖縄県平和記念資料館年報（平成 24 年）」から、糸満市を訪れる個人観光客数を算出する。

②転換可能性のある旅行形態の割合

「観光客アンケート（平成 25 年度）」から、旅行の形態が「家族旅行」や「友達等のグループ旅行」等の割合を算出する。

③転換可能性のある移動手段の割合

「観光客アンケート（平成 25 年度）」から、観光の主な移動手段として「タクシー」や「定期観光バス」等を利用している割合を算出する。

④糸満市～那覇空港直行バスの利用意向割合

「観光客アンケート（平成 25 年度）」から、糸満市～那覇空港直行バスの利用意向割合を算出する。

⑤沖縄県内及び県外観光客の利用者数

糸満市を訪れる個人観光客数に、②～④の各割合を乗ずることで、利用者数を算出する。

2) 外国人観光客

①糸満市を訪れる外国人観光客数

「沖縄県観光要覧（平成 24 年度）」及び「沖縄県 外国人観光客満足度調査（平成 24 年度）」から、糸満市を訪れる外国人観光客数を算出する。

②転換可能性のある旅行形態の割合

「沖縄県 外国人観光客満足度調査（平成 24 年度）」から、旅行の形態が「個人旅行」や「フリープラン」等の割合を算出する。

③転換可能性のある移動手段の割合

「沖縄県 外国人観光客満足度調査（平成 24 年度）」から、観光の主な移動手段として「タクシー」や「定期観光バス」等を利用している割合を算出する。

④糸満市～那覇空港直行バスの利用意向割合

「観光客アンケート（平成 25 年度）」から、沖縄県内及び県外観光客と同様に、糸満市～那覇空港直行バスの利用意向割合を算出する。

⑤外国人観光客の利用者数

糸満市を訪れる外国人観光客数に、②～④の各割合を乗ずることで、利用者数を算出する。

3) 沿線住民

①糸満市～那覇空港直行バスの沿線人口

「平成 17 年国勢調査による 500mメッシュ人口」から、糸満市～那覇空港直行バスの沿線人口を算出する。

②転換可能性のある移動手段の割合

「糸満市の公共交通に関するアンケート調査（平成 24 年度）」から、日常の主な移動手段として「家族の送迎」や「友人や知人の送迎」を利用している割合を算出する。

③不満解消により転換可能性のある割合

「糸満市の公共交通に関するアンケート調査（平成 24 年度）」から、「乗りたい時間に走っていない」や「目的地に到着するまで時間がかかる」等の不満解消できれば、路線バス等に「乗っても良い」と回答した割合を算出する。

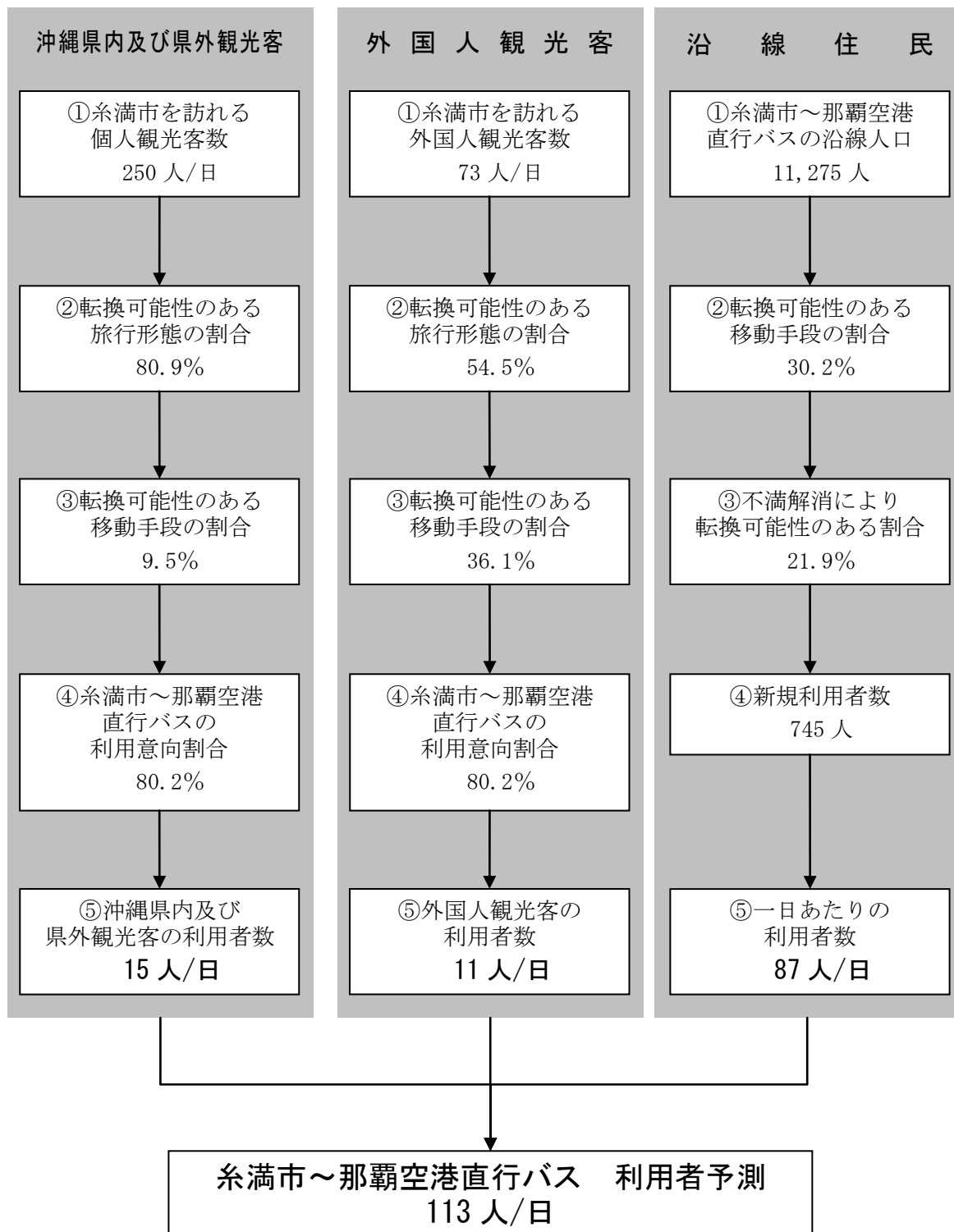
④新規利用者数

糸満市～那覇空港直行バス路線の沿線人口に、②～④の各割合を乗ずることで、新規利用者数を算出する。

⑤一日あたりの利用者数

「糸満市～那覇空港直行バスに関するアンケート調査（平成 25 年度）」より、利用頻度を算出し、一日あたりの利用者数を換算する。

検討フロー



(2) 沖縄県内及び県外観光客

①糸満市を訪れる個人観光客数

糸満市の年間観光客数等については、調査等が行われていないため不明であるため、ここでは、糸満市を代表する観光施設の一つである沖縄県平和祈念資料館の入館者数を、需要予測の対象観光客数とする。

「平成 24 年度 沖縄県平和記念資料館年報」によると、沖縄県平和記念資料館の年間入館者数は約 37 万人/年、開館日 352 日である。その内訳は、「個人入館者」数は 88,136 人/年、「団体入館者」数は 279,419 人/年であるが、「団体入館者」は、貸切バスによる移動が殆どであるため、路線バス等での移動需要は極めて少なく、「個人入館者」とは特性が異なる。

ここでは、観光客の特性を踏まえ、「個人観光客」88,136 人/年（一日平均：250 人/日）を需要予測の対象として考える。

沖縄県平和祈念資料館の来館者数

Ⅷ 入館者状況

1 月別入館者数

年月	個人入館者数 ※1			団体入館者数 ※1			入館者総数 ※1			開館 日数	一日平均 入館者数 ※1	入館者 総数 ※2
	大人	小人	合計	大人	小人	合計	大人	小人	合計			
2012年4月	6,107 (310)	990 (73)	7,097 (383)	2,288 (297)	16,825 (2,834)	19,113 (3,131)	8,395 (607)	17,815 (2,907)	26,210 (3,514)	30	874	40,462
2012年5月	5,950 (181)	690 (137)	6,640 (318)	5,015 (539)	36,143 (5,829)	41,158 (6,368)	10,965 (720)	36,833 (5,966)	47,798 (6,686)	31	1,542	55,678
2012年6月	7,651 (2,552)	1,577 (1,034)	9,228 (3,586)	3,175 (352)	21,598 (4,434)	24,773 (4,786)	10,826 (2,904)	23,175 (5,468)	34,001 (8,372)	30	1,133	50,156
2012年7月	6,226 (220)	1,147 (6)	7,373 (226)	1,169 (115)	5,245 (1,984)	6,414 (2,099)	7,395 (335)	6,392 (1,990)	13,787 (2,325)	28	492	23,685
2012年8月	8,324 (437)	2,980 (59)	11,304 (496)	952 (259)	1,366 (319)	2,318 (259)	9,276 (696)	4,346 (59)	13,622 (755)	29	470	24,047
2012年9月	5,790 (145)	555 (64)	6,345 (209)	997 (56)	7,526 (319)	8,523 (375)	6,787 (201)	8,081 (383)	14,868 (584)	28	531	20,888
2012年10月	5,209 (259)	553 (86)	5,762 (345)	3,875 (65)	47,385 (842)	51,260 (907)	9,084 (324)	47,938 (928)	57,022 (1,252)	31	1,839	60,055
2012年11月	5,771 (276)	676 (150)	6,447 (426)	5,398 (188)	41,789 (2,520)	47,187 (2,708)	11,169 (464)	42,465 (2,670)	53,634 (3,134)	30	1,788	59,674
2012年12月	4,803 (424)	625 (88)	5,428 (512)	2,844 (77)	32,999 (646)	35,843 (723)	7,647 (501)	33,624 (734)	41,271 (1,235)	28	1,474	46,079
2013年1月	5,533 (213)	529 (37)	6,062 (250)	2,049 (63)	14,773 (154)	16,822 (217)	7,582 (276)	15,302 (191)	22,884 (467)	28	817	30,571
2013年2月	6,453 (174)	535 (40)	6,988 (214)	1,728 (66)	11,001 (120)	12,729 (186)	8,181 (240)	11,536 (160)	19,717 (400)	28	704	30,093
2013年3月	8,064 (349)	1,398 (12)	9,462 (361)	2,225 (38)	11,054 (195)	13,279 (233)	10,289 (387)	12,452 (207)	22,741 (594)	31	734	33,529
合 計	75,881 (5,540)	12,255 (1,786)	88,136 (7,326)	31,715 (2,115)	247,704 (19,877)	279,419 (21,992)	107,596 (7,655)	259,959 (21,663)	367,555 (29,318)	352	1,044	474,917

() は内数で無料入場者数

※1 は平和祈念資料館2階常設展示室に入室した人数

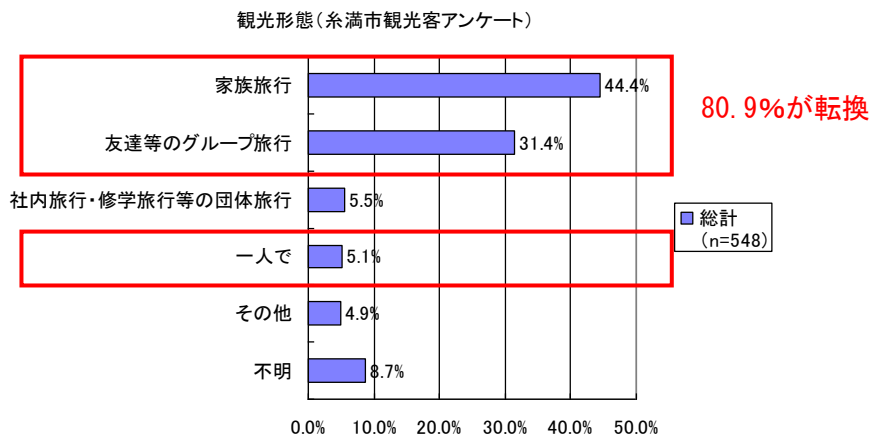
※2 は平和祈念資料館出入口に設置している機器で把握した人数

資料：平成 24 年度 沖縄県平和祈念資料館年報 平成 24 年 5 月 (沖縄県平和祈念資料館)

②転換可能性のある旅行形態の割合

糸満市を訪れる観光客のうち、「社内旅行・修学旅行等の団体旅行」の観光客が、路線バス等に転換することは難しいと考えられる。一方、自由に旅行プランを設定可能な観光形態の観光客であれば、糸満市～那覇空港直行路線バスが運行されることで、路線バス等へ転換する可能性があると考えられる。

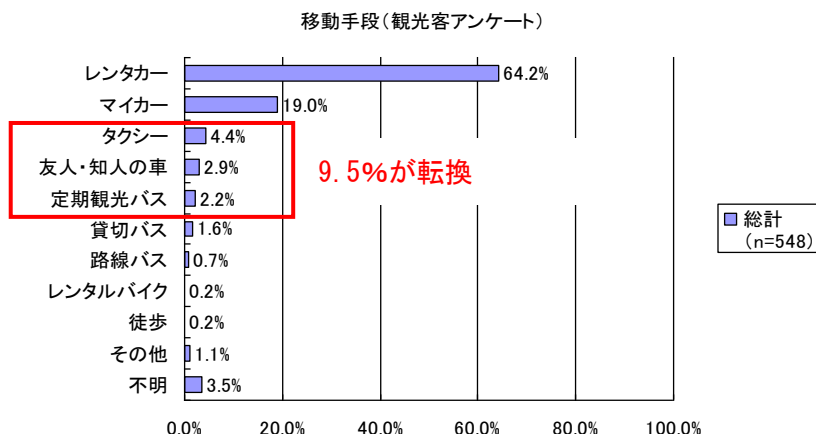
「観光客アンケート（平成 25 年度）」の結果から、自由に旅行プランを設定可能な観光形態として、「家族旅行（44.4%）」「友達等のグループ旅行（31.4%）」「一人で（5.1%）」の観光客 80.9%は、糸満市～那覇空港直行路線バスにメリット等があれば、路線バス等に転換すると考えられる。



③転換可能性のある移動手段の割合

糸満市を訪れる観光客のうち、「レンタカー」や「マイカー」で移動する観光客や、「貸切バス」で移動する観光客が、路線バス等に転換することは難しいと考えられる。一方、自ら運転をしない交通手段等で訪れる観光客は、糸満市～那覇空港直行路線バスが運行されることで、路線バス等へ転換する可能性があると考えられる。

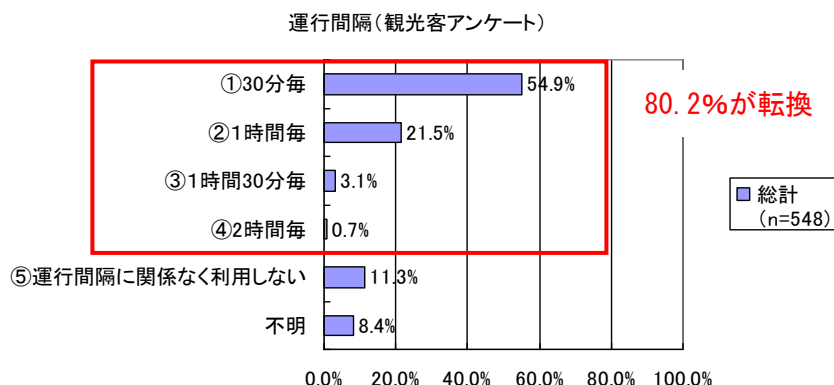
「観光客アンケート（平成 25 年度）」の結果から、自ら運転を行わない交通手段として、「タクシー（4.4%）」「友人・知人の車（2.9%）」「定期観光バス（2.2%）」を利用する観光客 9.5%は、糸満市～那覇空港直行路線バスにメリット等があれば、路線バス等に転換すると考えられる。



④糸満市～那覇空港直行バスの利用意向割合

「観光客アンケート（平成 25 年）」の結果から、糸満市～那覇空港直行バスの運行間隔が「30 分毎」であれば合計で 80.2%（「30 分毎」～「2 時間毎」）が利用すると回答している。

糸満市～那覇空港直行バスの運行間隔は、1 時間間隔の運行を計画しており、既存の路線バスとの組み合わせることで、路線バスの運行間隔は 30 分間隔程度に短縮することが可能であることから、80.2%の観光客が路線バス等に転換する可能性があると考えられる。



⑤沖縄県内及び県外観光客の利用者数

以上より、糸満市～那覇空港直行バスによる沖縄県内及び県外観光客の利用者数は、一日あたり 15 人と想定する。

①糸満市を訪れる個人観光客数・・・250 人/日

②転換可能性のある旅行形態の割合・・・80.9%

③転換可能性のある移動手段の割合・・・9.5%

④糸満市～那覇空港直行バスの利用意向割合・・・80.2%

⑤沖縄県内及び県外観光客の利用者数

$$= 250 \text{ 人/日} \times 80.9\% \times 9.5\% \times 80.2\% = 15 \text{ 人/日}$$

※1 人未満の端数は切捨てています。

(3) 外国人観光客の需要予測

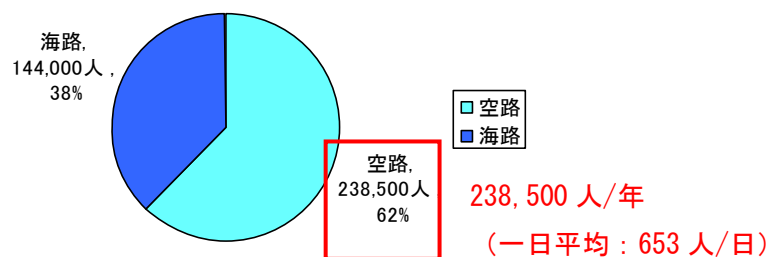
①糸満市を訪れる外国人観光客数

●沖縄県を訪れる外国人観光客数

「沖縄県観光要覧（平成 24 年度）」によると、沖縄県の外国人観光客数は、約 38 万人/年である。その内訳は、空路が 238,500 人/年、海路が 144,000 人/年であるが、海路（クルーズ船等）の外国人観光客は、貸切バスによる移動が殆どであるため、路線バス等での移動需要は極めて少なく、空路からの観光客とは特性が異なる。

ここでは、外国人観光客の特性を踏まえ、空路からの外国人観光客 238,500 人/年（一日平均：653 人/日）を需要予測の対象とする。

沖縄県外国人観光客数（平成24年度）



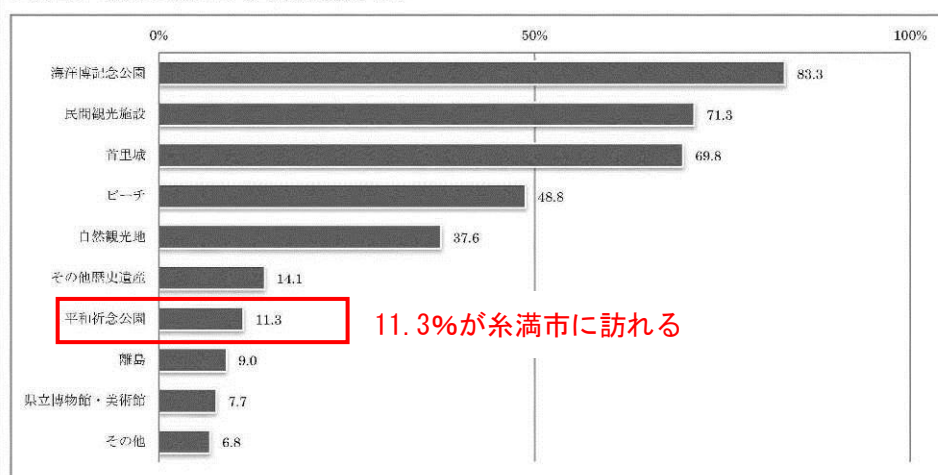
出典 平成 24 年度 観光要覧（沖縄県）

●糸満市を訪れる外国人観光客数

「沖縄県 外国人観光客満足度調査（平成 24 年度）」によると、外国人観光客（空路）の「平和祈念公園」への訪問率は 11.3%である。

ここでは、空路からの外国人観光客 653 人/日に、「平和祈念公園」の訪問率 11.3%を乗じた 73 人/日を糸満市に訪れた外国人観光客数と想定する。

図表 2-8 訪れた観光地（国籍別/複数回答）

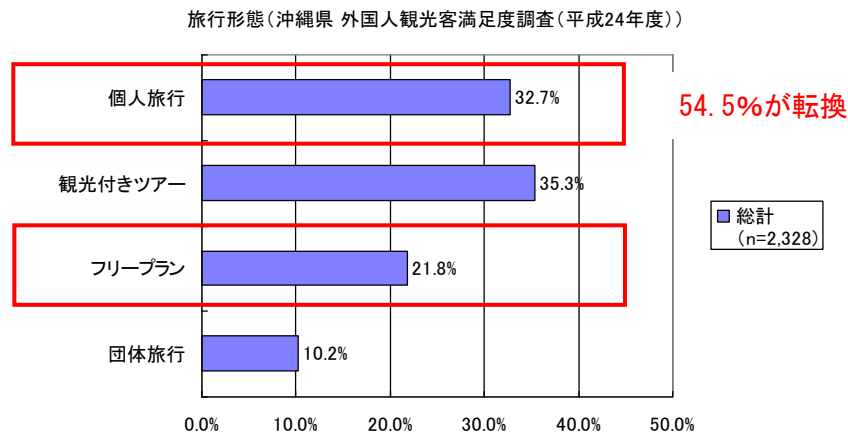


資料：平成 24 年度 外国人観光客満足度調査報告書（空路調査）平成 25 年 6 月（沖縄県）

②転換可能性のある旅行形態の割合

外国人観光客のうち、「団体旅行」や「観光付きツアー」の観光客が、路線バス等に転換することは難しいと考えられる。一方、自由に旅行プランを設定可能な観光形態であれば、糸満市～那覇空港直行路線バスが運行されることで、路線バス等へ転換することが想定される。

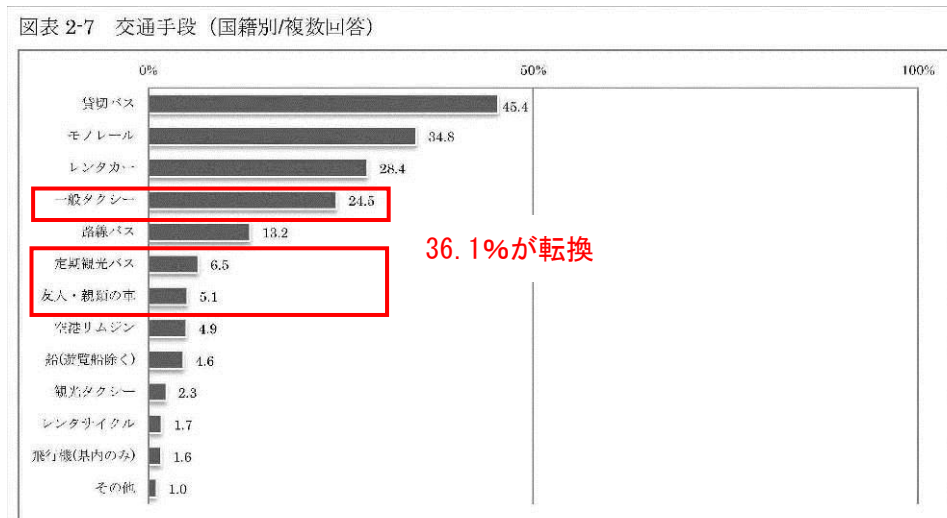
「外国人観光客満足度調査（平成 24 年度）」によると、自由に旅行プランを設定可能な観光形態として、「個人旅行（32.7%）」「フリープラン（21.8%）」の観光客 54.5%は、糸満市～那覇空港直行路線バスにメリット等があれば、路線バス等に転換すると考えられる。



③転換可能性のある移動手段の割合

外国人観光客のうち、「レンタカー」で移動する観光客や、「貸切バス」で移動する観光客が、路線バス等に転換することは難しいと考えられる。一方、自ら運転をしない交通手段で訪れる観光客は、糸満市～那覇空港直行路線バスが運行されることで、路線バス等へ転換すると想定される。

「外国人観光客満足度調査（平成 24 年度）」によると、自ら運転を行わない交通手段として、「一般タクシー（24.5%）」「定期観光バス（6.5%）」「友人・知人の車（5.1%）」を利用する観光客は 36.1%であり、糸満市～那覇空港直行路線バスにメリットがあれば、路線バス等に転換すると考えられる。



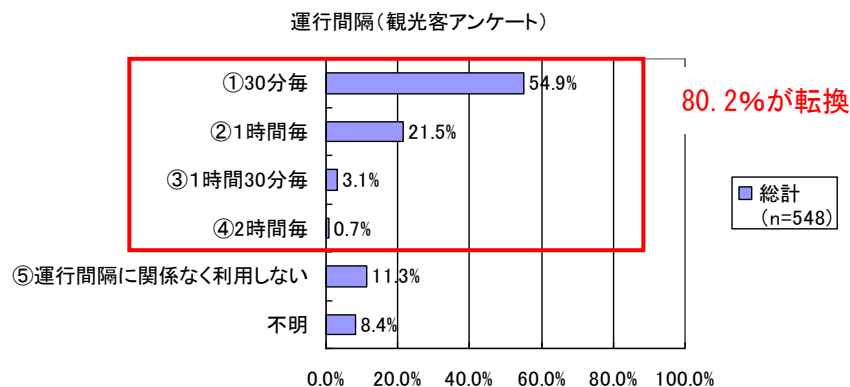
資料：平成 24 年度 外国人観光客満足度調査報告書（空路調査）平成 25 年 6 月（沖縄県）

④糸満市～那覇空港直行バスの利用意向割合

糸満市～那覇空港直行バスの利用意向は、外国人観光客についても、沖縄県内及び県外観光客と同様であると想定する。

「観光客アンケート（平成 25 年）」の結果から、糸満市～那覇空港直行バスの運行間隔が「30 分毎」であれば合計で 80.2%（「30 分毎」～「2 時間毎」）が利用すると回答している。

糸満市～那覇空港直行バスの運行間隔は、1 時間間隔の運行を計画しており、既存の路線バスとの組み合わせることで、路線バスの運行間隔は 30 分間隔程度に短縮することが可能であることから、80.2%の観光客が路線バス等に転換する可能性があると考えられる。



⑤外国人観光客の利用者数

以上より、糸満市～那覇空港直行バスによる外国人観光客の利用者数は、一日あたり 11 人と想定する。

- ①糸満市を訪れる外国人観光客数・・・73 人/日
- ②転換可能性のある旅行形態の割合・・・54.5%
- ③転換可能性のある移動手段の割合・・・36.1%
- ④糸満市～那覇空港直行バスの利用意向割合・・・80.2%

⑤沖縄県内及び県外観光客の利用者数

$$= 73 \text{ 人/日} \times 54.5\% \times 36.1\% \times 80.2\% = 11 \text{ 人/日}$$

※1 人未満の端数は切捨てています。

（４）沿道住民の需要予測

①糸満市～那覇空港直行バスの沿線人口

平成 17 年国勢調査による 500mメッシュ人口を基に、平成 24 年度末の沿線人口を換算し、糸満市～那覇空港直行バスの沿線人口を算定する。

現在、糸満市の総人口は増加傾向にあり、平成 17 年人口は 55,816 人に対し、平成 24 年人口は 59,349 人である。そのため、平成 17 年から平成 24 年の人口伸び率は 1.06 となる。

平成 17 年の沿線人口は次頁に示す通り 10,637 人であることから、これに人口伸び率 1.06 を乗じ、平成 24 年度末現在の沿線人口は 11,275 人と考えられる。

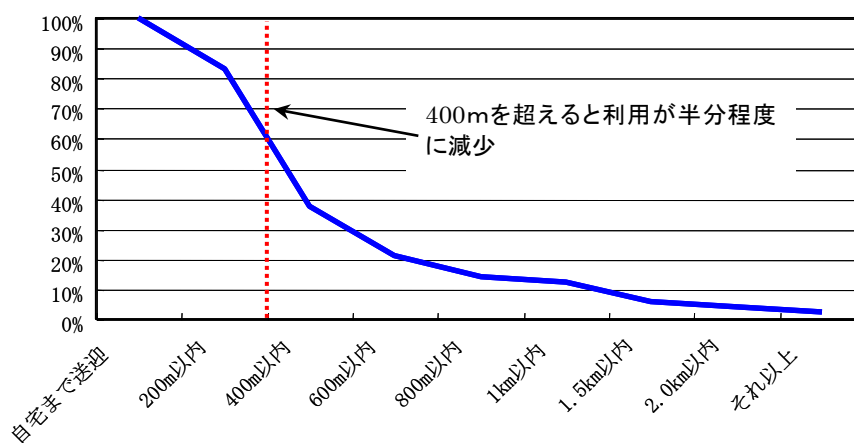
糸満市の総人口及び沿線人口

	平成 17 年 国勢調査	平成 24 年度末 糸満市人口統計資料	人口伸び率
糸満市人口	55,816 人	59,349 人	1.06
沿線人口（400m 圏）	10,637 人	11,275 人	1.06
人口カバー率	19%	19%	—

●沿線人口

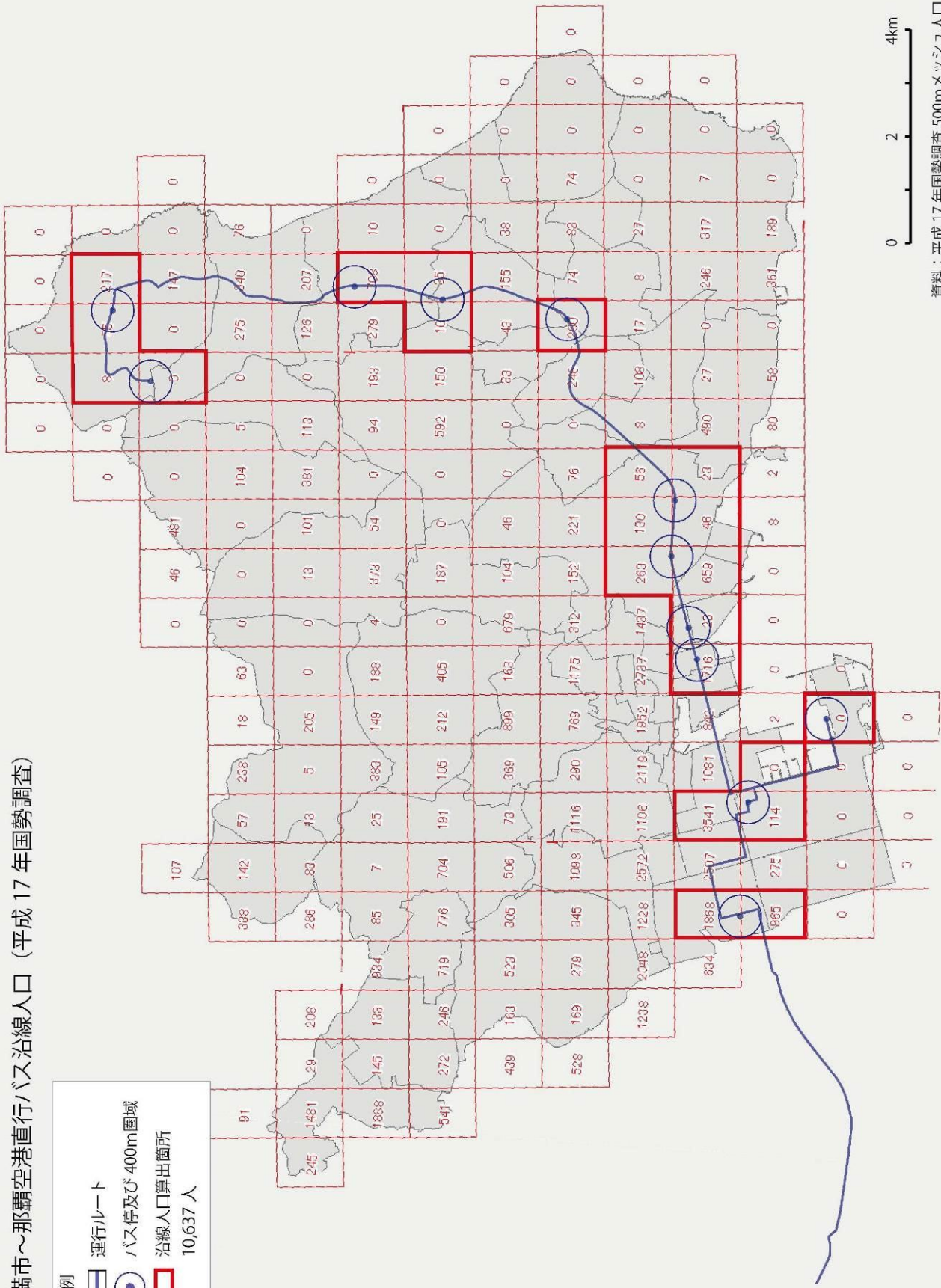
バス停までの距離と利用水準との関係では、一般的に 400mがほぼ限界水準と言われており、バス停留所から半径 400mを利用限界距離とし、利用限界距離に含むメッシュ人口の合計を、沿線人口とした。

▼バス停までの距離の利用限界水準



資料：中国運輸局調査資料

系満市～那覇空港直行バス沿線人口（平成17年国勢調査）

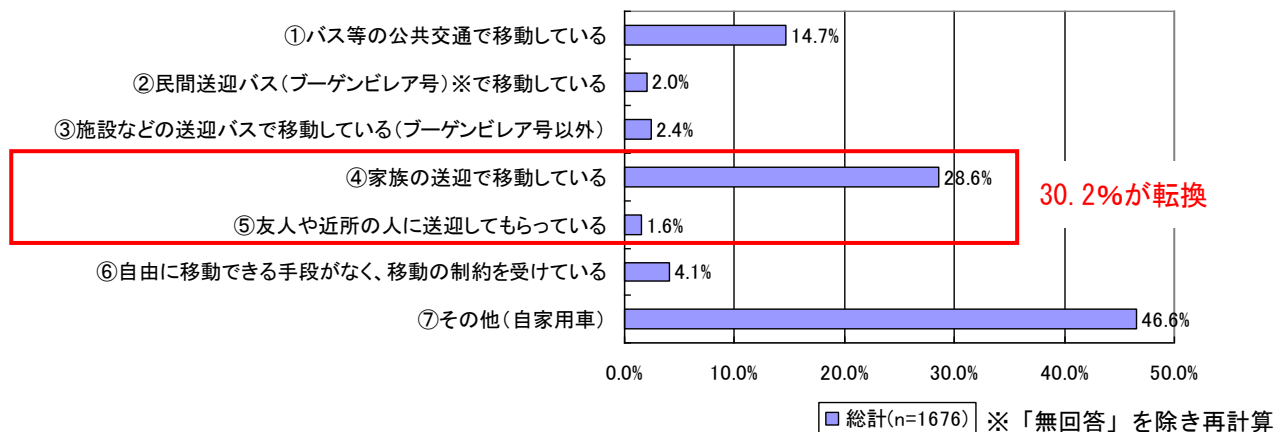


②転換可能性のある移動手段の割合

沿道住民のうち、「自家用車」やで移動する方や、「移動に制約があり」移動できない方が、路線バス等に転換することは難しいと考えられる。一方、自ら運転をしない交通手段で移動をしている方は、糸満市～那覇空港直行路線バスが運行されることで、路線バス等へ転換する可能性がある。

「糸満市の公共交通に関するアンケート調査（平成 24 年度）」の結果から、自ら運転を行わない交通手段として、「家族の送迎（28.6%）」「知人や近所の送迎（1.6%）」を主な移動手段とする住民は 30.2%であり、糸満市～那覇空港直行路線バスにメリットがあれば、路線バス等に転換する可能性があると考えられる。

日常の主な移動手段（糸満市の公共交通に関するアンケート調査（平成24年度））

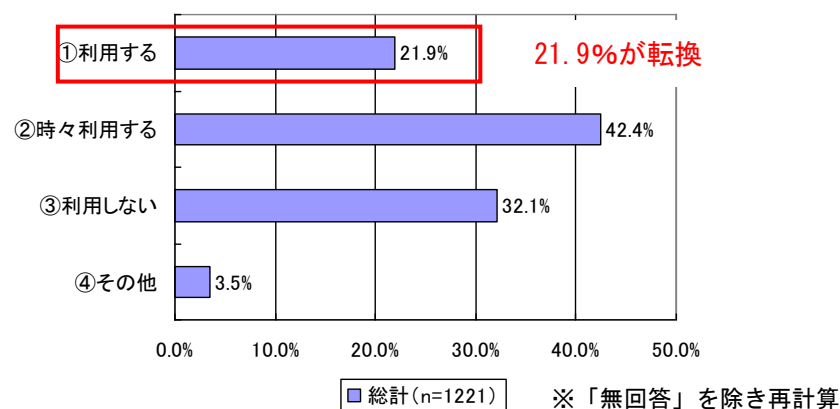


③不満解消により転換可能性のある割合

糸満市の公共交通に関するアンケート調査（平成 24 年度）」の結果から、公共交通で移動していない方に対しては「乗りたい時間に走っていない」「目的地に到着するまで時間がかかる」等の課題が解決できれば、「乗っても良い」と 21.9%が回答している。

公共交通で移動していない方のうち 21.9%は、糸満市～那覇空港直行バスが運行されることにより、路線バス等に転換する可能性があると考えられる。

今後のバスの利用意向（課題が解決された場合）
（糸満市の公共交通に関するアンケート調査（平成24年度））



④新規利用者数

以上より、糸満市～那覇空港直行バスによる沿線住民の新規利用者数は745人と想定する。

①糸満市～那覇空港直行バスの沿線人口・・・11,275人/日

②転換可能性のある移動手段の割合・・・30.2%

③不満解消により転換可能性のある割合・・・21.9%

④新規利用者数

$$=11,275 \text{ 人/日} \times 30.2\% \times 21.9\% = 745 \text{ 人/日}$$

※1人未満の端数は切捨てています。

⑤一日あたりの利用者数

「糸満市～那覇空港直行路線バスに関するアンケート調査（平成25年度）」の結果から、実証実験が行われた場合の利用頻度は、「利用しない」が25.3%と最も多い。一方、「ほぼ毎日」が10.6%、「週2～3回」が6.6%、「週1回」が8.1%と、日常的に利用すると回答した割合も高い。

新規利用者745人/日が、「ほぼ毎日」は20回/月、「週2～3回」は10回/月、「週1回」は4回/月、「月に2～3回」は2.5回/月、「月に1回」は1回/月、「2～3ヶ月に1回」は0.5回/月の頻度で利用すると、一日あたりの利用者数は87人/日となる。

一日あたりの利用者数

①利用者数:745人	②	③	①×②×③÷30日
	割合	一月あたり 利用回数	一日あたり 利用者数
ほぼ毎日	9.8%	20.0	49
週2～3回	6.7%	10.0	17
週1回	7.5%	4.0	7
月に2～3回	14.8%	2.5	9
月に1回	10.0%	1.0	2
2～3ヶ月に1回	21.4%	0.5	3
利用しない	26.7%	0.0	0
不明	3.1%	0.0	0
合 計	100.0%	—	87

「糸満市～那覇空港直行路線バスに関するアンケート調査（平成25年度）」より整理

５－３．事業収支の試算

（１）事業収支の試算条件

事業収支の試算条件

項 目	糸満市～那覇空港直行バス	単 位
実証実験運行期間	5	ヶ月
運行距離（片道）	26.0	Km
運行回数	12	往復
乗車見込数（日）	①沖縄県内及び県外観光客：15 人/日 ②外国人観光客：11 人/日 ③沿線住民：87 人/日	人
想定運賃	①沖縄県内及び県外観光客及び②外国人観光客は、一日フリー乗車券 1,500 円を利用することも想定 ③沿線住民は、平均運賃 480 円を想定（道の駅～那覇空港の利用で 480 円）	円
車両使用料	196.20	円/km

（２）運行経費

1 ヶ月あたりの運行経費は、「平成 24 年度乗合バス事業の収支状況について（国土交通省）」の沖縄ブロック民間事業者の運送原価 196.20 円/km を基に算出する。

$\begin{aligned} & \text{運行日数 30 日} \times \text{運行距離 26.0km} \times \text{車両使用料 196.20 円/km} \times \text{運行回数 12 往復/日} \\ & \qquad \qquad \qquad = 3,673 \text{ 千円} \end{aligned}$
--

（３）運賃収入

1 ヶ月あたりの運行収入は、需要予測より①沖縄県内及び県外観光客 15 人/日と②外国人観光客 11 人/日を加えた観光客 26 人/日は、沖縄モノレール実績より 16.8%が一日フリー乗車券 1,500 円を利用、残り 83.2%は平均運賃 960 円（道の駅～那覇空港：480 円×往復）と想定。

また、沿線住民 87 人/日は、85.0%が 960 円（480 円×往復）、7.3%が子供料金 480 円（240 円×往復）として運賃収入を算出する。

<①沖縄県内及び県外観光客 15 人/日、②外国人観光客 11 人/日> $\begin{aligned} & \text{運行日数 30 日} \times \text{観光客 26 人/日} \times 16.8\% \times \text{一日フリー乗車券 1,500 円} \\ & + \text{運行日数 30 日} \times \text{観光客 26 人/日} \times 83.2\% \times \text{平均運賃 960 円} \\ & = 197 \text{ 千円} + 623 \text{ 千円} \\ & = 820 \text{ 千円} \end{aligned}$ <③沿線住民 87 人/日> $\begin{aligned} & \text{運行日数 30 日} \times \text{沿線住民 87 人/日} \times 85.0\% \times \text{平均運賃 960 円} \\ & + \text{運行日数 30 日} \times \text{沿線住民 87 人/日} \times 7.3\% \times \text{平均運賃 480 円} \\ & = 2,130 \text{ 千円} + 91 \text{ 千円} \\ & = 2,221 \text{ 千円} \end{aligned}$

平成 24 年度ゆいレール年間旅客輸送量（沖縄モノレール㈱資料より）

	定期等	定期等以外	合計
輸送距離（人×km）	10,757,595	53,450,973	64,208,568
割合	16.8%	83.2%	100.0%

輸送距離：輸送した旅客(人)数にそれぞれが乗車した距離を乗じたものの累計であり
交通機関別の輸送分担率(交通機関を利用して行われた全ての移動を輸送
機関ごとに分けた割合)などの指標として用いられる。

糸満市年齢別人口（平成 24 年度末）

	12 歳以上	11 歳～6 歳	6 歳未満	合計
人口	50,439	4,328	4,582	59,349
割合	85.0%	7.3%	7.7%	100.0%

（４）事業収支

１ヶ月（30 日）あたり事業収支

収 入		支 出	
①運賃収入（観光客）	820 千円	①運行経費	3,673 千円
（沿線住民）	2,220 千円		
②補助金等	633 千円		
収入計	3,673 千円	支出計	3,673 千円

５ヶ月（153 日）あたり事業収支（実証実験期間）

収 入		支 出	
①運賃収入（観光客）	4,182 千円	①運行経費	18,732 千円
（沿線住民）	11,322 千円		
②補助金等	3,228 千円		
収入計	18,732 千円	支出計	18,732 千円

１２ヶ月（365 日）あたり事業収支

収 入		支 出	
①運賃収入（観光客）	9,977 千円	運行経費	44,687 千円
（沿線住民）	27,010 千円		
②補助金等	7,700 千円		
収入計	44,687 千円	支出計	44,687 千円

6. 成果指標・見直し基準（案）

6-1. 成果指標（案）

事業を実施するに当たって「何が達成できたら成功と言えるのか」が分からなければ、評価することが出来ない。また、何を目標に活動して良いのか分からないといった問題が生じる。この問題を回避するために、目的の達成度を測る物差しとして「成果指標」を設定する必要がある。

糸満市～那覇空港直行バスを評価する指標として、以下のとおり「サービス評価」、「事業評価」、「政策評価」の3つが想定される。

「サービス評価」は、目標とする成果を達成するために提供されるバス交通のサービス水準が保障されているのかに関する評価である。「事業評価」は、サービス提供がバス事業に及ぼす影響に関する評価で、サービス供給サイドの運営状況を分析する評価である。「政策評価」は、バス交通ネットワークの形成により利用者が目標とする成果を享受できたかという成果指標の達成度に関する評価である。

評価の視点

評価項目	サービス評価	事業評価	政策評価
評価の視点	路線に求められる役割を果たすためのサービス水準が確保されているかを検証。	提供されたサービスが有効に機能しているかを路線の利用者数や費用効率面から評価	路線の設定する運行目的が達成されているか、また、提供されている路線のサービスに対し、利用者から一定の評価が得られているかを評価。

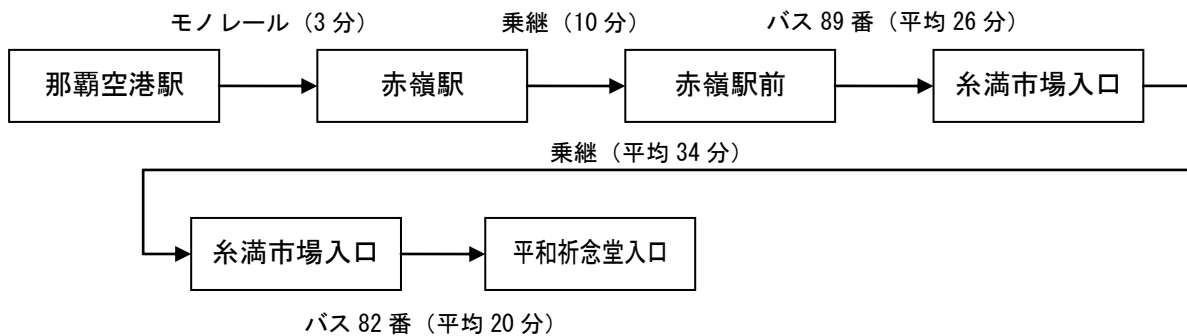
糸満市～那覇空港直行バス 評価指標（案）

評価項目	サービス評価	事業評価	政策評価
評価指標 （案）	（１）速達性の向上 ①「那覇空港」から「平和祈念公園前」までの所要時間の短縮 <現況> 平均 9 3 分 （モノレール+路線バス） ↓ <実験期間> 平均 7 3 分 （糸満市～那覇空港直行バス） ②「道の駅」から「県庁前」までの所要時間の短縮 <現況> 平均 7 3 分 （徒歩+路線バス） ↓ <実験期間> 平均 5 6 分 （糸満市～那覇空港直行バス+モノレール）	（２）利用者数の増加 ①糸満市～那覇空港直行バスの利用者数 <現況> 0 人/日 ↓ <実験期間> 平均 1 1 3 人/日 （需要予測より） ②糸満市主要施設の入込み客数（推計） <現況> 平成 25 年 8～12 月： 731,000 人 ↓ <実験期間> 平成 26 年 8～12 月： 735,000 人 （需要予測より）	（３）新規利用者の拡大 ①観光客の「観光移動」について「路線バス等」で移動した割合 <現況> 平均 0. 7 % ↓ <実験期間> 平均 1. 2 % （9,095 人/735,000 人） （需要予測より） ②沿線地区の「日常的な主な移動手段」について「バスなど公共交通で移動している」割合 <現況> 平均 1 1. 8 % ↓ <実験期間> 平均 1 3. 0 % （7,807 人/59,851 人） （需要予測より）
評価に用いるデータ	・遅延状況	・利用者数	・公共交通の利用割合
必要な調査	・所要時間調査	・利用実態調査	・沿線地区アンケート調査 ・観光客アンケート調査

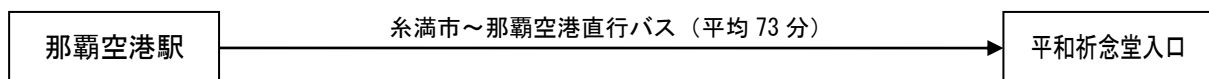
（１）速達性の向上

①「那覇空港」から「糸満観光農園」までの所要時間の短縮

<現 況>平均 93 分

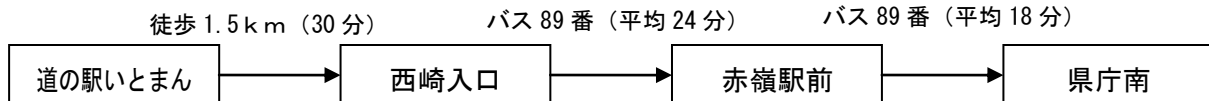


<実験期間>平均 73 分

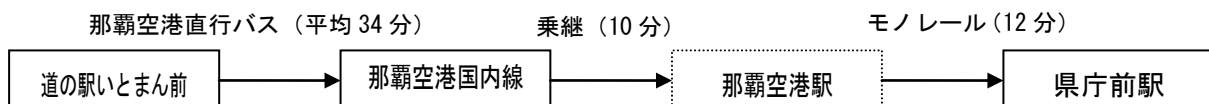


②「道の駅」から「県庁前」までの所要時間の短縮

<現 況>平均 72 分



<実験期間>平均 56 分



(2) 利用者数の増加

①糸満市～那覇空港直行バスの利用者数

<現 況>0 人/日

<実験期間>平均 113 人/日

需要予測の結果より

②糸満市主要観光施設の入込み客数（推計）

糸満市主要観光施設の入込客数（5 月～12 月）

5月～12月の合計

	H22年	H23年	H24年	H25年 (推計)	H26年 (推計)
ひめゆり平和祈念資料館 (ひめゆりの塔)	341,886	341,565	317,484	—	—
沖縄県平和祈念資料館	204,462	199,890	180,417	—	—
糸満観光農園	42,609	108,604	90,458	—	—
美々ビーチいとまん (糸満漁港ふれあい公園内)	169,186	179,752	71,657	—	—
琉球ガラス村	154,630	151,801	149,929	—	—
入込客数計	912,773	981,612	809,945	769,448	730,975

資料：糸満市商工観光課統計資料

<現 況>約 731,000 人

○糸満市主要観光施設の入込み客数の変化率

= (①平成 22 年から平成 23 年の変化率 + ②平成 23 年から平成 24 年の変化率) ÷ 2

= (①平成 23 年計 981,612 人 ÷ 平成 22 年計 912,773 人 + ②平成 24 年計 809,945 人 ÷ 平成 23 年計 981,612 人) ÷ 2

= (①1.075 + ②0.825) ÷ 2

= 0.950

○平成 25 年 主要観光施設の入込み客数（5 月～12 月）

= ③平成 24 年 主要観光施設の入込み客数（5 月～12 月）× ④糸満市主要観光施設の入込み客数の変化率

= ③平成 24 年 809,945 人 × ④0.950

= 769,448 人

○平成 26 年 主要観光施設の入込み客数（5 月～12 月）

= ⑤平成 25 年 主要観光施設の入込み客数（5 月～12 月）× ②糸満市主要観光施設の入込み客数の変化率

= ①平成 25 年 769,448 人 × ②0.950

= 730,976 人

≒ 731,000 人

<実験期間>約 735,000 人

○実証実験による主要観光施設の入込み客数

=①平成 26 年（推計）観光客数+②需要推計による観光客数×③運行日数

=①約 731,000 人+②26 人/日×③153 日

=734,978 人

≒735,000 人

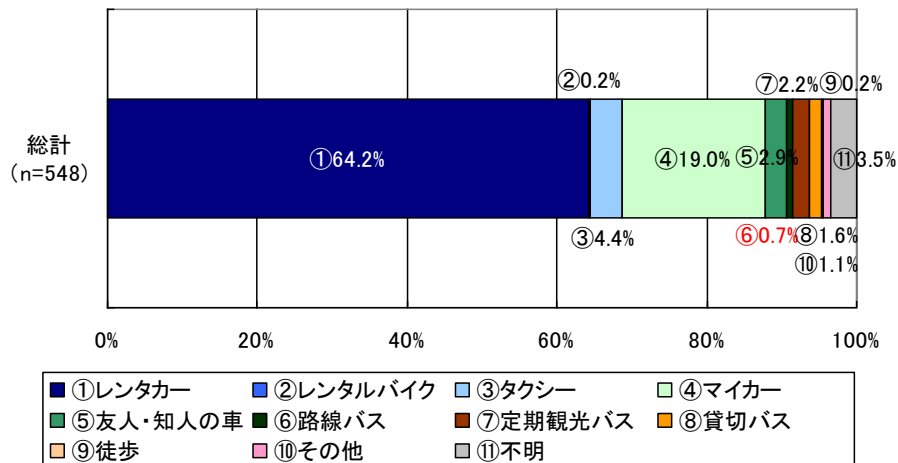
（３）新規利用者の拡大

①観光客の「観光移動」について「路線バス等」で移動した割合

<現 況>路線バス利用者 0.7%

○「平成 25 年度観光客アンケート調査」より、路線バス利用者は 0.7%。

糸満市観光客の移動手段（平成25年度調査）



<実験期間>路線バス利用者 1.2%

○平成 26 年 主要観光施設の入込み客数（5 月～12 月）のバス利用者数

=①平成 26 年 主要観光施設の入込み客数（5 月～12 月）×②路線バス利用率

+③需要推計による観光客数×④運行日数

=①731,000 人×②0.7%+③26 人/日×④153 日

=5,117 人+3,978 人

=9,095 人

○平成 26 年 主要観光施設の入込み客数（5 月～12 月）

=⑤平成 26 年 主要観光施設の入込み客数（5 月～12 月）のバス利用者数

÷①平成 26 年 主要観光施設の入込み客数（5 月～12 月）×100

=⑤9,095 人÷①731,000 人×100

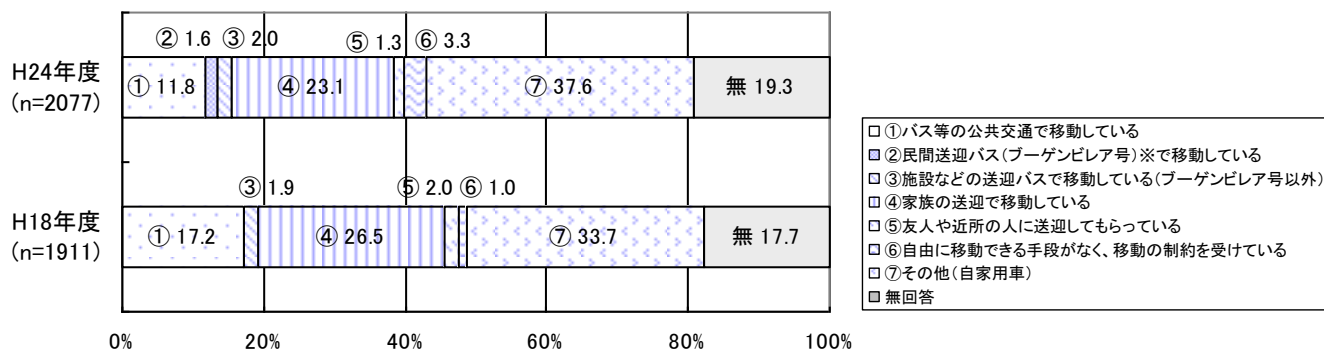
=1.2%

②沿線地区の「日常的な主な移動手段」について「バスなど公共交通で移動している」割合

＜現 況＞路線バス利用率 11.8%

○「平成 24 年度住民アンケート調査」より、路線バス利用率は 11.8%

問5. 日常の主な移動手段



＜実験期間＞

○路線バス利用者数

= ①糸満市人口（平成 25 年末）× ②路線バス利用率 + ③新規利用者数

= ①59,851 人 × ②11.8% + ③745 人

= 7,062 人 + 745 人

= 7,807 人

○路線バス利用率

= ④利用者数 ÷ ①糸満市人口（平成 25 年末） × 100

= ④7,807 人 ÷ ①59,851 人 × 100

= 13.0%

6-2. 本格運行時における見直し基準（案）

（１）評価の必要性

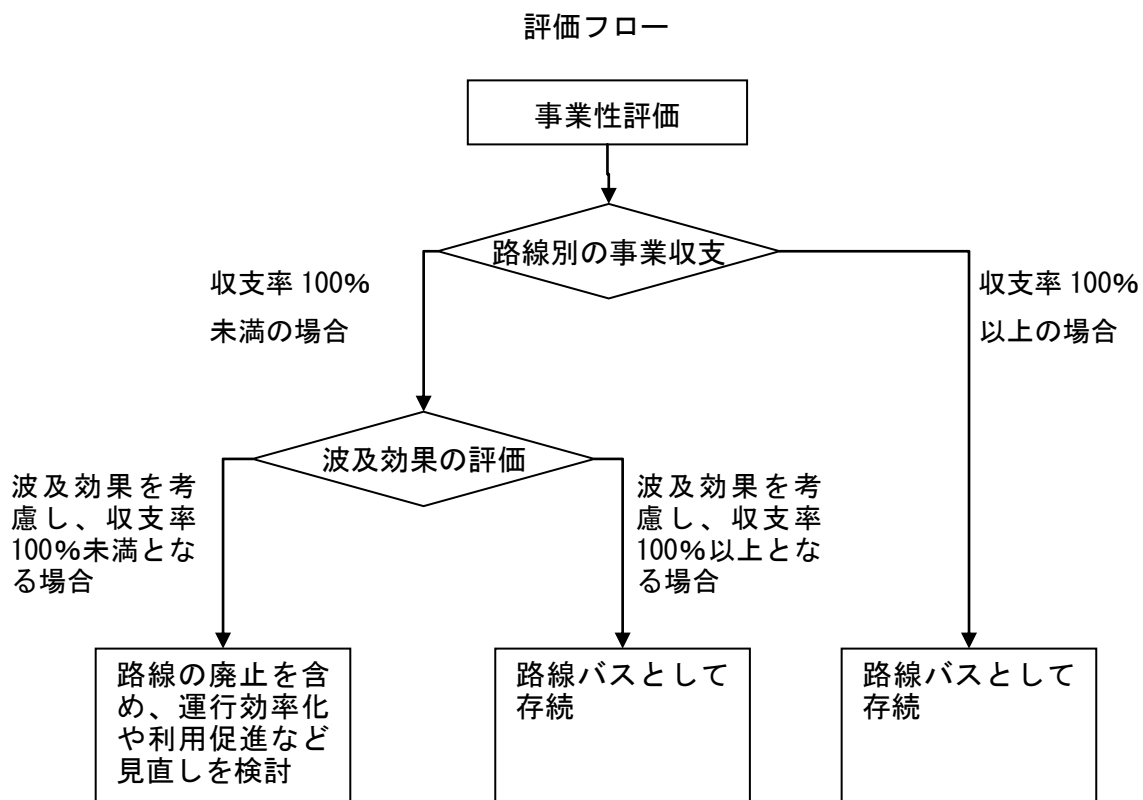
新たに糸満市～那覇空港直行バスを運行するにあたり、補助金等に過度に依存しない持続可能なバス交通体系を構築するためには、現行のバス路線網の評価を行い、必要な見直しを行うことが求められる。

今後、糸満市の公共交通全体を継続的に検証し、かつ適切に実施していく上で、バス路線を交通ネットワークとして評価できる仕組みが必要であり、この点からも現行のバス路線網の評価が求められる。

そのため、糸満市～那覇空港直行バス路線が、不採算となった場合、無条件で維持するのではなく、バス路線としてサービスを継続すべきかどうか等を評価する基準が必要である。

（２）評価指標

糸満市～那覇空港直行バス路線の評価は、事業性の視点から「路線別の事業収支」を評価する。また、糸満市～那覇空港直行バスは、観光客の増加による経済波及効果が期待されることから、「波及効果の評価」を加え評価を行い、路線バスとして存続していくのか、見直しが必要なのか等を評価する。



(3) 路線別の事業収支の評価

需要予測より糸満市～那覇空港直行バス路線は、年間 7,700 千円の補助が必要と見込まれ、収支率 100%未満となることが想定される。ただし、このバス路線は、公共交通であるので、波及効果の評価と合わせて評価すべきである。

需要予測に基く試算結果（12 ヶ月）

路線名	年間補助額	運行日	1日利用者数
糸満市～那覇空港 直行バス	7,700 千円	365 日	113 人

(参考) H24 年度 既存路線バスの状況

路線名	年間補助額		運行日	1日利用者数
		市負担額		
国吉線	2,452 千円	1,756 千円	245 日	22 人
南部循環線	22,056 千円	15,907 千円	365 日	76 人
玉泉洞糸満線	9,360 千円	9,360 千円	365 日	119 人
糸満新里線	1,554 千円	982 千円	365 日	106 人
計	35,422 千円	28,005 千円	－	－

（４）波及効果の評価

平成 22 年度観光統計実態調査（観光消費による経済波及効果の推計）をもとに、糸満市那覇空港直行バス路線の運行により観光客が増加した場合に発生する最大経済波及効果（直接効果）を以下の通り試算する。

①観光消費額

平成 24 年度観光要覧によると、沖縄県における観光消費額は、66,923 円（平均滞在日数 3.75 日）である。観光客アンケートによると、糸満市での滞在日数は半日が最も多い。

よって、糸満市での滞在日数を 0.5 日と仮定し、観光消費額を 5,200 円と設定する。需要予測の平均観光客数 26 人/日より年間観光消費は、49,348 千円（5,200 円×26 人/日×365 日）の増加が見込まれる。

▼観光消費額の推計

項目	沖縄県 消費額(円) (滞在日数=3.75日)
宿泊費	18,358
交通費	9,571
土産・買物費	16,021
飲食費	14,332
娯楽・入場費	7,091
その他	1,550
	66,923



項目	糸満市 想定消費額(円) (滞在日数=0.5日)
宿泊費	0
交通費	0
土産・買物費	2,136
飲食費	1,911
娯楽・入場費	945
その他	207
	5,199

糸満市想定観光消費額＝5,200 円
 ・「宿泊費」「交通費」は 0 円とする。
 ・「土産・買物費」「飲食費」「娯楽・入場費」「その他」は 0.5 日分とした。

②経済波及効果

平成 22 年度観光統計実態調査（観光消費による経済波及効果の推計）によると、沖縄県の観光消費額 441,789 百万円から、生じる直接効果は 381,447 百万円である。そのうち、雇用者所得誘発額は 104,682 百万円と推計される。

よって、簡易的に経済波及効果を把握するため、観光消費から生じる直接効果係数を 0.86（直接効果 381,447 百万円÷観光消費額 441,789 百万円）、雇用者所得係数を 0.24（雇用者所得誘発額 104,682 百万円÷観光消費額 441,789 百万円）とし、経済波及効果を算出する。

糸満市年間観光消費が 49,348 千円発生した場合、直接効果は最大で 42,439 千円（49,348 千円×0.86）、雇用者所得は最大 11,844 千円（49,348 千円×0.24）と推計される。

したがって、直接効果から発生する雇用者所得 11,844 千円を、糸満市～那覇空港直行バス路線による経済波及効果と想定する。

図表 88 観光消費による経済波及効果(総合効果)

	経済波及効果 (生産誘発額) (百万円)	付加価値効果 (百万円)	雇用者所得 誘発額 (百万円)	雇用効果 (人)
直 接 効 果	381,447	185,782	104,682	52,581
1 次 間 接 波 及 効 果	178,323	91,584	43,069	17,236
2 次 間 接 波 及 効 果	101,790	60,864	25,844	9,654
経済波及効果(総合効果)	661,560	338,230	173,595	79,471
観 光 消 費 額 (誘 発 倍 率)	441,789 (1.5 倍) = 経済波及効果/観光消費額			

	(百万円)
観光消費額	441,789
経済波及効果	661,560
(誘発倍率)	1.50倍

平成 22 年度観光統計実態調査（観光消費による経済波及効果の推計） 報告書より

(5) 事業収支と波及効果による評価

事業性を評価するためには、事業収支の評価と波及効果の評価の 2 つから評価するものとする。

事業収支の評価が赤字になったとしても経済的波及効果がそれを上回るならば、その路線は『存続』と評価できる。

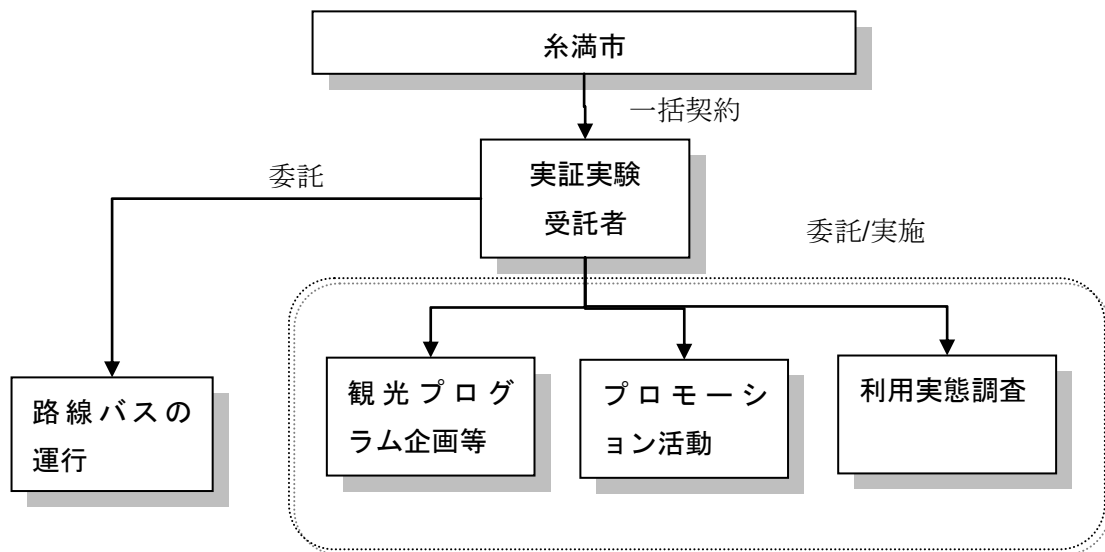
経済効果 > 赤字額・・・存続

7. 実証実験に向けて

7-1. 事業スキーム

実証実験においては、実証実験実施に対する企画を提案してもらい、その中から優れた提案を行った者を選定するプロポーザル形式による受注企業を決定し、受注企業から実証実験に係る各種事業の実施や契約等を行う。

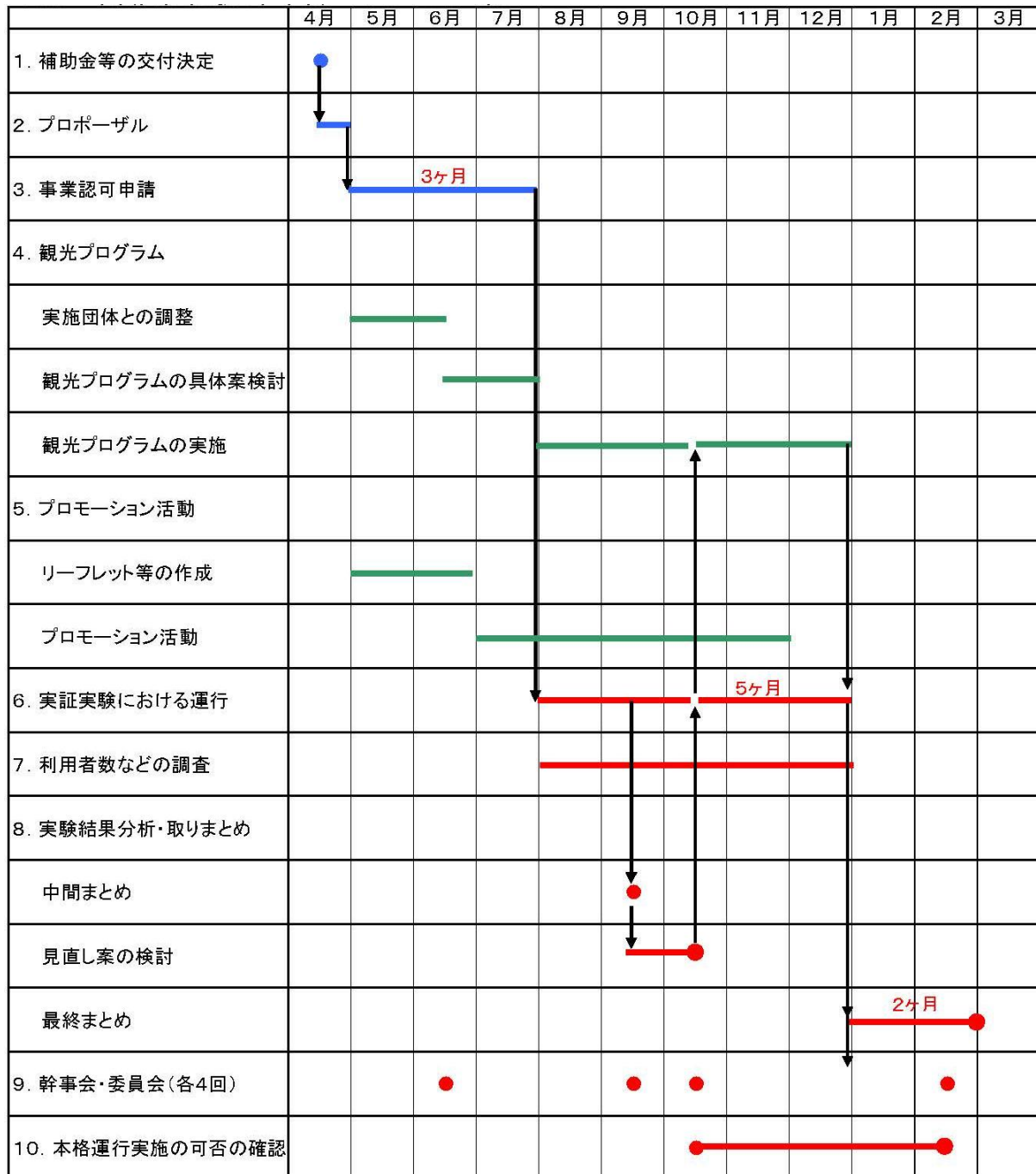
▼実証実験の実施体制イメージ



7-2. 事業スケジュール

実証実験期間は、準備期間3ヶ月、運行期間5ヶ月、成果のとりまとめ等2ヶ月の計10ヶ月程度を想定する。

▼事業スケジュール



8. 参考資料

8-1. 仕様書（案）

（仮称）糸満市～那覇空港直行バス実証実験運営業務委託 仕様書（案）

【業務概要】

業 務 名 （仮称）糸満市～那覇空港直行バス実証実験運営業務委託

委託場所 糸満市全域（一部、周辺市町村を含む）

契約期間：平成 26 年 5 月 1 日～平成 27 年 3 月 2 日

【業務内容】

1. 糸満市～那覇空港直行バス運行

（1）運行業務

1) 運行期間

平成 26 年 8 月 1 日～平成 26 年 12 月 28 日（153 日+1 日）

2) 運行方法

道路運送法第 4 条（一般乗合旅客自動車運送事業）による運行

3) 運行業務

①運行ルート、停留所について

- ・運行ルート及び停留所設置場所は「糸満市～那覇空港直行バスルート図」（別紙）を基本とする。
- ・中間見直し等において、調整が必要な場合は委託者と受託者が協議を行い決定する。
- ・現在、バス停のない停留所には、仮設バス停を設置する。また、糸満市～那覇空港直行バス路線のバス停であることを明確にするため、フラッグ等によるサインを検討する。

②運行日について

- ・平成 26 年 8 月 1 日から平成 26 年 12 月 28 日の平日及び休日とする。
- ※その他の運行日として、イベントと連携した PR 活動を 1 日程度見込む。

③運行時間及び運行回数について

運行時間及び運行回数については次のとおりとする。

- ・運行時間は、那覇空港を基準に午前 8:00～午後 8:00 を基本とする。
- ・運行回数は、1 時間に 1 往復（一日 12 往復便）を基本とする。

④運賃について

運賃は「対キロ区間制」を基本とする。

- ・例 1：那覇空港～糸満観光農園：790 円（小児料金：400 円）
- ・例 2：那覇空港～道の駅いとまん：490 円（小児料金：250 円）

※運行ルートの一部変更等により、料金変更の可能性あり。

「一日フリー乗車券」の販売やその他の料金割引を実施する。

- ・一日フリー乗車券：1,500 円（小児料金：750 円）程度。

※一日フリー乗車券（スクラッチ式を想定）5,000 部程度の印刷を含む。

⑤運転手・車両の報告について

受託者は、運行業務に従事する運転手の免許証などの写しと運行に使用する車両の車検証の写し及び写真（正面、両側面、後面）を委託者に提出すること。

⑥代替車両について

車検・事故等により車両が使用できない場合、代替車両を運行し、空白期間をつくらないこと。

4) 運行車両

①使用車両について

使用車両は、中型バス（25～28 人乗り程度）とし一般乗合旅客自動車運送事業に使用する車両とする。

②車両デザインについて

車両のデザインについては別途協議とするが、「糸満～那覇空港直行バス」ということをわかりやすく表示すること。

③車両設備について

使用する車両設備は次のとおりとする。

- ・Wi-Fi 設備を搭載する。
- ・観光案内用モニターを搭載する。

④維持管理について

- ・車両に付随する消耗品、備品を適正に管理すること。
- ・道路運送車両法第 47 条、第 47 条の 2 及び第 48 条の規定に基づく車両の点検及び清掃など車両の適正な維持管理に努めること。

5) 車両車庫

車両については、受託者の車庫等で保管するものとする。

6) 運賃収入

運賃収入については、受託者の収入とする。

(2) 運行体制等

- 1) 受託者は旅客自動車運送事業運輸規則第 48 条の 2 の規定に定めるところによる運行管理規程の写しを委託者に提出すること。
- 2) 運行管理責任者は乗務員及び運行管理業務にかかるものを監督し、常に適正な運行管理に努めること。
- 3) 運行管理責任者は、業務を執行するにあたり交通安全に万全を期し、従事者に交通安全教育を徹底させること。
- 4) 運転中に事故が発生した場合は、運行管理責任者は直ちに事故調査をし、委託者へ事故の詳細を報告するとともに、速やかに事故処理の対応をすること。なお、故障並びに苦情等についても同様とする。

- 5) 受託者は運行ダイヤや運行ルートその他、受託事業にかかる問合せに対し、誠意をもって対応すること。
- 6) 天災その他やむを得ない事由により、運行の変更又は中止をする場合は速やかに委託者に報告すること。

(3) 報告等

- 1) 受託者は業務日誌（乗務員・利用者数・運賃収入・遅延状況等を記載したもの）を作成・保管し、1か月分をまとめた月報を作成のうえ委託者に提出すること。
- 2) 委託者が求めた際には、運行実態が確認できる関係書類を速やかに提示すること。

(4) 損害賠償

- 1) 行業務に起因する損害又は傷害に対する賠償については、受託者がその責めを負うこと。
- 2) 運行車両の自動車損害賠償責任保険、自動車任意保険、その他必要な保険などについては受託者が加入するものとする。

(5) 運行経費

- 1) 上記、委託金額に含むもの。
 - ・ 人件費
 - ・ 燃料油脂費
 - ・ 運行車両の修繕、点検、保管費
 - ・ その他運行に必要な業務にかかる一切の経費
(チラシや停留所への掲示等の作成にかかる経費は除く)
当初予定する運行日数が減じた場合は、日数に応じて委託金額から減じることがある。
- 2) 上記、委託金額に含まず受託者負担とするもの。
 - ・ 租税公課（自動車税・自動車重量税等）
 - ・ 保険料（自動車損害賠償責任保険料掛金、自動車任意保険料掛金）
 - ・ 許認可申請にかかる諸経費など運行準備にかかる一切の経費

(6) その他留意事項

契約に定めのない事項及び契約に変更または疑義が生じた場合は、委託者と受託者の双方が誠意をもって協議のうえ定めるものとする。

2. 観光プログラムの企画・実施

(1) 観光プログラム企画等

1) 観光プログラム企画・実施

- ①糸満市～那覇空港直行バスを利用し訪れた観光客が、糸満市の豊かな自然や文化を体験することで、何度も繰り返し訪れたい体験プログラムを、既存プログラム利用し、4企画以上企画・実施する。

想定される既存体験プログラム（例）

- ・あるつく糸満（漁港コース）
- ・あるつく糸満（真栄里コース）
- ・あるつく糸満（平和祈念堂コース）
- ・米須村丸ごと生活博物館

- ②“①”で企画開発した体験プログラム加え、周辺の観光施設、宿泊施設などと組み合わせた観光プログラムを2企画以上企画、実施する。
- ③糸満市～那覇空港直行バスの車内で、観光ガイドによるガイドアナウンスを企画、実施する。
- ・平成26年8月1日～平成26年12月31日の土日（44日）2往復便を想定。
- ④観光プログラム利用者に対し、アンケート調査を実施する。
- ※①及び②の観光プログラム実施にかかる費用は、収益事業を想定するため、本業務には含まれない。

2) 観光プログラム資料の作成

- ①観光プログラム資料のデザイン及び印刷製本、配布

上記で検討した観光プログラムや季節毎の糸満市の魅力を盛り込んだ資料の作成

ア 作成部数 5,000部

イ 仕様 A3版、全頁カラー印刷、両面程度

- ②資料の電子データをホームページ用に加工して提出

(2) 観光ガイドの養成

- ①観光地での体験プログラムの企画や実施に従事できる「観光ガイド」を養成するため、ガイド養成に必要となる研修を3回以上行う。
- ②バス車内の案内に従事できる「観光ガイド」を養成するため、ガイド養成に必要となる研修を3回以上行う。

(3) 関連施設との連携

- ①糸満市～那覇空港直行バスの利用者に対する周辺観光施設等の割引サービス等の協議・調整を行う。
- ②“①”の割引サービスに加え周辺観光施設等に対し、糸満市～那覇空港直行バスの利用者が受けることが出来るサービス等の提案を行う。

3. プロモーション活動等

(1) ポスター・チラシデザイン作製・印刷

以下のポスター・チラシ等のデザイン作製・印刷を行う。

1) ポスター

ア 作成部数 1,000 部

イ 仕様 A1 版、カラー印刷

2) リーフレット

ア 作成部数 30,000 部

イ 仕様 A3 版（三つ折）、カラー印刷

3) その他、情報誌等

観光情報誌や横断幕等による、情報発信（6ヶ月程度）。

4) 多言語対応

リーフレット等、可能な限り、英語、韓国語、中国語（簡体字、繁体字）の多言語対応とする。

(2) WEBサイト等の作製

1) ホームページの構築及びデザインの作成

①糸満市～那覇空港直行バスに関わる以下コンテンツの発信

- ・おすすめコース・おすすめツアー
- ・利用方法
- ・割引サービス等の紹介
- ・各体験イベントのコースマップ
- ・写真ギャラリー
- ・PR動画
- ・観光マップ
- ・SNS（Facebook、Twitter 等）、YouTube 動画と連携
- ・イベント一覧と外部サイトへのリンク

想定される外部サイトへのリンク（例）

- ・糸満市、沖縄県ホームページ
- ・沖縄観光コンベンションビューロー(OCVB)ホームページ
- ・糸満市観光協会ホームページ
- ・主要観光施設ホームページ
- ・交通事業者ホームページ など

②糸満市～那覇空港直行バスに関わる以下コンテンツの発信

2) Wi-Fi(無線LAN)の構築

糸満市～那覇空港直行バスの車両（車両4台）において、Wi-Fi(無線LAN)の構築を行う。

3) システムの保守運用管理

(3) 情報発信

- ①糸満市～那覇空港直行バスを広くPRするため、新聞・雑誌、テレビ・ラジオ、インターネット（フェイスブック、ブログ、ホームページ）等を活用し、糸満市～那覇空港直行バスや、それらを活用した体験型プログラム、イベント情報等の発信を行う。
- ②糸満市の魅力を効果的に情報発信するため、インターネット動画サイト、及び車内で配信する動画番組を1番組以上及び車内放送を制作する。
- ③沖縄県や沖縄観光コンベンションビューロー(OCVB)が参加する旅行展示会や商談会へ同行するなど、旅行事業者が催行する旅行商品への組み入れや、宿泊プランとして体験プログラムが継続的に実施されるよう、県外旅行イベント等へ参加（2回以上）し、営業宣伝活動を行う。

4. 利用実態調査・運行計画見直し

(1) 利用実態調査

成果指標の達成度、見直し基準に対する状況、運行計画を見直すため、以下の調査を実施する。

1) 住民アンケート調査（沿線地区）

糸満市～那覇空港直行バスの沿線住民に対してアンケート調査を実施し、路線バス等の利用状況や満足度等を把握する。

※ 沿線：約 6,479 世帯（平成 25 年 10 月広報配布世帯）

2) 観光客アンケート調査

糸満市～那覇空港直行バスの利用状況や観光客ニーズを確認するとともに、運行計画の見直しの基礎資料とする。

※ 調査地：宿泊施設（サザンビーチホテル・スポーツロッジ）、琉球ガラス村、美々ビーチ、道の駅、ひめゆりの塔

3) 利用実態調査

糸満市～那覇空港直行バスの沿線の利用者数・サービス状況を整理するとともに、利用実態及び利用者ニーズはより明確に把握するため、糸満市～那覇空港直行バスの沿線に乗込み、調査を行う。

※ 調査期間：4 台×平日・休日（2 日）×2 回

(2) 運行計画の見直し

1) 中間見直しの検討

①実証実験の中間時において、利用実態調査の結果等を基に成果指標・見直し基準の状況を確認する。

②糸満市～那覇空港直行バスの運行計画を再検討する。

- ・運行ダイヤ
- ・停留所 など

2) 本格運行の検討

①利用実態調査の結果等を基に実証実験結果を受け、本格運行の可否に向けた検討を行う。

②糸満市～那覇空港直行バス（本格運行）の運行計画を検討する。

5. 実証実験の運営

(1) 実証実験運営に関する事務

- ・実証実験に関連するイベント、トラブルの問い合わせへの対応
- ・実証実験に関連する許認可の対応や契約全般への対応

(2) 委員会等の運営補助

実証実験の内容、今後の方向性等について協議を行う「検討委員会・幹事会」に諮るための資料作成や調整、委員会の運営補助等を行い、その結果を議事録として整理する。また、委員会の検討内容と市全般の政策と整合性を図る為、庁議報告の資料作成等を行う。

1) 委員会 4回開催

2) 幹事会 4回開催

※幹事会に関しては主体的に運営を行い、幹事報酬費等も委託費内に含む。

3) 庁議等報告 2回

(3) 報告書の作成・印刷

本実験結果を項目ごとに整理し、報告書として取りまとめを行う。

また、報告書は、10 ページ程度に要約した概要版の作成も行う。

報告書は、紙媒体及び電子媒体を納入するものとし、報告書のファイルフォーマットは、マイクロソフトワードとする。

- ・報告書製本（カラー印刷・くるみ製本・A4版） 60 部
- ・報告書概要版（カラー印刷・A4版） 60 部
- ・電子データ（報告書原稿等・CD-R） 一式

8－2．事例調査

（1）県内事例

	那覇市 （那覇市内観光周遊バス ゆいゆい号）	南城市 （おでかけなんじい）	沖縄市 （中心市街地循環バス）
事業概要	○事業主体：那覇市経済観光部（那覇市観光協会） ○事業スケジュール ・平成24年度 運行準備 ・平成25年度～実証実験 ・平成27年度～本格運行（予定） 本格運行後、バス会社による自主運行へ移行予定。	○事業主体：南城市企画部 ○事業スケジュール ・平成24年度 計画策定 ・平成25年度 無償実証実験 ・平成26年度から 有償実証実験（予定） ・平成28年度 本格運行（予定）	○事業主体：沖縄市経済文化部 ○事業スケジュール ・平成22年度 無償実証実験 ・平成24年度 有償実証実験 ・平成25年度から本格運行へ以降 （1～2年を目処に委託業務から補助業務へ移行予定） ※5年後に事業を総括し、継続等の検討を行う。
導入目的	那覇市を訪れる観光客の多種多様なニーズに応えるための一方策とした市内の観光地や宿泊施設等を結ぶ周遊バス事業実証実験。 （社）那覇市観光協会が実施している「那覇まちま～い事業」との連携により、午前中の便にガイドを乗車させ、観光案内の実施と周遊バスを活用した商品開発を行うことにより市内滞在型の観光モデルとして、観光の振興を図る。	4町村合併による市民の移動範囲の拡大に対応するため、経費を押さえつつ、交通弱者に対する交通手段の確保を期待したオンデマンド交通の取り組み。	中心市街地活性化法に基づき、沖縄市中心市街地活性化基本計画を策定し、平成22年3月内閣総理大臣の認可を得て、活性化に向けた取り組みとしてスタート。 中心市街地循環バス実証実験事業の目的は、①中心市街地内における回遊性を向上させ、にぎわいの創出を図ること。②中心市街地居住者の生活利便性の向上を図り、中心市街地の魅力を高め、まち全体としての付加価値を創出することである。
運行計画の概要	○運行ルート：首里城公園、敷名園など主要観光地と宿泊施設を周遊（1周75分） ○運行形態：定時定路線型 ○対象者：利用制限なし（観光客がターゲット） ○運行時間：午前8時30分～午後6時（那覇B.T） ○運行本数：1日25便（20～25分間隔） ○料金：1回220円（1日乗車券660円） ○使用車両：中型バス4台	○導入エリア：市内全域（久高島は除く） ○運行形態：デマンド型 ○対象者：65歳以上の交通弱者及び観光客（市民は登録制、観光客は登録無用） ○運行時間：午前8時～午後9時 ○料金：無料（平成26年後から有料を予定） ○使用車両：10名乗（レンタカー：5台） ○利用方法：事前予約（予約受付は利用の1時間前まで）	○運行ルート ＜胡屋ルート＞胡屋地区周辺を循環 ＜コザルート＞胡屋地域とコザ十字路地域を結び循環 ○運行形態：定時定路線型 ○対象者：利用制限なし ○運行時間：午前10時～午後7時 ○運行本数： ＜胡屋ルート＞1日15便運行（30分間隔） ＜コザルート＞1日16便運行（30～40分間隔） ○料金：1回100円（小学生以下、障がい者は無料） ○使用車両：小型バス2台
利用促進策など	・準備段階の時点から、各種プロモーション活動を行っている（例：モノレール中吊り広告、空港内の広告、配布用チラシ等の作成・配布、JTB時刻表や情報誌への掲載、旅行商品開発、ホームページ作成など） ・その他、バスラッピング、「那覇ゆいまーるガイド」と連携した車内ガイド、旅行代理店へのPR等を実施 ・モノレールにも乗れる1日乗車券（1,000円）を開発	・利用者アンケートによるニーズ調査 ・市ホームページや広報誌等による広報	・利用者アンケートによるニーズ調査 ・市ホームページや広報誌等による広報

那覇市（那覇市内観光周遊バス「ゆいゆい号」）資料

那覇の人気観光スポットをゆったり巡る

那覇ま〜い

那覇市内観光周遊バス
Naha Sightseeing City Loop

ゆいゆい号



観光に便利!

1日25便

20~25分毎の運行!

(このバスは一方方向のみの運行となります)

1日10便に
那覇ま〜い
ガイドが
乗車します。



乗車料金			
1回運賃	大人 220円	小児 110円	
	身障者割引 大人 110円	小児 60円	
1日乗車券	大人 660円	小児 330円	
	身障者割引 大人・小児 330円		

那覇市内均一回数券、那覇バス市内定期券もご利用できます。

※左記料金に施設の入場料は含まれません。
※ゆいゆい号は乗り降り自由の路線バスです。
※1日に何回もご利用の場合は1日乗車券がおトクです。
※1日乗車券は那覇バス・市内線でもご利用できます。
※身障者割引の場合は、障害手帳の提示をお願いします。

ゆいレールもバスも一日乗り放題!

バスモノパス

大人	小児
1,000円	500円

フリー区間: 沖縄都市モノレール全線
那覇バス市内均一区間

沖縄初!

観光に

買物に

移動に

好評運行中!!

〜那覇の観光情報ならおまかせ〜



那覇市・一般社団法人 那覇市観光協会

お問合せ

TEL:098-862-1442

<http://www.nahama-i.jp/>

〒900-0013 那覇市牧志2-1-4

TEL:098-862-1442 FAX:098-880-6893

ゆいゆい号

検索



乗車料金		
1回運賃	大人	220円
	小児	110円
1日乗車券	大人	660円
	小児	330円
身障者割引 大人・小児 330円		

※上記料金に施設の入場料は含まれません。
 ※ゆいゆい号は乗り降り自由の路線バスです。1日に何度もご利用の場合は1日乗車券がおトクです。
 ※身障者割引の場合は、障害手帳の提示をお願いいたします。

ゆいレールもバスも一日乗り放題!

バスモノパス

大人 **1,000円** 小児 **500円**

フリー区間: 沖縄都市モノレール全線、那覇バス市内均一区間
 ※バスモノパスは、那覇バス営業所、ゆいレール各駅でご購入ください。

那覇市内観光周遊バス「ゆいゆい号」1日乗車券販売窓口			
	窓口	TEL	販売時間
那覇バス	那覇販売所 (那覇バスターミナル内)	098-867-6083	月~土 8:00~20:00 日・祝日 10:00~17:00
	空港事務所 (那覇空港国内線到着ロビー内1階)	098-840-1613	9:00~18:00 (年中無休)
	沖縄三越7階	098-869-4137	10:30~19:00、元日休み
その他	デパートリウボウ8階 ブレイクアクト(バレットくもじ内)	098-867-1171	10:30~20:30 旧盆・ウークイ・元日休み
	リウボウ旅行サービス レグザリウボウ1階(ロコアナハ内)	098-860-3232	10:00~19:00 (年中無休)
	沖縄ツーリスト本店 (国際通り)	098-862-1111	月~金 9:30~18:30 土・祝日 9:30~17:00、日曜日休み
	那覇市観光案内所 (沖縄通り)	098-868-4887	月~金 8:30~20:00 土・日・祝日 10:00~20:00
	※車内販売につきましては、枚数に限りがあります。なるべくご乗車前にご購入ください。		

南城市（おでかけなんじい）資料



公共交通の現状と課題

本市の従来の公共交通体系では、4町村の合併による窓口業務等の行政サービス、イベント開催地の変化による市民の移動範囲の拡大に対応できておらず、交通弱者に不便を強いている。

その他にも高齢化や過疎化が進む地域においては、生活交通の弱体化が進み、交通弱者の生活必需品の調達や通院に支障をきたすなど、超高齢社会に対応していない。高齢者以外についても市外への通勤通学における不便さは若者が定住しない要因となっている。

また、本市は豊富な自然環境と歴史文化遺産を活かした観光産業の振興に力を入れており、周遊型観光のみならず、市内宿泊施設や民泊を活用した体験滞在型観光を推進している。しかし、観光資源の近くに停留所がない、便数が少ない、乗換が不便である等の理由から、路線バスによる観光は困難である。また、レンタカーやマイカーを利用した場合でも、観光地への順路が複雑で所在地がわかりにくく、カーナビを利用してもなかなか辿り着けないといった状況があり、本市の観光振興の妨げとなっている。※観光入客300万人達成にあたり公共交通の果たす役割は大きい。

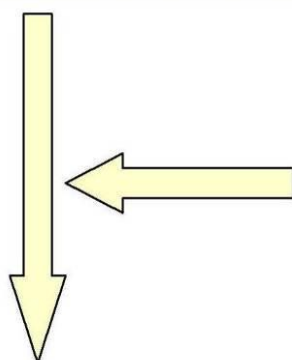
市民（交通弱者）及び観光客の移動手段の確保を目的に、新たな公共交通の見直しについて検討。

デマンド交通に求められる役割の整理

南城市における交通に関する課題、事例研究で把握されるデマンド交通の特徴を踏まえ、南城市におけるデマンド交通に求められる役割を整理した。

【南城市における交通に関する課題】

- 課題①公共交通の運行経路の見直し
- 課題②公共交通の運行頻度の増加
- 課題③沿岸部を中心とした観光客の周遊支援
- 課題④公共交通での南城市への来訪促進
- 課題⑤市内全域に点在する交通弱者の移動手段の確保
- 課題⑥交通弱者の広域的な移動支援
- 課題⑦交通弱者の平日・日中の移動支援



【デマンド交通の特徴】

- 決まったルートでの運行や、ルートが定まっていないドア to ドアでの運行など柔軟な運行が可能
- 予約がない場合は、運行を行わないなど需要に応じた効率的な運行が可能
- 小型のバスやタクシーなど路線バスより小型車両での運行されている例が多く、幅員の狭い道路の通行が可能でかつ経済的

役割①公共交通空白・不便地域における路線バスの補完

南城市内にはバス停から離れた地域や、路線バスの運行頻度が少ない地域もあり、運行ルート、運行時間に小回りが利くデマンド交通の特徴を活かした路線バスの補完が求められる。

役割②既存の路線バス等と一体となった公共交通ネットワークの形成

既存のバス路線網は、那覇方面へのアクセス利便性は高いが、南城市内の地区内を結ぶ路線がない、運行頻度が少ないなど利用者からみて不十分な点がある。那覇方面等の市外への移動は路線バス、南城市内からバスターミナルやバス停までの移動はデマンド交通といったような各種公共交通機関が一体となった公共交通ネットワークの形成が求められる。また、南城市においては、庁舎間巡回バスやがんじゅうバス等との整理・統合が検討される必要がある。

役割③持続可能な公共交通ネットワークの形成

南城市では公共交通への財政負担が年々増加している状況であり、デマンド交通の導入による持続可能な公共交通ネットワークの形成が求められる。

役割④南城市への観光需要の喚起

現在南城市に訪れている観光客の大半は、クルマ利用者であり、クルマを運転できない方にとって南城市内の回遊は市内での移動が不便なため訪れにくい状況となっている。このような状況のもと、デマンド交通は南城市への観光需要喚起に向けた回遊手段としての役割が求められる。

役割⑤南城市の活性化に向けた交通弱者の外出促進

南城市内全域にわたって、日常の移動に不便を感じている交通弱者の方が点在し、移動手段がないために外出をあきらめている状況がみられる。このような状況のもと、デマンド交通は南城市の活性化に向けた交通弱者の外出促進のための移動手段としての役割が求められる。

表 5-6.南城市のデマンド交通の運行形態と実証実験の運行形態

項目	南城市のデマンド交通の 運行形態(本格導入)	実証実験での運行形態	備考
導入エリア	対象エリアを限定	久高島を除く市内全域	本格導入時は路線バスとの役割分担を明確にした上で、エリアを設定
利用対象	交通弱者等に利用対象を限定	65歳以上に限定	実証実験では利用状況を見ながら、利用対象を見直し
利用料金	有償	無償	実証実験は、実験内容の変更等の柔軟性を重視し、無償で実施
運行形態	ドア to ドア	ドア to ドア	観光客向け等で定路型の運行も検討
運行曜日・時間帯	平日・休日両方の終日	平日・休日両方の終日	
車両	10人乗りのジャンボタクシー用車両	10人乗りのジャンボタクシー用車両	実証実験で利用した車両を本格実施でも利用
利用方法	—	観光客は登録なし、市民は登録制での1時間前の事前予約	本格導入時は、実証実験の利用方法を引き継ぐ

コザルート時刻表 (銀天街地域と胡屋地区を結ぶ行ルート)																
バス停名称	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
1 沖縄市役所	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:35	16:12	16:52	17:32	18:15
2 安慶田バイパス (安室橋)	10:02	10:32	11:02	11:32	12:02	12:32	13:02	13:32	14:02	14:32	15:02	15:37	16:16	16:56	17:36	18:18
3 安慶田バイパス (徳洲会入口)	10:04	10:34	11:04	11:34	12:04	12:34	13:04	13:34	14:04	14:34	15:04	15:39	16:18	16:58	17:38	18:20
4 銀天街 (コザ十字路)	10:06	10:36											16:20	17:00	17:40	18:22
5 社会福祉センター	10:11	10:41											16:25	17:05	17:45	18:27
6 農産市場	10:13	10:43											16:27	17:07	17:47	18:29
7 喜望峯公民館	10:15	10:45											16:30	17:10	17:50	18:32
8 沖縄市民会館	10:17	10:47											16:32	17:12	17:52	18:34
9 コリンザ	10:19	10:49											16:35	17:15	17:55	18:37
10 一番街・サンシティ	10:21	10:51											16:38	17:18	17:58	18:40
11 ミュージックタウン	10:23	10:53	11:23	11:53	12:23	12:53	13:23	13:53	14:23	14:53	15:23	16:04	16:44	17:24	18:04	18:52
12 沖縄市役所	10:27	10:57	11:27	11:57	12:27	12:57	13:27	13:57	14:27	14:57	15:27	16:10	16:50	17:30	18:13	19:00

運行間隔約 30～40分
1日16便運行

胡屋ルート時刻表 (胡屋地域を循環する運行ルート)															
バス停名称	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
1 沖縄市役所		10:00	10:40	11:20	12:00	12:40	13:20	14:00	14:40	15:20	16:00	16:40	17:20	18:00	18:40
2 沖縄こどもの国		10:05	10:45	11:25	12:05	12:45	13:25	14:05	14:45	15:25	16:05	16:45	17:25	18:05	18:45
3 沖縄郵便局												16:48	17:28	18:08	18:48
4 中の町バス停												16:51	17:31	18:11	18:51
5 ミュージックタウン												16:53	17:33	18:13	18:53
6 テレワークセンター												16:56	17:36	18:16	18:56
7 コリンザ												16:59	17:39	18:19	18:59
8 中の町公民館												17:04	17:44	18:24	
9 コザ運動公園												17:07	17:47	18:27	
10 沖縄市文化センター												17:09	17:49	18:29	
4 中の町バス停												17:12	17:52	18:32	
1 沖縄市役所	9:59	10:39	11:19	11:59	12:39	13:19	13:59	14:39	15:19	15:59	16:39	17:19	17:59	18:39	19:05

運行間隔約 30分
1日15便運行

中心市街地活性化推進課

政策会議 2012.12.27改

中心市街地循環バス実証実験事業

～循環バスの本格的な事業化の可能性を探るための実証実験事業～

● 事業実施の背景

近年のモータリゼーションの進展、郊外部への市街地の拡大、郊外及び近隣市町村への相次ぐ大型商業施設の乱立等により、中心市街地の空洞化。

商店街のシャッターを開け、中心市街地ににぎわいを取り戻すため、中心市街地活性化法に基づき、沖縄市中心市街地活性化基本計画を策定し、平成22年3月内閣総理大臣の認定を受け、活性化に向けた取り組みをスタート。

-活性化テーマ- **コザらしい生活ができるまち ～商店街から交流街へ～**

【基本方針①】

コザ文化の継承と発展によるにぎわいづくり

コザ文化を基軸としたまちなか交流の促進によるにぎわいの創出

- ① コザ文化を活用した交流人口の拡大によるにぎわいの創出
- ② 市民ニーズに即した空き店舗の有効活用による魅力ある店舗の創出と魅力ある商業空間の創出
- ③ 回遊性を高めるための仕組みの導入

【目標】 歩行者通行量（休日）の増加

現況：5,964人（H21） → 目標：6,302人（H26）

【基本方針②】

住む人目線での良好な生活空間の創出

中心市街地全体としての付加価値向上による生活環境の改善

- ① 都市福祉施設の充実による街の付加価値向上
- ② 中心市街地全体としての魅力を高めることによるまちなかにおける生活環境の改善
- ③ まちなか居住の推進と多面的な都市機能整備による良好な生活空間の創出

【目標】 都市福祉施設の年間利用者数の増加

現況：907,457人（H21） → 目標：1,021,057人（H26）

中心市街地活性化推進課

政策会議 2012.12.27改

● 事業の目的

中心市街地には市役所をはじめ様々な公共公益施設や都市福祉施設が集積している。これら施設間を循環し、**中心市街地内における回遊性を向上**させ、中心拠点である胡屋地区（ミュージックタウンや商店街）への誘客による**にぎわいの創出**を図る。

また、中心市街地居住者の**生活利便性の向上**を図り、中心市街地の魅力を高め、**まち全体としての付加価値を創出**することによる、中心市街地活性化を目的に中心市街地循環バス事業を実施する。

● 事業概要

① 中心市街地循環バスの実証実験運行

<胡屋ルート>

運行期間 平成22年6月～平成25年3月

運行ルート 沖縄市役所、こどもの国、ミュージックタウン、コリンザ、運動公園など胡屋地区周辺を循環

<コザルート>

運行期間 平成24年9月～平成25年3月

運行ルート 沖縄市役所、安慶田バイパス、銀天街、社会福祉センター、市民会館、一番街、サンシティ、ミュージックタウンなど、胡屋地域とコザ十字路地域を結び循環



② 中心市街地の情報発信

循環バスの車内において、中心市街地のイベント情報や商店街の店舗情報発信するため、チラシの設置や映像を放映したり、イベント開催時期にあわせた車内の飾りつけ等を行い、中心市街地の魅力をPR。

③ 利用者アンケート調査などの実施



中心市街地活性化推進課

政策会議 2012.12.27改

実証実験の結果及び検証

運行実績及び利用者実績



胡屋ルート													
平成22年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
運行日数(日)			21	31	30	30	31	30	31	31	28		263
利用者数(人)			2,017	6,097	7,119	6,512	7,162	5,909	5,832	4,752	4,872		50,272
1日平均(人)			96	197	237	217	231	197	188	153	174		191
平成23年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
運行日数(日)	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
利用者数(人)	5,050	4,971	6,243	7,347	7,850	6,889	7,319	6,377	6,233	5,583	5,567	6,147	75,676
1日平均(人)	168	160	208	237	253	230	236	213	201	180	195	198	207
平成24年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
運行日数(日)	30	31	30	31	29	28	31	30	31	31	28	31	361
利用者数(人)	5,993	6,239	6,111	7,124	3,746	2,766	5,659	6,146	5,607	5,427	5,277	6,138	66,233
1日平均(人)	200	201	204	230	129	99	183	205	181	175	188	198	183

※平成24年8月、9月は有料化実証実験

コザルート

平成24年度	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
運行日数(日)	26	31	30	31	31	28	31	208
利用者(人)	3,378	5,445	5,765	5,791	5,926	6,125	7,178	39,608
1日平均(人)	130	176	192	187	191	219	232	190

※利用者実績及び利用者ニーズにより平成25年3月まで運行を延長



中心市街地活性化推進課

政策会議 2012.12.27改

有料化実証実験

本格運行に向けた検討に資するため、以下の内容で有料化実証実験を実施。

【対象ルート】 胡屋ルート

【実験期間】 平成24年8月、9月の2ヵ月間

【料金体系】 1回あたりの利用につき一律**100円**
ただし、「小学生以下の子ども」及び「障がい者※」は無料

※障がい者については、それを証明する手帳など提示により無料



<実験結果（実績）>

	8月	9月	合計
運行日数	29	28	57
利用者実績（人）	3,746	2,847	6,593
一般	2,502	2,043	4,545
小学生以下	856	435	1,291
障がい者	388	369	757
1日あたり平均（人）	129	102	116
運賃収入額	250,200	204,300	454,500

<検証>

①有料化による利用者の増減

→ **43% 減少**

※平成23年度の同月による比較

②運賃支払対象者の割合

→ 全利用者の **約70%**

通年運行すると...

年間の利用者数 → 約45,000人
運賃による収入 → 約3,150千円

事業費の約1/4を賄うことが可能

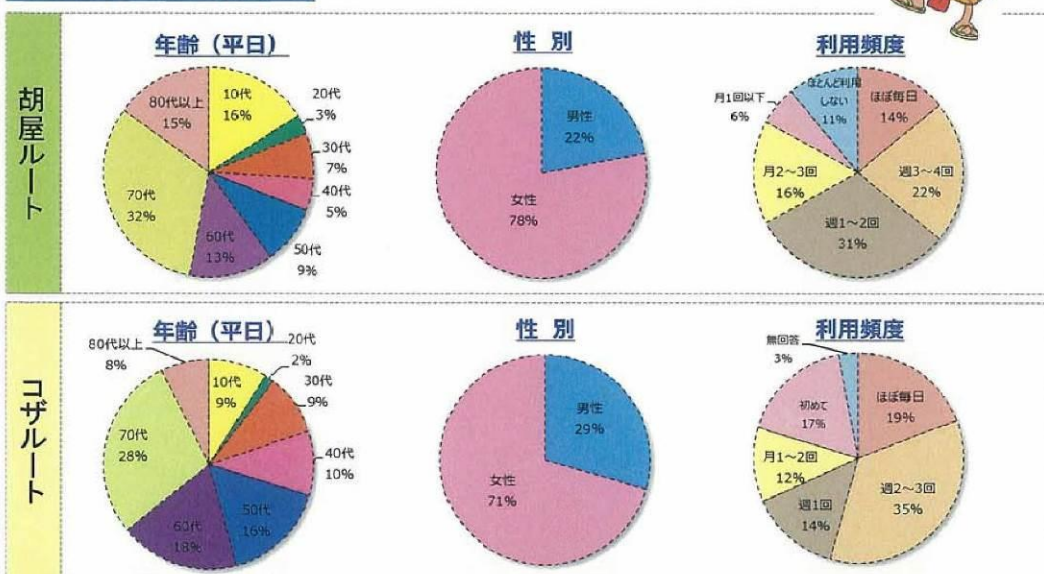
中心市街地活性化推進課

政策会議 2012.12.27改

利用者アンケート調査

本格運行に向け、利用者のニーズ等を探るため、毎年利用者へのアンケート調査を実施。
ここでは平成24年度に実施した調査結果を示す。

バス利用者の年齢層及び利用頻度



中心市街地活性化推進課

政策会議 2012.12.27改

（２）県外事例

	兵庫県神戸市 （シティ・ループ）	愛知県名古屋市 （なごや観光ルートバス　　メーグル）	福岡県福岡市 （福岡シティループバス　　ぐりーん）
事業概要	○事業主体：（財）神戸国際観光コンベンション協会 （神戸交通振興株式会社が運行） ○沿革 ・平成２年４月から運行開始 「シティループ」は平成１４年度末までは、（財）神戸国際観光コンベンション協会からの委託を受けて神戸市交通局が運行。 平成１５年度からは、神戸交通振興株式会社（神戸市交通局の外郭団体）が運行。	○事業主体：名古屋市市民経済局 （名古屋市営バスが運行） ○沿革 ・平成１９年７月から運行開始 当該路線は、名古屋市交通局のものではなく、名古屋市市民経済局が主体となって運営し、交通局が受託運行。車両は、名古屋市が所有しており、交通局が借り受けて運行。	○事業主体：西日本鉄道株式会社 ○沿革 ・平成２０年９月より運行開始 西日本鉄道㈱100周年記念事業の一環として、福岡市内の主要観光スポットを周遊する乗合バス「福岡シティループバス『ぐりーん』」の運行。 （平成２０年９月まで西鉄観光バスが運行していた福岡定期観光バス（博多の街はやまわりコースが廃止になり、その代替の意味合いも兼ねている。）
運行計画の概要	○運行ルート：神戸都心エリアの主要スポットを巡回 （１周約６３分） ○運行形態：定時定路線型 ○対 象 者：利用制限なし（観光客がターゲット） ○運行時間：午前９時～午後６時 ○運行本数：１日２６便（１０～１５分間隔で運行） ○料 金：１回２５０円（１日乗車券６５０円） ○使用車両：中型ノンステップバス （日本宝くじ協会からの助成金により寄贈）	○運行ルート：名古屋の中心部とその周辺の観光名所を巡回 （１周約９０分） ○運行形態：定時定路線型 ○対 象 者：利用制限なし（観光客がターゲット） ○運行時間：午前９時３０分～午後６時（月曜日運休） ○運行本数：１日１２便（２０～３０分間隔で運行） ○料 金：１回２００円（１日乗車券５００円） ○使用車両：中型ノンステップバス	○運行ルート：博多駅を基点に、福岡・博多の様々な観光スポットを巡回（１周約８０分） ○運行形態：定時定路線型 ○対 象 者：利用制限なし（観光客がターゲット） ○運行時間：午前９時～午後６時３０分（土日祝のみ） ○運行本数：１日１３便（３０～６０分間隔で運行） ○料 金：１回２５０円（１日乗車券７００円） ○使用車両：中型ノンステップバス
利用促進策など	○車内観光ガイド 神戸市内の見どころをテープではなく、ガイドが案内。 海外からの観光客に向けては、液晶式の案内表示機器で４ヶ国語（日本語、英語、中国語、韓国語）対応。 ○神戸シティー・ループバス「学旅」 団体申し込みにより、団体旅行（班行動、グループ行動）の行動予定に応じて臨時便で対応。 ○観光スポット割引サービス シティー・ループ１日乗車券の提示で受けられる割引サービスを実施。 ○車両デザイン等 神戸に良く似合うグリーンを基調として「走る異人館」をイメージし、屋根部には２重屋根飾りを採用しレトロ感あるデザインを採用。車内は、フレームを木材で組み上げた座席と木目調の壁・仕切りを組み合わせた内装を採用。 バス停もバス車両と統一したデザイン。	○車内観光ガイド 土日・休日の一部の便では、ガイドボランティアによって沿線の観光ガイドが行なわれている。 液晶モニターを２台備え、停留所案内のほか観光案内動画を放映。（「名古屋おもてなし武将隊」の徳川家康と陣笠隊の亀吉による放送） ○料金割引など メーグル沿線の観光施設が利用当日に限り割引で入場が可能。さらに、沿線の飲食店やホテルでも利用当日に限り特典を受けることが可能。 ○車両デザイン等 外観塗装も名古屋城の金鯱にちなみゴールドカラーとし、車内も名古屋名所をアイコンとしてあしらった黄色の特注モケットで装飾。また、天井には名古屋の高層建築が眺められるよう天窓が配置。	○車内放送 車内に設置するモニターや車内アナウンスを多言語（４ヶ国語）対応し、近年増加する外国人観光客にも福岡の魅力を伝えている。 ○料金割引など ぐりーんパスを提示すると、観光施設等で入場料の割引など、各種サービスを受けることが可能。 ○車両デザイン等 バス車両のデザインは、主に鉄道車両や駅ビルなどの公共デザイン分野で活躍する水戸岡鋭治氏によるもの。外装は「ぐりーん」の名称にちなんだ緑色を基調としたカラーリングで、内装は木材を多用しているほか、一部の車両では流線型の対面式座席にするなど“バスに乗ること”そのものを楽しさを感じさせるデザインを採用している。

兵庫県神戸市（シティ・ループ）

▼車両デザイン



▼車内放送



▼バス停



▼車内ガイド



▼車内



▼ルートマップ



愛知県名古屋市（なごや観光ルートバス メーグル）

▼車両デザイン



▼車内



▼ボランティアガイド



▼パンフレット置き場



▼ルートマップ



福岡県福岡市（福岡シティループバス グリーン）

▼車両デザイン



▼車内



▼バス停



▼一日フリー乗車券



▼ルートマップ



バス停名 バス 停留場名 Bus Stop Name			
1 博多バスターミナル 博多バスターミナル Hakata Bus Terminal	6 博多・福岡アジア美術館前 博多・福岡アジア美術館前 Hakata-Fukuoka Asia Museum-mae	11 大濠公園前 大濠公園前 Ohori Park-mae	16 福岡市博物館・防災センター前 福岡市博物館・防災センター前 Fukuoka Museum-Fukuoka Disaster Center-mae
2 博多駅前A 博多駅前A Hakata-eki-mae A	7 天神コア前 天神コア前 Tenjin Core-mae	12 唐人町 唐人町 Tojin-machi	21 博多・福岡アジア美術館前 博多・福岡アジア美術館前 Hakata-Fukuoka Asia Museum-mae
3 住吉神社入口 住吉神社入口 Sumiyoshi Jinja-inguchi	8 天神・警固神社・三越前 天神・警固神社・三越前 Tenjin-Kego Jinja Mitsukoshi-mae	13 ホークスタウン前 ホークスタウン前 Hawks Town-mae	22 祇園町 祇園町 Gion-machi
4 キャナルシティ博多前 キャナルシティ博多前 Canal City Hakata-mae	9 廣国神社・NHK放送センター入口 廣国神社・NHK放送センター入口 Gokoku Jinja-NHK Hoso Center-inguchi	14 ヒルトン福岡シーホーク ヒルトン福岡シーホーク Hilton Fukuoka Sea Hawk	
5 都田神社・博多町家ふるさと館前 都田神社・博多町家ふるさと館前 Kushida Jinja-Machiya Furusato-kan-mae	10 福岡城址・福岡市美術館東口 福岡城址・福岡市美術館東口 Fukuoka Castle-Fukuoka Museum Higashi-guchi	15 福岡タワー・マリゾン南口 福岡タワー・マリゾン南口 Fukuoka Tower-Marizon Minami-guchi	

8-3. ヒアリング調査記録

ヒアリング調査先一覧

調査先	施設名・組織名
県内事例	・那覇市（那覇市内観光周遊バス ゆいゆい号） ・南城市（おでかけなんじい） ・沖縄市（中心市街地循環バス）
沿道事業者 （宿泊施設）	・サザンビーチホテル&リゾート ・ホテル スポーツロッジ糸満
沿道事業者 （商業事業者）	・うまんちゅ市場（道の駅いとまん） ・サンエーしおざきシティ
沿道事業者 （観光事業者等）	・ひめゆり平和祈念資料館 ・糸満観光農園
観光関連組織	・糸満市観光協会 ・いちまりん/美ら島観光バス ・南部観光協会（NPO自然体験学校） ・米須自治会（まち歩きモデル） ・沖縄観光コンベンションビューロー(OCVB)
交通事業者	・沖縄都市モノレール（ゆいレール） ・琉球バス ・ときわ交通（タクシー）
旅行代理店	・株式会社 J A L J T Aセールス ・株式会社 J T B ・沖縄ツアーリスト株式会社（O T S）

「糸満市那覇空港直行バス路線事業者ヒアリング報告」

- 日 時：平成25年10月4日（月）14時00分～15時30分
 - 視察先：沖縄市観光課（那覇市内観光周遊バスゆいゆい号）
 - 対応者：（那覇市観光課）神谷 直樹 主幹
（那覇市観光協会）千住 直広、瀬底 幸江
 - 視察者：（政策推進課）喜納 正光、（株オオバ）武 米治郎、吉岡 誠
-

1. ヒアリングの趣旨（選定理由）

- ①平成24年度から平成26年度の2ヵ年間、那覇市内の主要観光地等を廻る「那覇市内観光周遊バスゆいゆい号」の企画から実施まで携わった方にその実態を伺う。

2. 実施状況について

（1）事業の概要

- ①平成24年度は運行準備の段階、1月に那覇市観光協会と契約し、計画周知のための広告、ラッピング等を行うためバスのリース、許認可などを行った。
- ②平成25～26年度は実証実験期間、平成25年6月に運行スタート。
- ③将来的（平成27年度以降）は、バス事業者による自主運行を目指している。
- ④平成24年度予算41,633千円、平成25年度予算167,995千円。

（2）平成24年度の運行準備

- ①企画の段階では、観光周遊バスは、A 那覇市内の主要観光地を巡るルート、B 那覇空港とホテル等を巡るルート、2つのルートを企画していたが、那覇空港とホテルを巡る路線バス（19番）が既にあることから、現在の主要観光地を巡るルートとなった。
- ②企画の段階では、神戸市（シティー・ループバス）や横浜市（観光スポット周遊バスあかいくつ）、仙台市（るーぷる仙台）の観光路線バスの事例を参考にした。
- ③既存のバスルートとの重複区間について、路線バス事業者の了解を得る必要があったが調整が難航し、企画の段階から手続き等に約1年程度の時間を要した。
- ④「ゆいゆい号」の名称は、公募で募集をした。
- ⑤車両デザインは、目立つ（派手な）デザインの案もあったが、市の景観条例の趣旨から、落ち着いたデザインとなった。ラッピング等の改造費は、1台120万円程度。

（3）運行ルート、料金について

- ①これまで、バスで「首里城公園」と「敷名園」へ行こうとすると、乗り換えが必要だったため、乗り換え無しで行けるルートとした。

- ②周遊ルートは左廻りのみ。予算との関係や、コース後半の国際通りが混雑し時間がかかる場合もあるため、1方向のみとなっている。
- ③午前の便は、那覇まちま〜いガイドが乗車し、観光ガイドを行っている。午後の便は、車内放送によるガイドとなる。那覇まちま〜いガイドには、1周 2000 円（一日最大 4000 円）を支払っている。那覇まちま〜いガイドは全 80 人在籍している。
- ④料金は、路線バスと同一料金（1回 220 円、一日乗車券 660 円、バスモノパス 1000 円）。一日乗車券等は、既存のサービスを利用しており、新しく作ったものではない。
- ⑤9月から一日乗車券による施設入場割引を開始した（敷名園、玉陵、市歴史博物館、壺屋焼物博物館）。

（４）乗客の反応

- ①一日 300 人程度が利用。
- ②ターゲットは、レンタカーを使わない観光客、修学旅行生の個人（班別）行動、フリーの外国人旅行客、地元客（路線バスとして活用）など
- ③観光オフ期の対策でもあるため、これから利用者を伸ばしていきたい。
- ④数回予定しているアンケート調査を実施し、ルートや時間等の見直しを行っていく予定。

（５）広告・PR 等

- ①平成 24 年度の準備段階からプロモーション活動を行っている。
 - ・県内外の旅行代理店、空港会社等に対するプロモーション
 - ・モノレール中吊り広告
 - ・配布用チラシ等の作成・配布（ポスター2,500 部、チラシ 60,000 部、パンフレット 20,000 部、4ヶ国語パンフレット 10,000 部）
 - ・空港内の告知
 - ・JTB 時刻表への掲載
 - ・マスコミ（新聞、テレビ、ラジオ）
 - ・ホテルブログ等
 - ・プロモーション DVD の作成・配布
 - ・ゆいゆい号を活用した旅行商品の開発
- ②修学旅行生を対象とした旅行商品は1年前から準備が始まるため、平成 26 年度に向けた営業活動を現在行っている。
- ②交通はあくまで手段であるため、「那覇まちま〜いガイド」の事業との連動など、観光商品として売り出している。
- ③観光客に認知してもらうまで、時間がかかるため、数ヶ月の実証実験期間では、観光客が認知し始めた頃にはバスが走っていない状況になる可能性がある。

（６）契約形態

- ①（一社）那覇市観光協会と業務委託契約を締結し、その中でバス事業者との運行契約や、バスのラッピング、那覇まちま〜いガイド、県内外旅行代理店等への PR 等を実施している。
- ②バス事業者の選定にあたっては、観光バス事業者の話もあったが、路線バス免許に時間がかかるため、路線バス事業者と契約を締結した。
- ③一括交付金事業という性質上、公平性の観点からプロポーザルか入札による契約が良い。

（７）アドバイス、課題等

- ①観光客や市民に対し、どのように周知・PR していくのか、観光商品として、交通と観光の連携等。
- ②既存路線バス会社との調整に時間がかかったため、早めに調整の場を持った方がよい。
- ③社会実験では、収入（運賃）と支出（運行経費）の差額が補助の対象となるため、協賛金や広告による収入分は、補助金の返還となる。しかし、社会実験後の本格導入を考えるのであれば、社会実験中から協力してもらうスキームもありえる。

以 上

「糸満市那覇空港直行バス路線先進事例現地視察報告」

○日 時：平成25年9月3日（火）10時00分～11時05分

○視察先：南城市 企画部 政策調整課 情報政策係

○対応者：比嘉知恵 主任主事、古謝匡之

○視察者：（政策推進課）喜納正光、（株オオバ）武 米治郎、翁長秀樹

1. 視察先の特徴（選定理由）

- ①市民(交通弱者)及び観光客の移動手段の確保を目的に、新たな公共交通の見直しについて取り組んでいる事例。
- ②「デマンド交通」を採用して、平成25年度から実証実験に取り組んでいる事例。

2. 質問に対する回答

＜動機、導入のきっかけ、導入経緯＞

4町村合併による市民の移動範囲の拡大に対応するために、特に交通弱者に対する交通手段の確保が求められた。経費を押さえつつ効果を期待してデマンド交通に取り組んだ。

（1）デマンド交通を採用した理由について

- ①既存の路線バス路線が不便だが、路線の変更が困難。
- ②定時、定路線の庁舎循環バスを運営しているが、乗る人がいない。
- ③観光資源がカーナビでも探すのが困難な場所にあり、目的地までたどり着けないケースもある。

※ システムから着手するために、政策調整課情報政策係が担当することになった。

（2）事業全体のスケジュールについて

- ・平成24年度 計画策定 委託料：約600万円（判断材料となる数値目標は、あらかじめ設定しなかった。）
- ・平成25年度 無償実証実験 11月～3月上旬、約4,000万円
- ・平成26年後 有償実証実験 できるだけ、長く実験を行いたい。2年度以降は有償とするように沖縄県から指導された。
- ・平成27年度 有償実証実験
- ・平成28年度 本格運送

※ 実験期間を3か年に分けて行うのは、料金、対象者等、条件を変更して実験を行うため。

（3）実証実験の計画について

- ①運行時間：午前8時～午後9時（年中無休）
- ②導入エリア：市内全域（久高島は除く）

- ③対象者：65歳以上の交通弱者及び観光客（市民は登録制、観光客は登録無用）
- ④使用車両：10名乗り乗用車（レンタカー：5台）
- ⑤利用方法：事前予約（予約受付は利用の1時間前まで）
- ⑥運行形態：ドア to ドア

（４）道路運送法との関係について

今年度は、無償実証実験を行う為、道路運送法に関連はない。ただし、今年度、次年度に向けて検討を行う。

（５）これからの課題について

- ①運行主体をどうするか、まだ決まっていない。
- ②既存公共交通とのすみわけをどうするか？
- ③観光客利用の方策

（６）観光客アンケートについて

ア）実施対象者について

対象施設を利用する観光客（県内在住も含む）

グループの場合は代表者1名、就学旅行の場合は引率の先生。

イ）対象者への実施方法について

聞き取り調査（ヒアリング方式）

※ユインチホテル南城については、ホテルフロントにて調査票配布・回収）

回答数 304枚、粗品としてウェットティッシュをプレゼント

ウ）実施場所と実施日等について

観光客の立ち寄りが多いと思われる施設で行った。

①おきなわワールド文化王国・玉泉洞

平成24年12月22日（土） 9:00～18:00 4名

②斎場御嶽

平成24年12月21日（金） 9:00～18:00 3名

③カフェくるくま

平成24年12月22日（土） 11:00～16:00 3名

エ）アンケート調査の課題について

回答者のほとんどがレンタカーやマイカー利用者であるためか、デマンド交通に対する関心が低かった。本来は、路線バス利用者等のデマンド交通を利用する可能性の高い観光客への調査も必要である。（路線バスを利用する観光客の絶対数が少ない）

(7) 住民アンケートについて

ア) 実施対象者及びその抽出方法について

交通弱者と思われる者を対象とした。対象者は、民生委員による判断。

イ) 対象者への実施方法について

民生委員にデマンド交通について説明し、民生委員が利用者になりそうな世帯に対し、聞き取り調査（ヒアリング方式）を行った。

(8) これからの課題について

- ①需要と供給の予測が立っていない。
- ②一括交付金の成果目標として利用者数は、65歳以上人口の10%。
- ③庁舎循環バスに掛かっている費用をデマンド交通にシフト。
- ④赤字路線の解消対策として、ルート・ダイヤの変更、バスの小型化。
- ⑤福祉事業ではないので、将来は、生活交通に引継ぎたい。

以 上

「糸満市那覇空港直行バス路線先進事例現地視察報告」

- 日 時：平成 25 年 10 月 4 日（金）14 時 00 分～15 時 00 分
 - 視察先：沖縄市 経済文化部 経済企画室中心市街地活性化推進課
 - 対応者：比嘉賢二係長、山口かおり係員
 - 視察者：（政策推進課）喜納正光、（株）オオバ 武 米治郎
-

1. 視察先の特徴（選定理由）

- ①「中心市街地循環バス」について、平成 22 年 6 月から平成 25 年 3 月まで実証実験を行い、平成 25 年 4 月から本格運行を行っている事例。

2. 質問に対する回答

<動機、導入のきっかけ、導入経緯>

中心市街地活性化法に基づき、沖縄市中心市街地活性化基本計画を策定し、平成 22 年 3 月内閣総理大臣の認可を得て、活性化に向けた取組みとしてスタート。

中心市街地循環バス実証実験事業の目的は、中心市街地内における回遊性を向上させ、にぎわいの創出を図ること。中心市街地居住者の生活利便性の向上を図り、中心市街地の魅力を高め、まち全体としての付加価値を創出するためにも、中心市街地循環バス事業に取り組んだ。

（1）循環バス事業（実証実験）の概要について

<胡屋ルート>

- ①運行期間：平成 22 年 6 月～平成 25 年 3 月
- ②運行ルート：沖縄市役所、こどもの国、ミュージックタウン、コリンザ、運動公園など胡屋地区周辺を循環。
- ③運行時間：始発 10:00（市役所） 終着 19:05（市役所）
- ④運行間隔：1 日 15 便運行（30 分間隔）
- ⑤使用台数：1 台

<コザルート>

- ①運行期間：平成 24 年 9 月～平成 25 年 3 月
- ②運行ルート：沖縄市役所、安慶田バイパス、銀天街、社会福祉センター、市民会館、一番街、サンシティ、ミュージックタウンなど胡屋地域とコザ十字路地域を結び循環。
- ③運行時間：始発 10:00（市役所） 終着 19:00（市役所）
- ④運行間隔：1 日 16 便運行（30～40 分間隔）
- ⑤使用台数：1 台

（２）中心市街地の情報発信について

循環バスの車内において、中心市街地のイベント情報や商店街の店舗情報を発信するため、チラシの設置や映像を放映したりして、イベント開催時期に合わせた車内の飾りつけ等を行い、中心市街地の魅力をPRした。

（３）運行実績と利用者実績について

＜胡屋ルート＞

- ①運行日数：H22 年度（263 日）、H23 年度（366 日）、H24 年度(361 日)
- ②利用人数：H22 年度（50,272）、H23 年度（75,676）、H24 年度(66,233)
- ③1 日平均：H22 年度（191 人）、H23 年度（207 人）、H24 年度(183 人)

＜コザルート＞

- ①運行日数：H24 年度（208 日）
- ②利用人数：H24 年度（39,608 人）
- ③1 日平均：H24 年度（190 人）

（４）有料化実証実験について

胡屋ルートで、平成 24 年 8 月と 9 月に 1 回当たり一律 100 円（小学生以下と障害者を除く）を徴収したところ、利用者数で 43%減。（H23 年度同月との比較）運賃支払い対象者の割合は、全利用者の 70%。

年間に置き換えた場合、運賃収入は約 3,150 千円見込むことができ、事業費の約 4 分の 1 を賄うことができると検証。

（５）実証実験の総括について

- ①平成 25 年度から本格運行へ移行する。
- ②本格運行後、1～2 年を目途に委託業務から補助事業への切替えの検討を行う。
- ③本格運行後は、5 年間を目途に事業の継続化を図る。運行ルートや運行時刻については、随時見直しと改善を図り、当該事業の全体的な総括を 5 年後に行い、その後の継続等について検討を行うものとする。

（６）本格運行について

ア）業者の決定方法

それぞれのルートに入札を行った。（既存バス路線会社が落札）

イ）使用バス車両

小型観光バスを車いす対応に改造。借上げよりも安価なため、沖縄市が 5 年間リース会社を通じて委託。（1 台当月額 35 万円）

1 ルートを 1 台で運行。

ウ）周知方法

3 年間の実証実験期間があったため、特別な広告は行わなかった。

エ) 運行時間

<胡屋ルート>

始発 9:00 (市役所) 終着 19:40 (市役所)

1 日 13 便運行 (40 分間隔)

<コザルート>

始発 9:00 (市役所) 終着 19:20 (市役所)

1 日 14 便運行 (35 分間隔)

(7) その他

- ① 広告収入は、民間に移した後で検討。
- ② 実証実験業務は、一括して中部観光バス会社に委託。
- ③ 福祉、定住促進施策、経済波及効果を狙った事業。
- ④ 中心市街地に住む便利さをアピール。
- ⑤ 既存バス路線との調整に難航。
- ⑥ 道路運送法第 4 条による申請は、約 3 ヶ月で許可。(事前協議有り)
- ⑦ 実証実験については、一法的に期間を定めるのではなく、利用者のニーズ等も聞きながら柔軟に対応し、比較的長いスパンで定着を図るべき。

以 上

「糸満市那覇空港直行バス路線事業者ヒアリング報告」

- 日 時：平成25年9月27日（金）10時00分～10時50分
 - 視察先：サザンビーチホテル&リゾート
 - 対応者：吉田知可 総支配人、吉野達治 営業支配人
 - 視察者：（政策推進課）喜納正光、（株オオバ）武 米治郎
-

1. ヒアリングの趣旨（選定理由）

- ①美々ビーチの利用者の多くは、当ホテルの宿泊客と判断し、アンケート調査及び実証実験に対し協力の依頼を兼ねて、ホテル利用者の動向について伺う。
- ②シャトルバス南風号の運行について主体的に取り組んでいるので、その実態を伺う。

2. アンケート調査について

（1）協力いただける内容

- ①フロントで渡し、フロントで回収。（客室において置く方法は、回収率が下がる。）
 - ②回収の際に粗品を渡す。（粗品の内容は、最初から表示しないほうがベター。）
- ※ まもなくオフシーズンに入るので、調査は早めに行なったほうが良い。
・・・10月10日頃から10月28日頃まで実施予定。

3. ビーチシャトルバス南風号について

（1）今年の実施状況

- ・7月20日（土）から9月1日（日）の44日間実施した
- ・乗客が集中する便と乗っていない便との差が大きかった。
- ・バスの効果で客が増えたかどうかは判断できない。
- ・ホテルもバス会社も負担に感じている。来年の予定は白紙。
- ・バス停の位置は、必ずしも全てのホテルの玄関前に置くことは出来なかった。
- ・国の指導により「無料」「ホテルシャトルバス」の言葉が使えなかった

4. 糸満市那覇空港直行バス路線の実証実験について

（1）協力いただける内容

- ①バス停の場所：玄関近くの敷地内とすることはOK。
（降りる場所と乗る場所は、同じにしたほうが良い。）
- ②PR活動：旅行社に対してPRする。
- ③バス利用者へのサービス：ホテル内の飲食の割引（例えば10%）

（2）ホテル事業者から見た意見

＜観光客にとって公共交通の充実を必要とする理由＞

- ①運転免許証を持たない方が増える傾向にある。若者においても免許取得率が下がってきている。
- ②那覇空港に着いてからレンタカーに乗って出発するまでに2時間程度を要する。混雑状況によっては、2時間半掛かる。
- ③料金はなるべく抑えるべき。例えば3～4人のグループ又は家族の場合、タクシーとすぐに比較する。30分とか1時間待って乗るのは、バスのほうが安いと思うからだ。

<市民にとって公共交通の充実を必要とする理由>

- ①工場団地の企業で働く従業員の需要もかなり見込むことが出来ると思う。現在、駐車場があふれそうな状況。

以 上

「糸満市那覇空港直行バス路線事業者ヒアリング報告」

- 日 時：平成25年9月27日（金）11時30分～11時50分
 - 視察先：ホテル スポーツロッジ糸満
 - 対応者：豊里俊雄 支配人
 - 視察者：（政策推進課）喜納正光、（株オオバ）武 米治郎
-

1. ヒアリングの趣旨（選定理由）

- ①アンケート調査及び実証実験に対し協力の依頼を兼ねて、ホテル利用者の動向について伺う。

2. アンケート調査について

（1）協力いただける内容

- ①フロントで渡し、フロントで回収。

※ まもなくオフシーズンに入るので、調査は早めに行なったほうが良い。

・・・10月10日頃から10月28日頃まで実施予定。

3. 糸満市那覇空港直行バス路線の実証実験について

（1）協力いただける内容

パンフレットを置く等、費用の掛からないサービスは協力を行いたい。ただし、費用の発生することについては難しい。バス利用者に対するサービス等は、ランチタイムにドリンクサービス等で既に行なっている。新たにサービスを行う予定はない。

（2）ホテル事業者から見た意見

＜観光客にとって公共交通に求めるもの＞

- ①料金はなるべく抑えるべき。例えば3～4人のグループ又は家族の場合、タクシー代と比べてあまり変わらなくなる。

現在の状況としては、電話で当ホテルへのアクセスを聞かれた場合、赤嶺駅までゆいレールを利用して、そこからタクシーを利用するように案内している。

（3）その他

スポーツロッジ利用者は、夏季はほとんど県内客であり、車を利用している。夏以外はスポーツ合宿が多く、貸切バスが多い。那覇空港直行バスの恩恵はあまり感じられない。

以 上

「糸満市那覇空港直行バス路線事業者ヒアリング報告」

- 日 時：平成25年10月9日（水）
 - 視察先：道の駅いとまん うまんちゅ市場
 - 対応者：（JA おきなわ）金城 和弘 副店長
 - 視察者：（政策推進課）喜納 正光、（株オオバ）武 米治郎、吉岡 誠
-

1. ヒアリングの趣旨（選定理由）

- ①実証実験との連携や観光客に対する割引サービス等の可能性について

2. 実施状況について

（1）事業の概要

- ①買物客の4割が市内、1割が県外から訪れている（シーズンにもよる）。
- ②道の駅からバス停が遠く、路線バスで訪れる買物客は、ほとんどいない。
- ③店舗の売上は、昨年比べ5～10%アップしている。
- ④安全性、生産者の顔が見える等、通常のスーパーとは違いを出している。
- ⑤マンゴーや沖縄野菜が売れ筋の商品。

（2）那覇空港直行路線の影響

- ①三和地区からの買物客は増える可能性がある。
- ②県外観光客はレンタカーで訪れる場合が多く、路線バスに乗ってくれるかが課題。

（3）荷物の預かりサービス

- ①ファーマーズマーケットのチラシや、横断幕の一部に実証実験 PR を掲載することは可能。
- ②路線バス利用者に対する商品の割引等のサービスは、数を限定するのであれば、協力できる可能性はある。

以 上

「糸満市那覇空港直行バス路線事業者ヒアリング報告」

○日 時：平成25年10月9日（水）

○視察先：サンエーしおぎシティ

○対応者：（株）サンエー 仲里 秀康 総合店長

○視察者：（政策推進課）喜納 正光、（株）オオバ 武 米治郎、吉岡 誠

1. ヒアリングの趣旨（選定理由）

- ①しおぎシティを中継ポイントとした、実証実験との連携の可能性を探るため

2. ヒアリング内容

（1）買物客の特性

- ①大きな駐車場があり、路線バスで訪れる買物客はいない。マイカーかタクシーで訪れる買物客が多い。
- ②糸満市、八重瀬町、豊見城市からの買物客が殆ど。
- ③西崎地区は、「にしぎき食品館」という店舗があり、食料品の買物は可能。
- ④買物客の滞在時間は、2～3時間程度。食料品のみであれば、1時間以内。平日よりも土日の方が、買物客は多い。

（2）実証実験との連携

- ①駐車場は通路が狭いため、バス等の車両乗り入れは出来ない。
- ②サンエーのチラシは、しおぎシティ店だけでなく、全体のチラシのため、実証実験のPRを掲載することは難しい。
- ③バス利用者に対する商品割引等のサービスは、会社と相談が必要。

以 上

「糸満市那覇空港直行バス路線事業者ヒアリング報告」

○日 時：平成25年10月10日（木）

○視察先：ひめゆり平和祈念資料館

○対応者：（：ひめゆり平和祈念資料館）諸見 徳一 総務課長

○視察者：（政策推進課）喜納 正光、（株オオバ）武 米治郎、吉岡 誠

1. ヒアリングの趣旨（選定理由）

①実証実験との連携や観光客に対する割引サービス等の可能性について

2. 施設利用者の状況

①近年、ひめゆり平和祈念資料館の入館者は、減少傾向にある。

②10月、11月は修学旅行生が多い。8月、9月、年末は個人の来館者が多い。

③来館時間は、修学旅行生は30分程度。じっくり見られる方は、1時間から2時間程度。

④外国人の来館者も多く、最低限の言語として、英語は必要と感じる。

3. 連携の可能性

①これまで研究発表やWEBによる広報活動を行ってきたが、外部講和が難しくなったことから、今年度から広告を出すことにしている（11月からモノレールの中吊り広告を予定。その他、空港やホテルにもパンフレットを置く予定）。

②社会実験が始まれば、ひめゆり平和祈念資料館への交通手段として、広告やホームページ等に掲載したい。

③バス利用者に対して、入館料の割引は可能。

以 上

「糸満市那覇空港直行バス路線事業者ヒアリング報告」

- 日 時：平成25年10月9日（水）
 - 視察先：糸満観光農園
 - 対応者：（糸満観光農園(株)）玉城 樹 代表取締役専務
 - 視察者：（政策推進課）喜納 正光、（(株)オオバ）武 米治郎、吉岡 誠
-

1. ヒアリングの趣旨（選定理由）

- ①実証実験との連携や観光客に対する割引サービス等の可能性について

2. 実施状況について

（1）事業の概要

- ①食品関連企業に対し、ピューレを製造が主な事業になっている。
- ②ワインの製造・販売を行っているが、ワインの製造を年中行っているわけが無いので、観光客に見せることが出来ない。
- ③体験プログラム等は、現在行っていない。
- ④グランドゴルフ（1 ゲーム 18 ホール 450 円、用具レンタル 100 円）の利用者が多い。
- ⑤利用者の多くは県内客。県外からの観光客は少ない。
- ⑥県外の特産品イベントに参加したり、お土産に適した小型ワインの販売等に取り組んでいる。

（2）連携の可能性

- ①現在、観光バスが入り口まで乗り入れてきており、バス車両の乗入れに問題はない。
- ②実証実験を予定している夏場は、農作物が少ない。秋以降であれば、畑を見せることは可能。
- ③ワインの試飲を行っており、グラスワインを販売することも可能と考えている。
- ④パークゴルフのハーフコースや、マウンテンバイクのコースであれば、1 時間程度で出来るので、路線バス利用者に良いかもしれない。
- ⑤場所は貸し出しできるので、イベントを実施してもらえればと考えている。

以 上

「糸満市那覇空港直行バス路線事業者ヒアリング報告」

- 日 時：平成25年10月4日（金）
 - 視察先：糸満市観光協会（あ・るっく糸満）
 - 対応者：（糸満市観光協会）上仲 誠一 事務局長
 - 視察者：（政策推進課）喜納 正光、（株オオバ）武 米治郎、吉岡 誠
-

1. ヒアリングの趣旨（選定理由）

- ①「あ・るっく糸満」事業との連携の可能性
- ②荷物預かりサービス等の可能性

2. 実施状況について

（1）事業の概要

- ①「あ・るっく糸満」は、観光ガイドと糸満のまちをあるく事業で、現在は A 字糸満コース、B 字大里コース、C 字兼城コース、D 字真栄里コースの 4 コースがある。前日午前中までの予約制、所要時間は 2 時間以内。
- ②参加者は、平成 24 年度が 10 ヶ月間で 109 人、平成 25 年度は半年間で約 90 人と増加傾向にある。
- ③路線バス（89 番）で訪れる観光客も、人数は少ないが増えている。

（2）「あ・るっく糸満」との連携

- ①A 字糸満コース（糸満漁港集合）は運行ルートに近いので、バスで来た観光客を案内することは可能。
- ②ガイドのメンバーからは、ガイドをもっとやりたいとの声がある。
- ③ガイドが出来る人員が少ないため、大勢の観光客への対応は難しい。

（3）荷物の預かりサービス

- ①現在の糸満市観光協会は、物理的なスペースが無く、荷物を預かることは困難。
- ②今年度、道の駅構内に防災センターが建設予定。建設後はその建物に観光協会が移転する予定のため、スペースが出来れば荷物を預かることは出来ると思われる。また、コインロッカーが設置される話もある。

（4）その他

- ①道の駅の広場を格安で貸し出すことで、イベントと那覇空港直行路線との連携は可能と思われる。
- ②実証実験に対し主体的な立場で携わることは、人員が少なく現時点では困難。

以上

あ・るっく糸満資料

糸満まちあるき

ガイドと
あるく

あ・るっく糸満

A LOOK ITOMAN

4コース

各コース2時間以内

旧暦文化で生きる海人のまち糸満を歩こう

字糸満コース



集合場所

糸満漁協

集合日時

毎週土曜日
10時

世界遺産になりたいな～南山城跡

字大里コース



集合場所

大里公民館

集合日時

毎週日曜日
10時

古い石垣文化 築130年の古民家をたずねて

字兼城コース



集合場所

兼城コミュニ
ティーセンター

集合日時

毎週土曜日
16時

旧8月16日大綱引きに燃えるまち

字真栄里コース



集合場所

糸満市立中央図書館駐車場

集合日時

毎週日曜日
16時

参加料金

お1人様 ¥1,000

(2名から催行します
参加料金は、当日、ガイドにお支払い下さい)

予約は前日午前中までに糸満市観光協会まで

電話:098-840-3100

FAX:098-840-3121

※各コースとも、実施日の前日、午前中までに予約をお願いします。

※各コース1回10名で受付を締め切らせていただきます。

※出発時間の10分前には、集合場所へお集り下さい。

「糸満市那覇空港直行バス路線事業者ヒアリング報告」

- 日 時：平成25年10月7日（月）14時00分～14時50分
 - 視察先：いちまりん（ビーチシャトルバス南風号）
 - 対応者：屋良朝仁 代表取締役、前門 悟（美ら島観光バス専務取締役）
 - 視察者：（政策推進課）喜納正光、（株オオバ）武 米治郎
-

1. ヒアリングの趣旨（選定理由）

- ①平成25年7月20日（土）から9月1日（日）の44日間、国際通り及び那覇空港と6カ所のホテルと2ヶ所のビーチを廻る「ビーチシャトルバス南風号」の企画から実施まで携わった方にその実態を伺う。

2. 実施状況について

（1）運行計画の決め方

- ①ルート：参加ホテルと利用者の利便に絞り込んだ。サザンビーチホテルから玉泉洞までのルートも検討したが、時間ロスを排除するために廻る施設を絞った。路線バスのバス停を使うことはできなかった。
- ②ダイヤ：人件費と燃料代程度のコストしか見込むことができなかった。1台のバスを2人の運転手で1日5便を運行。
- ③使用バス：定員45名の大型観光バス。定員を超えた人数は乗せないで、全員着席とした。
- ④料 金：無料（ホテルからの協賛金で運営）
- ⑤周知方法：ホテルのホームページやエージェント会社による広告が主で、海外からの客に対しても想定した。

（2）乗客の反応

- ①44日間の乗客総数は、3,364人。
- ②評判は上々。糸満市内で乗ってみたかったという乗客もいた。
- ③海外からの観光客が増加しており、特に台湾、香港、韓国からの個人客が増えている。
- ④海外からの観光客は、レンタカーよりも公共交通を望んでいる。
- ⑤費用対効果を判断することまでの調査分析は行っていない。

（3）各事業者から見た意見

＜観光客にとって公共交通の充実を必要とする理由＞

- ①海外からの観光客が増加しており、リピータや個人客の多種多様な要求（期待）に対して移動手段を増やすことは、観光施設及び飲食店等、地元とっても経済効果が期待できる。
- ②団体客では、地元は潤わないので、少人数の個人客をターゲットにすべき。

<市民にとって公共交通の充実を必要とする理由>

- ①レンタカー利用者だけではなく、定期観光バスの需要も伸びているので、公共交通によって観光地を訪れたい要望は増える。観光客が増えれば、興味を持った市民も利用する。

(4) 次年度の運行計画について

- ①企画は行う。ホテル業者の協賛金が集まれば運行予定
- ②時期は夏休みを予定、その時期は貸切バスに余裕があり、また観光客の需要が見込める。

(5) 糸満市の実証実験（８月～１１月）について

私たちが、計画、実践してきたことで行政が事業化してくれたことは嬉しい。私達が運行する場合、実証実験と時期が重なるがバス利用者の観点から考えると選択肢が多い方が便利になるので競合してもよい。

※) 糸満市担当より

時期的な競合は、お互いお客を奪い合う事になる。次年度はプロポーザル方式で事業者を決定するので、経験を生かして応募して欲しい旨を伝える。

ビーチシャトルバス南風号資料

ビーチシャトルバス南風号

南部の海へLet's GO!!

みなみかぜ

運行期間：2013年7月20日(土)～9月1日(日)の44日間

● 国際通り

● 那覇空港

サザンビーチホテル／美タビーチ
ホテルグランビュ－ガーデン沖縄
豊崎美らSUNビーチ／ホテルコアラハ

メルキュールホテル沖縄那覇
ホテルニューおきなわ

南風号 運行表					
	1便	2便	3便	4便	5便
① サザンビーチホテル／美タビーチ	8:30	10:35	16:30	18:45	21:00
② ホテルグランビュ－ガーデン沖縄	8:40	10:50	16:45	19:00	21:15
③ 豊崎美らSUNビーチ	8:45	10:55	16:50	19:05	—
④ ホテルグランビュ－沖縄	8:55	11:05	17:05	19:20	21:25
⑤ 那覇空港国内線(ムジジバス12番乗場)	9:05	11:15	17:15	19:30	21:35
⑥ メルキュールホテル沖縄那覇	9:20	11:30	17:30	19:45	21:50
⑦ 国際通り入口(ニッポンレンタカー前) ホテルコアラハ／ホテルニューおきなわ	9:30	11:40	17:40	19:55	22:00
⑧ 那覇空港国内線(ムジジバス12番乗場)	9:45	11:55	17:55	20:10	—
⑨ ホテルグランビュ－沖縄	9:55	12:05	18:05	20:20	22:10
⑩ 豊崎美らSUNビーチ	10:05	12:15	18:15	20:30	—
⑪ ホテルグランビュ－ガーデン沖縄	10:10	12:20	18:20	20:35	22:20
⑫ サザンビーチホテル／美タビーチ	10:25	12:35	18:35	20:50	22:35

※ 満席の場合は、ご利用できない場合がございます。予めご了承ください。

「糸満市那覇空港直行バス路線事業者ヒアリング報告」

○日 時：平成25年10月9日（水）

○視察先：沖縄南部広域観光協会

○対応者：（NPO 法人自然体験学校）若林 伸一 理事長

○視察者：（政策推進課）喜納 正光、（株オオバ）武 米治郎、吉岡 誠

1. ヒアリングの趣旨（選定理由）

①南部地域の民間事業者との連携の方法や、実証実験に向けた留意点等を確認

2. 実施状況について

（1）過去の実績等について

①沖縄県から委託を受け、まち歩きとセットのバスツアーを行っている。3ヶ月間で5,000件の予約がある。

②南部地域の観光事業者と連携し、クーポンブックの発行等も行っている。

（2）南部地域の連携に向けたアドバイス

①目的やターゲットを明確にする必要がある。

②那覇空港の観光客をターゲットにするのであれば、荷物の問題を解決する必要がある。道の駅で荷物を預かることが出来るのであれば、路線バスも道の駅で荷物を預ける時間をダイヤに組み込むなどが必要。

③観光客の多くは、最終日は夕方の飛行機を予約する傾向にある。最終日で国際通り以外の過ごし方を提案できれば、糸満市に訪れる可能性はある。

④沖縄のリピーター観光客を対象にした、コアな観光資源を調査してPRすることが重要。例えば、八重瀬町はシーサー発祥の地であり、第1号のシーサーが現存している。これを見に来る観光客もいる。

④レンタカーより、路線バスが得であることをどう演出するか。民間観光事業者とも連携して、割引クーポンブックの発行等でお得感を出す必要がある。

⑤PR方法は、雑誌以外にも、旅フェアやエコプロダクツ等のイベントで、PRする方法もある。

以 上

「糸満市那覇空港直行バス路線事業者ヒアリング報告」

○日 時：平成25年10月10日（木）

○視察先：米須自治会

○対応者：（米須自治会）山城 茂 会長

○視察者：（政策推進課）喜納 正光、（株オオバ）武 米治郎、吉岡 誠

1. ヒアリングの趣旨（選定理由）

①実証実験と米須まるごと生活博物館事業との連携可能性について

2. 実施状況について

（1）事業の概要

①地域の歴史や文化を観光客に案内しているが、食事の準備があるため、1週間前には予約をして頂いている。（一人2,200円）

②第6回タイムス地域貢献賞を受けるなど、認知度は高まってきている。

（2）連携の可能性

①前日の予約では対応が難しいため、準備をどうするか検討する必要がある。

②最低3人から案内しており、10人以上が最も案内し易い。上限は30人、それ以上になると体制が整わない。

③例えば、案内のプログラムを見直したり、時間や曜日を限定して案内するなど、実証実験の内容と併せて事業内容を考える必要がある。

④案内する知識の共有など、ガイドの育成を進める必要がある。

以 上

米須村丸ごと生活博物館事業資料



米須の歩んできた道と未来づくり

米須は、糸満市の南端にあり、太平洋を見渡す南向きのなだらかな斜面に位置します。現在の米須の人口(2011年12月末時点)は1,253人(男642人、女611人)です。この村の歴史をたどりますと昔から今につながるものがあります。

数万年前にサンゴ礁が隆起して出来た琉球石灰岩は、大地となり石灰岩は米須グスクの石積みや屋敷の石垣となりました。また、地下にある石灰岩層は、今日では雨水を蓄える地下ダムとして利用されています。

村の人がいつも見ている太平洋は、常に新たな出来事が到来する場でありました。大昔には、イノーを目の前にして人が住みついていた痕跡が米須貝塚に見られます。琉球王府の末期の頃には大度の浜にジョン・万次郎が上陸し江戸幕府に送られました。以後日本の開国が急速に進んでいきました。1945年には、沖縄戦が始まり、人々にとって幸福を運んできた海は、逆に大きな災いを運んできました。米須をはじめとした糸満一帯では、たくさんの戦没者ができました。米須においては、全人口の約5割が戦没し、全戸数の約2.5割が一家全滅となる悲慘な歴史を背負ってきました。

戦後は、遺骨収集と慰霊塔の建立に始まり、農業の復興と村の組織づくりに力が注がれました。その努力の結果が婦人会や青年会の活動となり、戦後の混乱期を助けあいでもって乗りきってきました。その気持ちを久場のマチヤ小のタンメーは琉歌に表しました。

親兄弟親類和睦しち、近所や人々とも、この世の楽しみ、しち暮らし

米須の土地は島尻マージヤカニク地と呼ばれる水持ちの悪い土壌で干害を受けやすく、水の確保に苦労してきました。米須の人々は、昔から湧水地を大切に敬ってきました。戦後は簡易水道が出来、今日では、上水道が完備され飲料水を確保する苦労から解放されました。また、2005年の地下ダムの完成により農業用水を確保することが出来これから農業生産を高めていく事が期待されています。

村の人々の暮らしは、以前に比べると豊かになりましたが、近年は、少子高齢化やコミュニティー力の低下が見られるようになりました。そのような課題を受けて米須の元気な未来をつくる事を目的とし、農村地域再生発見事業に取り組みました。2010年に米須農村再生発見事業世話役会が結成され、環境協定班、マップづくり班、生活学芸員班、おもてなし班、集落美化班、生活感幸班を組織し活動しています。活動の原点は村の歴史・文化を大事にする「ある物がし」による村活性化のビジョンづくりです。その全体像を「米須村丸ごと生活博物館」としました。村丸ごと生活博物館というのは、美しく、楽しく、睦ましい日々の暮らしを米須の人々が感じるとともに来訪者にもその気持ち良さを感じてもらふ村づくりを意味しています。それを「生活感幸」と掲げ、米須の未来づくりに向けて私たちは取り組んでいます。

米須地区環境協定書(概要)

米須自治会長と私たち区民は、米須のいい自然を守り伝え、共に生きる暮らしづくりを進め、米須の環境をよりよくしていくため、下記事項について遵守する事に努めます。

1. 水をきれいにしていきます。
2. 出来るだけゴミを出さない暮らしをします。
3. 自然と共に生きる暮らしを大切にしていきます。
4. 農薬や化学肥料は出来るだけ減らします。
5. 散歩の際、犬などのペットのフンは必ず持って帰ります。
6. 空地などに花を植え「米須花いっぱい運動」を推進します。
7. EMなどの有用微生物群を活用し、環境浄化に努めます。
8. あいさつは人が生活していく上での基本であり、みんなで挨拶の励行に努めます。

「糸満市那覇空港直行バス路線事業者ヒアリング報告」

- 日 時：平成25年11月26日（木）16時50分～17時30分
 - 視察先：沖縄観光コンベンションビューロー
 - 対応者：那覇空港観光案内所 當眞 さとみコーディネータ
 - 視察者：（政策推進課）喜納正光、（株）オオバ 武 米治郎
-

1. ヒアリングの趣旨（選定理由）

- ①那覇空港到着ロビーの案内所に勤務している方に直接、観光客の動向について意見等を伺う。

2. 路線バスの商品化について

（1）実証実験することや路線に対する意見

- ①実施する時期は、繁忙期になる5月からスタートした方が良い。
- ②使用する車両は、15名程度の小型バスとし、本数は30分おきで運行した方が案内しやすい。
- ③観光スポット以外のルートは省き、速達性を向上させた方が利用しやすい。喜屋武岬を加えることを検討して欲しい。

（2）PRのポイント

- ①「糸満まちまーい」とバス乗車券をセットで販売。お得感をアピールするために、入場料割引券を付ける等、各種の割引券を検討する。
- ②空港内の看板や案内所を活用する。
- ③車両はノンステップバスとし、「ゆるキャラ “いとちゃん”」「糸満ハーリー」「綱引き」を描いたラッピングを施す。
- ④OCVBのホームページで、多言語及び動画で紹介する。
- ⑤GPSのオーディオガイド（日・英・中・韓）を貸出す。
- ⑥車内又は観光地で、ボランティアガイドを常勤させる。
- ⑦ブログを読んでいる人が多くなっているため、外国のブロガーにPRを依頼する。

3. 問合せの内容について

（1）問合せ内容から見た外国人観光客の動向

- ①国際免許証を持っていない方も来沖され、バスに対する問合せは、日本人の年配者の次に多い。
- ②LCCを利用して訪れ、案内所に来る個人旅行者が増えつつあり、問合せ場所は、斎場御嶽、玉泉洞（おきなわワールド）、ひめゆり塔の順。
- ③観光客の視線では、スポーツロジ糸満、西崎運動公園、南部病院は不要。

(2) アクセスに関する問合せ

- ① アウトレットモールあしびなーが最多で、他は平和祈念公園、ひめゆりの塔、豊崎ちゅら SUN ビーチ、サザンビーチホテル等。
- ② 案内所に訪れる人は、到着日より出発日の方が多い。中でも、帰る便まで時間があるので、3 時間程度で行ける場所の問合せが多い。

(3) 案内するうえで心掛けていること

- ① 交通が不便な場所は、案内しづらいので避ける。
- ② 所要時間が正確でないとお薦めしない。

以 上

「糸満市那覇空港直行バス路線事業者ヒアリング報告」

- 日 時：平成25年11月26日（木）17時50分～18時30分
 - 視察先：沖縄観光コンベンションビューロー
 - 対応者：海外事業部海外プロモーション課 玉城 扇 課長
 - 視察者：（政策推進課）喜納正光、（株）オオバ 武 米治郎
-

1. ヒアリングの趣旨（選定理由）

- ①外国人観光客の動向について意見等を伺う。

2. 路線バスの商品化について

（1）実証実験することや路線に対する意見

- ①外国人の場合、着地型商品にあまり興味を示さない。もし、示すとしたら、ダイビング系かホエールウォッチングに限られる。
- ②外国人観光客は、なかなか路線バスには乗らない。レンタカー利用率は伸びている傾向。外国人をメインターゲットにするのではなく、乗降客の幅を広げる対策の一環として、外国人も対応すると考えた方が良い。
- ③沖縄を訪れる人数は、日本人：外国人＝300万人：50万人が見込まれているので、やはり日本人をメインに検討するべき。
- ④一口に外国といっても、国によって行動パターンがまるっきり異なるので、国を絞り込むべき。中国人は、戦争関連の場所を避ける。
- ⑤サザンビーチホテルは、年間を通じて利用されているので、ある程度乗降客を見込むことができる。

（2）PRのポイント

- ①PR媒体は、出発する前の者を対象にする場合と到着してからの者を対象にする場合では違う。いずれにしても、フェイスブック等を見ながら観光しているケースが増えているので、ブログを活用することが効果的。
- ②沖縄県やOCVBを始め、旅行社及び観光施設等のホームページにバナーを設ける。
- ③ガイドブックや旅行雑誌等の紀行欄に記事として載せる。OCVBの海外事務所は、依頼があれば協力する。
- ④レンタカーは、借りるまでの時間がかかり過ぎるので、バス路線の手軽さを売り物にできないか検討すると良い。
- ⑤PRは、早い段階から始め、宣伝期間を長く取るべき。

3. 外国人観光客満足度調査について

（1）平成24年度外国人観光客満足度調査報告書（抜粋）

- ①国籍別回答者数 2,328人中、台湾(28.2%)、香港(26.4%)、中国(20.1%)、韓

国(15.7%)の4か国で、9割以上を占める。

- ②年代別構成比は、全ての国籍で20代、30代が6割を占め、主要4か国全てで30代が最も多い。10代及び60代以上は、比率としては非常に低い。
- ③旅行形態としては、台湾は「観光付きツアー」が約半数を占め、韓国は「個人旅行」が約半数を占める。また、中国マルチビザ利用者と香港の約3割が「フリープラン」を利用している。
- ④「個人旅行」や「フリープラン」が利用する交通手段としては、レンタカーの利用率が最も高く、路線バスは、タクシー(約17%)より低い9%程度の利用率。
- ⑤観光の決め手となった情報源としては、香港と韓国以外では、「友人・親戚の薦め」の割合が最も高く、韓国では、「ブログ、SNS, Twitter」(43.6%)や「宿泊予約サイト」(25.2%)を利用する割合が他の国籍を大きく上回っており、インターネットを媒体とした情報収集する旅行者が多い。
- ⑥旅行中に役立った情報源としては、「フリーペーパー」が最も多く、次に「ツアーガイド」と「インターネット」が僅差で続いている。
- ⑦旅行中の交通機関に対して満足度している点は、モノレールやレンタカーの便利さが挙げられている。また、モノレールや路線バスの定刻通りの正確さを上げる一方で、バスの料金が低い、運行本数が少ない、渋滞がひどいといった不満の声が聞かれる。特に韓国と米国に不満の割合が高い傾向にある。

以 上

「糸満市那覇空港直行バス路線事業者ヒアリング報告」

- 日 時：平成25年10月10日（木）
 - 視察先：沖縄都市モノレール株式会社
 - 対応者：（沖縄都市モノレール） 総務部 営業企画課 上原 悟 課長
西崎 知浩 係長、外間 章悟 広報担当
 - 視察者：（政策推進課）喜納 正光、（株オオバ）武 米治郎、吉岡 誠
-

1. ヒアリングの趣旨（選定理由）

- ①糸満市那覇空港直行バスとの連携の可能性について意見等を伺う。

2. 糸満市那覇空港直行バスとの連携の可能性

- ①「バスモノパス（1,000 円）」を利用することで、沖縄都市モノレール全線と那覇バス市内均一区間（市外線も区間内なら利用可能）を自由に乗り降りする事が可能。
- ②那覇市のゆいゆい号は、既にあった「バスモノパス」を利用したのであり、社会実験のために新しくサービスを始めたわけではない。
- ③国への手続き等の関係もあり、糸満市那覇空港直行バスの社会実験にあたって、乗り継ぎ割引等のサービスを行うのは現時点では難しい。

3. 運行ルート等について

- ①赤嶺駅まで車で送り迎えをし、モノレールに乗継をされる利用者も多い。糸満市那覇空港直行バスのバス停を赤嶺駅に設置すれば、モノレールとの相乗効果もあると考える。
- ②那覇空港までバスで行き、モノレールに乗換て、那覇市街地に行くのは、心理的に抵抗感があるのではないかと。
- ③通勤通学を考慮したダイヤにするのであれば、夕方の運行間隔は 30 分に1本は必要。
- ④旅行者を対象にするのであれば、半日程度の空き時間が無ければ、糸満市まで来て頂けないでは。3～4 時間の空き時間では難しいと感じる。

4. 広告等について

- ①ゆいれーるの駅や車内で、有料で広告を出すことは可能。
- ②那覇空港駅から空港までの通路で、横断幕広告（20 万/月）のスペースがあり、公共性が高い組織等を優先しているので、空港からの乗継を考慮するのであれば、お勧めしたい。

「糸満市那覇空港直行バス路線事業者ヒアリング報告」

- 日 時：平成25年10月9日（水）
 - 視察先：琉球バス
 - 対応者：（琉球バス）真栄城 朝雄 部長、小橋川 共隆 課長代理
 - 視察者：（政策推進課）喜納 正光、（株オオバ）武 米治郎、吉岡 誠
-

1. ヒアリングの趣旨（選定理由）

- ①路線バス事業者として、実証実験に向けた留意点等を確認

2. 実施状況について

（1）実証実験における中継ポイントについて

- ①実証実験において、道の駅いとまんを中継ポイントとして位置付け、折り返す場合と中継ポイントは設けずそのまま終点まで運行する場合、のメリット・デメリットは以下が考えられる。

【メリット】

- ・滞在時間が増加することで店舗売上の増加が見込まれる。
- ・道の駅の目的としたバス利用者の増加が見込まれる。
- ・路線を分けることで定時性を確保し易くなる。

【デメリット】

- ・乗り継ぎすることで料金が割高になってしまう。
（乗継券の発行も可能だが、利用者が大勢の場合は負担が大きくなる）
- ・乗り継ぎを考慮したダイヤとなるため、時間がかかってしまう。

（2）バス停の場所等の決め方について

- ①バス停の具体の位置決定は、道路管理者との協議が必要となる。
- ②申請手続き等は、運行するバス事業者からの申請になると考えられる。
- ③実証実験のバスと既存の路線バスのダイヤが、重ならないよう調整が必要。
- ④路線が重複する82番は、不採算路線のため、八重瀬町との協議が必要。
- ⑤ゆいれーる赤嶺駅との乗り継ぎも考えられるが、糸満方面から赤嶺交差点が渋滞するため、那覇空港駅に直接向かって時間もそれほど変わらないと考えられる。

（3）料金設定について

- ①料金設定は、既存路線バスとの整合を図る必要があるため、距離制が基本になると考えられる。
- ②フリー乗車券として、土日祝1日限定乗車券（琉球バス・那覇バス）琉球バス交通と那覇バスの路線バスが1日乗り放題（大人2000円・小人1000円）があるため、実証実験においても利用可能と考えられる。

- ③実証実験路線に限定したフリー乗車券は、他の路線と競合しないのであれば実現の可能性はある。

（４）実証実験の実施にあたって PR 方法（期間、媒体など）について

- ①那覇空港の観光案内所との連携
- ②フリー乗車券を利用したスタンプラリー等、観光客が楽しめる仕組み
- ③西崎地区の住民が路線バスを利用してくれるようする必要がある

（５）那覇バス 95 番（那覇空港～沖縄アウトレットモールあしびなー）の利用状況や路線の定時制等について

- ①渋滞（夏場のレンタカー増加等）により、ダイヤが遅れるケースもあった。
- ②不採算路線となっている。
- ③有料化により利用者が大きく減少すると考えられたが、想定したほど利用者は減っていない。

以 上

「糸満市那覇空港直行バス路線事業者ヒアリング報告」

- 日 時：平成26年3月1日（土）
 - 視察先：ときわ交通合資会社
 - 対応者：（ときわ交通合資会社）金城 哲 運行責任者
 - 視察者：（株）オオバ 武 米治郎
-

1. ヒアリングの趣旨（選定理由）

- ①タクシー事業者として、基幹路線としての機能を持った糸満市那覇空港直行バス路線と細街路まで客を運ぶタクシーとの共存共栄方策に対する意見等を伺う。

2. 糸満市内界隈のタクシーの状況について

- ①糸満市内界隈にタクシーは、3社（ときわ交通、共和交通、ラッキー交通）で約60台が常時流している。路線バスの空白地域は、タクシーでカバーしている。
- ②タクシー利用者の乗車距離は、大半が3km未満。（約700円程度まで）
- ③「道の駅いとまん」にラッキー交通が内線電話を設置している。

3. 直行バスとの相乗効果について

（1）ポイントとなるバス停にタクシーベイを設置する事について

- ①西崎運動公園前あたりから南部病院前あたりであれば、5～10分程度で配車できるので、わざわざ待機していなくても良い。タクシーベイは不要。
- ②設備に費用も掛かり、効果的ではない。「道の駅いとまん」の内線電話も、頻度があるとは思えない。

（2）乗継客を増やす方策について

- ①直行バスからタクシー、タクシーから直行バスに乘換える専用の、より割引された回数券を発行する。
- ②毎朝6時30分頃、那覇方面に向かう車両で混んでいるので、直行バスに通勤・通学客を乗せる工夫があると良い。

（3）その他気付いたこと

- ①那覇空港だけでなく、那覇市内への利用者の事を考えれば、赤嶺駅との接続は必要。

以 上

「糸満市那覇空港直行バス路線事業者ヒアリング報告」

- 日 時：平成25年11月6日（水）13時00分～14時20分
 - 視察先：株式会社JAL JTAセールス
 - 対応者：旅行事業部 商品企画第2グループ 玉城 豊 グループ長
伊集朝也アシスタントマネージャー
 - 視察者：（政策推進課）喜納正光、（株オオバ）武 米治郎、吉岡 誠
-

1. ヒアリングの趣旨（選定理由）

- ①着地型商品に“路線バスの商品化”を加えることの可能性と、バス路線の乗降客を増やすための方策について、ツーリストとしての意見等について伺う。

2. 路線バスの商品化について

（1）現在のJTAの取組み

- ①“ゆいゆい号”に久米島で実績のある“トレジャーハンター号”の要素を取り入れる商品を開発中。専用用紙に、3か所のポイントで見つけた文字を書き込んで提出することで、記念品と交換できる仕組み。
- ②“ゆいゆいハンター号”として成立すれば、全国に向けてセールスを予定。
- ③宮古島で、ワークショップ方式にてテーマ性を持った企画を展開させた事例がある。

（2）乗降客を増やす方策（アピールポイント）

- ①“あしびな”は、観光客にとって注目のポイントなので、路線に組入れることを検討すべき。
- ②“糸満まちあるき”とセットにして売り出すことで、効果が期待できる。他にも、沿線の施設で利用できるクーポン券を発行することも検討すべき。
- ③路線バスを走らせるだけでは客は乗らないので、南部に注目を集めるような企画が必要。終着駅の糸満観光農園まで足を運ぶことで、何かの企画に参加する方法も良いし、バスに乗るところから企画が始まっているというものでも良い。複合した楽しみ、または期待感で人を惹きつけることが必要。
- ④8月から始めるならば、3月中旬からPRをしなければ、時間が足りない。宣伝方法にも工夫が必要。観光客の滞在中に目に留まるような方法が重要。

以 上

「糸満市那覇空港直行バス路線事業者ヒアリング報告」

- 日 時：平成25年11月6日（水）14時50分～15時50分
 - 視察先：株式会社JTB
 - 対応者：沖縄国内商品事業部 仕入販売第一課 照屋昭子 担当課長
田場隆浩グループリーダー
 - 視察者：（政策推進課）喜納正光
-

1. ヒアリングの趣旨（選定理由）

- ①着地型商品に“路線バスの商品化”を加えることの可能性と、バス路線の乗降客を増やすための方策について、ツーリストとしての意見等について伺う。

2. 路線バスの商品化について

（1）現在のJTBの取組み

- ①個人向け商品に“ゆいゆい号”を取込んでいる。
- ②只今、来年4月以降の商品について作成中。その後に、第2・第3ブランドの商品の作成に着手。
- ③夏のターゲットは、家族連れとなる。

（2）乗降客を増やす方策（アピールポイント）

- ①那覇市内とつなぐよう客の動線に配慮すべき。那覇空港発着だけでなく、久茂地から“うみそらトンネル”を通して那覇空港を経緯させるルートによって、那覇市内の宿泊者にも利用しやすくなる。
- ②リゾートに向かって40分毎に運行しているリムジンバスに対抗して、観光スポットを結ぶ路線バスであることを強調。
- ③観光客のレンタカー利用率84%から少しでも、路線バスに移行させるためには、かなりインパクトがある方法が必要。単に「70分で観光農園まで行きます。」では、観光客はバスに乗らない。
- ④外国人にとって、時間的にも安心感が持てるような観光コースの設定するプランが必要。
- ⑤今、来ている客をリピータにする方法と新規顧客の開拓のためには、糸満市がプロデュースする親子連れを狙った仕掛けが有効。観光客の集客率は、企画の良し悪しで左右される。
- ⑥Webでの紹介は効果があるので、旅行商品の中に入れるとか、関連情報とするなどの工夫をすると良い。

※ 地域密着型の商品開発であれば、地域交流事業部での対応となる。

以 上

「糸満市那覇空港直行バス路線事業者ヒアリング報告」

- 日 時：平成25年11月7日（木）14時00分～14時50分
 - 視察先：沖縄ツーリスト株式会社（O T S）
 - 対応者：観光部 寿盛哲也 次長
 - 視察者：（政策推進課）喜納正光、（株オオバ）武 米治郎
-

1. ヒアリングの趣旨（選定理由）

- ①着地型商品に"路線バスの商品化"を加えることの可能性と、バス路線の乗降客を増やすための方策について、ツーリストとしての意見等について伺う。
- ②実証実験業務に加わることの可能性について、意見を伺う。

2. 路線バスの商品化について

（1）PRのポイント

- ①体験させることにより、入場料等によって、地元に金が落ちるしくみを考案すべき。
- ②那覇市内に宿泊している観光客も含めて、ターゲットにする。
- ③車内インフォメーションは、多言語（英語・中国語・韓国語）が不可欠。
海外からの観光客は確実に伸びているので、外国人にも理解しやすい工夫が必要。
- ④インターネットを利用して、飛行機、ホテル、レンタカーなどを直接手配している傾向が高いので、Web サイトも充実を図るべき。
- ⑤路線バスの魅力について、最大限アピールする。

（2）乗降客を増やす方策

- ①路線バスに付加価値をプラスする。入場券の割引等、利用することで、乗客にお得感を与える。
- ②国内外からのフリーな観光客をターゲットにするために、ホテルや空港での案内所を活用する。
- ③個人が買う金額よりも、旅行社に売る金額を下げることで、メリットを作り出すことが出来る。
- ④早い段階から公表して、宣伝期間を長く取る。
- ⑤実験車両は、目立つようにカラーリングに配慮すべき。

3. 実証実験に参画する可能性について

運行の許可申請とか報告書の作成については、専門外なので出来ないが、交通に関するコンサルタント会社と共同で参画するならば可能。過去に共同した実績もある。

以 上

8-4. 現在の路線バス運賃について

現状のバス運賃

現状の路線バスの運賃は、糸満バスターミナルから平和祈念堂入口までが 460 円であり、糸満バスターミナルから那覇バスターミナルは 560 円となっている。そのため、平和祈念堂から糸満バスターミナルを経由して那覇バスターミナルまでは 1,020 円を要する。

また、平和祈念公園から那覇空港までのタクシー料金は約 3,500 円であり、仮に 3 人での乗車であると 1 人当り 1,170 円となり、バス利用とほとんど変化がない。

なお、観光客アンケート調査結果では、3 人以上の構成は全体で 37% となっているため、路線バス料金を低減させることにより、観光客の利用増を促進させることが望ましいと考える。

表 既存路線バスの運賃

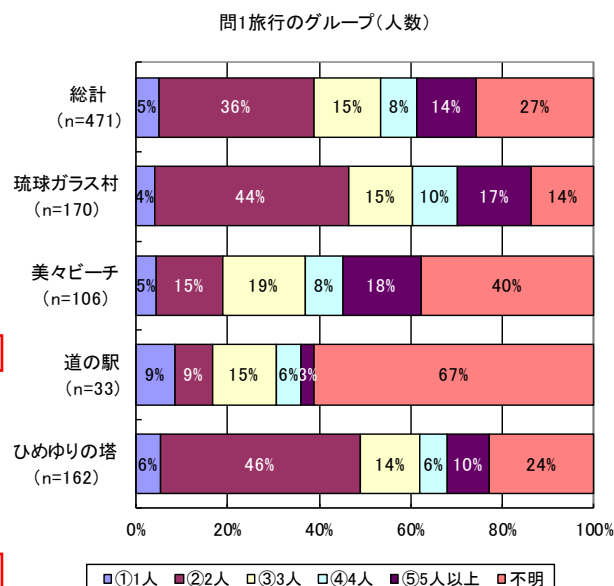
□系統82		□系統35、235	
運賃	停留所	運賃	停留所
¥ 糸満バスターミナル		¥ 糸満バスターミナル	
160	糸満市役所入口	160	糸満市役所前
160	糸満市場入口	160	高嶺入口
160	糸満ロータリー	290	志多伯入口
160	糸満市場前	340	東風平
160	潮崎二丁目	440	外間
160	糸満市役所前	500	津嘉山
160	潮崎入口	540	国場
160	双子橋	560	沖縄大学前
160	糸満郵便局前	560	開南
160	真栄里入口	560	那覇バスターミナル
170	南部病院前		
200	名城		
200	小波蔵		
250	糸洲		
250	波平入口		
310	山城入口		
310	伊原入口		
310	伊原		
310	ひめゆりの塔前		
350	米須入口		
350	米須農協前		
350	米須		
350	大度		
420	晴明病院前		
420	摩文仁ファミリーランド前		
420	みなみの里前		
420	健児の塔入口		
460	平和祈念堂入口		

460 円+560 円
=1,020 円

タクシー運賃

那覇空港～平和祈念資料館 3,440 円
<http://www.taxisite.com/>

表 観光客の人数構成



8－5．申請書類等

平成 年 月 日
発 第 号

内閣府 沖縄総合事務局
局 長 様

住 所
会社名
代表者名

一般乗合旅客自動車運送事業の事業計画変更（路線の新設）認可申請書

このたび一般乗合旅客自動車運送事業の事業計画を下記の通り変更したいので
関係書類を添えてお届け致します。

記

1．氏名又は名称及び住所

住 所
会社名
代表者名

2．事業の種類

一般乗合旅客自動車運送事業

2. 事業の種別

一般乗合旅客自動車運送事業

3. 変更しようとする路線

①延長路線

- | | |
|---------|--|
| (1) 起 点 | 沖縄県豊見城市豊崎 3-47 先 |
| 終 点 | 沖縄県糸満市西崎町 3-7-7 先 |
| 延長キロ | 1.5km |
| 道路種別 | 国道 331 号 |
| 主な経由地 | 沖縄県警察運転免許センター |
| | |
| (2) 起 点 | 沖縄県糸満市西崎町 3-7-7 先 |
| 終 点 | 沖縄県糸満市西崎町 3-7-12 先 |
| 延長キロ | 0.3km |
| 道路種別 | 市道 D2 号線 |
| 主な経由地 | 県営西崎第 2 団地 |
| | |
| (3) 起 点 | 沖縄県糸満市西崎町 1-29-15 先 |
| 終 点 | 沖縄県糸満市西崎町 1-10-1 先 |
| 延長キロ | 2.6km |
| 道路種別 | 市道 D2 号線、市道西崎 24 号線、市道西崎 22 号線、市道西崎 4 号線 |
| 主な経由地 | サザンビーチホテル&リゾート沖縄 |
| | |
| (4) 起 点 | 沖縄県糸満市西崎町 1-12-5 先 |
| 終 点 | 沖縄県糸満市字真栄里 1862 先 |
| 延長キロ | 2.5km |
| 道路種別 | 国道 331 号 |
| 主な経由地 | 糸満市役所 |
| | |
| (5) 起 点 | 沖縄県糸満市字真栄里 870 先 |
| 終 点 | 沖縄県糸満市福地 159-1 先 |
| 延長キロ | 2.1km |
| 道路種別 | 国道 331 号 |
| 主な経由地 | 特に記載する地名なし |
| | |
| (6) 起 点 | 沖縄県糸満市摩文仁 1088 先 |
| 終 点 | 沖縄県糸満市摩文仁 1018 先 |
| 延長キロ | 0.6km |

道 路 種 別	糸満観光農園敷地内
主な経由地	特に記載する地名なし

②停留所の新設

- | | |
|-----------|--------------------|
| (1) 停留所名称 | 赤嶺駅前 |
| 設 置 位 置 | 沖縄県那覇市赤嶺 143 先 |
| (2) 停留所名称 | 道の駅いとまん前 |
| 設 置 位 置 | 沖縄県糸満市西崎町 4-19-1 |
| (3) 停留所名称 | サザンビーチホテル前 |
| 設 置 位 置 | 沖縄県糸満市西崎町 1-6-1 |
| (4) 停留所名称 | 琉球ガラス村前 |
| 設 置 位 置 | 沖縄県糸満市字福地 169 番地 |
| (5) 停留所名称 | 糸満観光農園前 |
| 設 置 位 置 | 沖縄県糸満市字摩文仁 1018 番地 |

4. 事業計画

(1) 主たる事業所及び営業所の名称並びに位置

種 別	名 称	位 置
主たる事務所		
営 業 所		

(2) 事業用自動車の総数、種別、乗車定員、常用・予備の別、所属営業所

イ. 車両数

常 用 4 台

予 備 1 台

(3) 系統別配置車両の最大寸法及び最大総重量

別 表

(4) 車両の位置及び収容能力

(現有の一般乗合事業用車庫を使用するので新設しない)

(5) 運 行

イ. 運行系統、料程、運行所要時間、始発終発時刻、運行回数、事業用自動車の種別ごとの数、所属営業所

運行系 統 名	料程	所要 時間	始発終発時刻		運行回数		自動車		所 属 営業所
					平日	休日	種別	車両数	
糸満市 ～那覇 空港直 行バス	25.2	70 分	那覇空 港国内 線ター ミナル	8 : 30	12	12	小型	常備 4	
				19 : 30				予備 1	

ロ. 停留所の名称及び位置並びに停留所間の料程

停留所の名称	料 程		摘 要	備 考
	区間キロ	累計キロ		
那覇空港国内線 ターミナル	0.0	—		既 設
那覇空港国際線 ターミナル	0.3	0.3		既 設
赤 嶺 駅 前	2.6	2.9		新 設
西崎運動公園前	6.2	9.1		既 設
道の駅いとまん	1.4	10.5	施設内	新 設
サザンビーチホテル	1.5	12.0	施設内	新 設
道の駅いとまん	2.0	14.0	施設内	新 設
糸満漁港入口	1.1	15.1		既 設
糸満市役所前	0.3	15.4		既 設
真栄里入口	0.8	16.2		既 設
南部病院前	0.5	16.7		既 設
琉球ガラス村	2.3	19.0	施設内	新 設
ひめゆりの塔	1.7	20.7		既 設
米 須	0.8	21.5		既 設
平和祈念堂入口	2.6	24.1		既 設
糸満観光農園	1.1	25.2	施設内	新 設
	25.2	—		

ハ. 運行経路図

別紙１のとおり

ニ. 運行時刻

別紙２のとおり

ホ. キロ程表

別紙３のとおり

ヘ. 車両配置表

別紙４のとおり

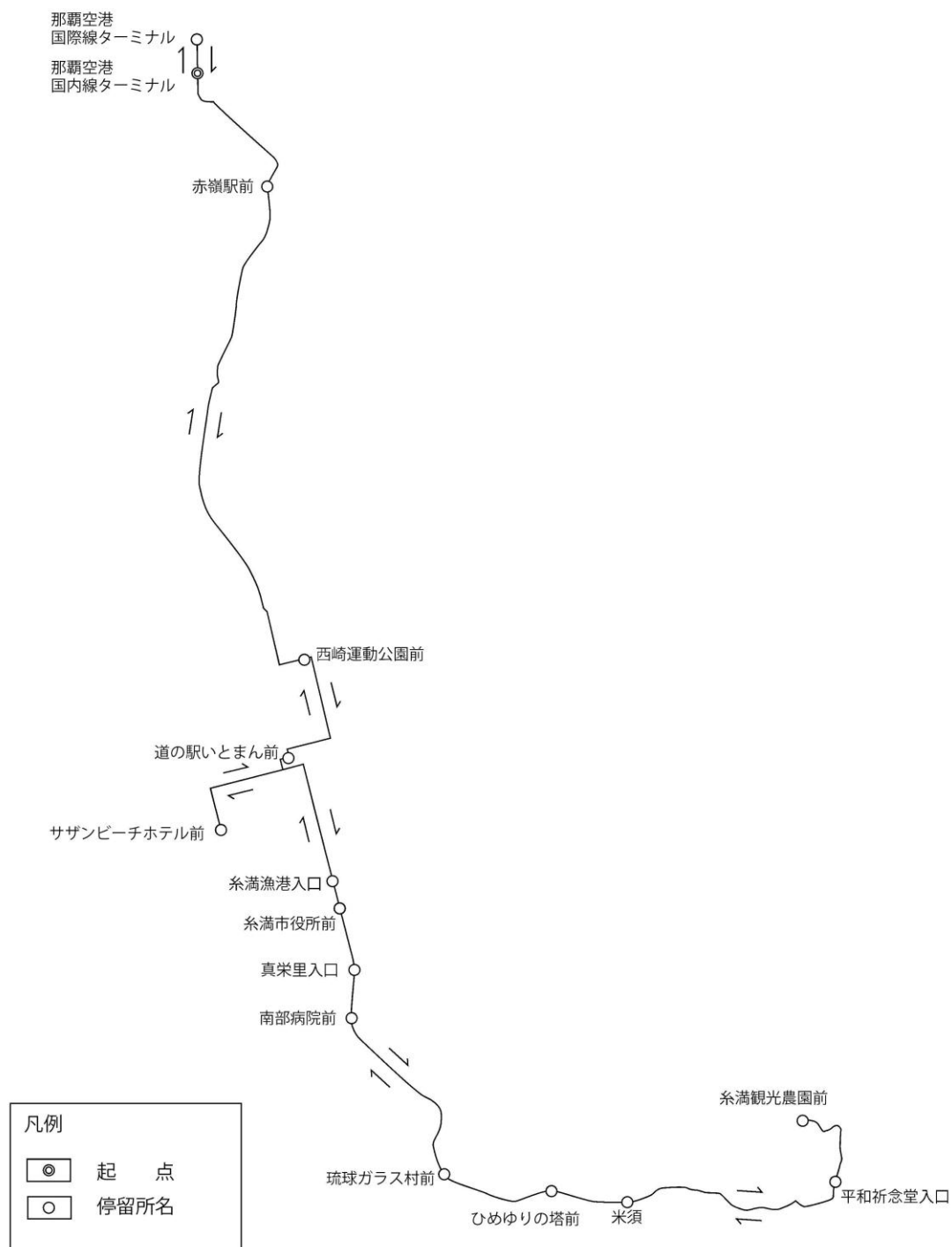
1. 運行系統名

糸満市～那覇空港直行バス

2. 時間帯ごとの運行回数並びに始発及び終発時刻

時間・曜日等	指定時間帯/運行回数				始発時刻	終発時刻
	5 時台～	9 時台～	17 時台～	21 時台～		
	8 時台	16 時台	20 時台	4 時台		
平日の時間帯	1	8	3	0	8 : 30	19 : 30
土曜日の時間帯	1	8	3	0	8 : 30	19 : 30
日曜日の時間帯	1	8	3	0	8 : 30	19 : 30

糸満市～那覇空港直行バス 運行系統図



糸満市～那覇空港直行バス 運行時刻表（下り）

【下り】	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
国内線	8:30	9:30	10:30	11:30	12:30	13:30	14:30	15:30	16:30	17:30	18:30	19:30
国際線	8:31	9:31	10:31	11:31	12:31	13:31	14:31	15:31	16:31	17:31	18:31	19:31
赤嶺駅前	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
西崎運動公園前	9:04	10:04	11:04	11:54	12:54	13:54	14:54	16:04	17:04	18:04	19:04	20:04
道の駅いとまん	9:09	10:09	11:09	11:59	12:59	13:59	14:59	16:09	17:09	18:09	19:09	20:09
サザンビーチホテル	9:11	10:11	11:11	12:01	13:01	14:01	15:01	16:11	17:11	18:11	19:11	20:11
道の駅いとまん	9:14	10:14	11:14	12:04	13:04	14:04	15:04	16:14	17:14	18:14	19:14	20:14
糸満漁港入口	9:17	10:17	11:17	12:07	13:07	14:07	15:07	16:17	17:17	18:17	19:17	20:17
糸満市役所前	9:19	10:19	11:19	12:09	13:09	14:09	15:09	16:19	17:19	18:19	19:19	20:19
真栄里入口	9:29	10:29	11:29	12:19	13:19	14:19	15:19	16:29	17:29	18:29	19:29	20:29
南部病院前	9:30	10:30	11:30	12:20	13:20	14:20	15:20	16:30	17:30	18:30	19:30	20:30
琉球ガラス村	9:35	10:35	11:35	12:25	13:25	14:25	15:25	16:35	17:35	18:35	19:35	20:35
ひめゆりの塔	9:39	10:39	11:39	12:29	13:29	14:29	15:29	16:39	17:39	18:39	19:39	20:39
米須	9:41	10:41	11:41	12:31	13:31	14:31	15:31	16:41	17:41	18:41	19:41	20:41
平和祈念堂入口	9:46	10:46	11:46	12:36	13:36	14:36	15:36	16:46	17:46	18:46	19:46	20:46
糸満観光農園	9:50	10:50	11:50	12:40	13:40	14:40	15:40	16:50	17:50	—	—	—

糸満市～那覇空港直行バス 運行時刻表（上り）

【上り】

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
糸満観光農園	—	—	—	9:40	10:40	11:40	12:40	13:40	14:40	15:40	16:40	17:40
平和祈念堂入口	6:44	7:44	8:44	9:44	10:44	11:44	12:44	13:44	14:44	15:44	16:44	17:44
米須	6:49	7:49	8:49	9:49	10:49	11:49	12:49	13:49	14:49	15:49	16:49	17:49
ひめゆりの塔	6:51	7:51	8:51	9:51	10:51	11:51	12:51	13:51	14:51	15:51	16:51	17:51
琉球ガラス村	6:55	7:55	8:55	9:55	10:55	11:55	12:55	13:55	14:55	15:55	16:55	17:55
南部病院前	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
真栄里入口	7:01	8:01	9:01	10:01	11:01	12:01	13:01	14:01	15:01	16:01	17:01	18:01
糸満市役所前	7:11	8:11	9:11	10:11	11:11	12:11	13:11	14:11	15:11	16:11	17:11	18:11
糸満漁港入口	7:13	8:13	9:13	10:13	11:13	12:13	13:13	14:13	15:13	16:13	17:13	18:13
道の駅いとまん	7:16	8:16	9:16	10:16	11:16	12:16	13:16	14:16	15:16	16:16	17:16	18:16
サザンビーチホテル	7:19	8:19	9:19	10:19	11:19	12:19	13:19	14:19	15:19	16:19	17:19	18:19
道の駅いとまん	7:21	8:21	9:21	10:21	11:21	12:21	13:21	14:21	15:21	16:21	17:21	18:21
西崎運動公園前	7:26	8:26	9:26	10:26	11:26	12:26	13:26	14:26	15:26	16:26	17:26	18:26
赤嶺駅前	7:56	8:56	9:56	10:46	11:46	12:46	13:46	14:56	15:56	16:56	17:56	18:56
国内線	7:59	8:59	9:59	10:49	11:49	12:49	13:49	14:59	15:59	16:59	17:59	18:59
国際線	8:00	9:00	10:00	10:50	11:50	12:50	13:50	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00

糸満市～那覇空港直行バス 料程表

停留所の名称	料 程		
	区間キロ	累計キロ	備 考
国 内 線	0.0	—	
国 際 線	0.3	0.3	
赤 嶺 駅 前	2.6	2.9	
西崎運動公園前	6.2	9.1	
道の駅いとまん	1.4	10.5	
サザンビーチホテル	1.5	12.0	
道の駅いとまん	2.0	14.0	
糸満漁港入口	1.1	15.1	
糸満市役所前	0.3	15.4	
真栄里入口	0.8	16.2	
南部病院前	0.5	16.7	
琉球ガラス村	2.3	19.0	
ひめゆりの塔	1.7	20.7	
米 須	0.8	21.5	
平和祈念堂入口	2.6	24.1	
糸満観光農園	1.1	25.2	
	25.2	—	

糸満市～那覇空港直行バス

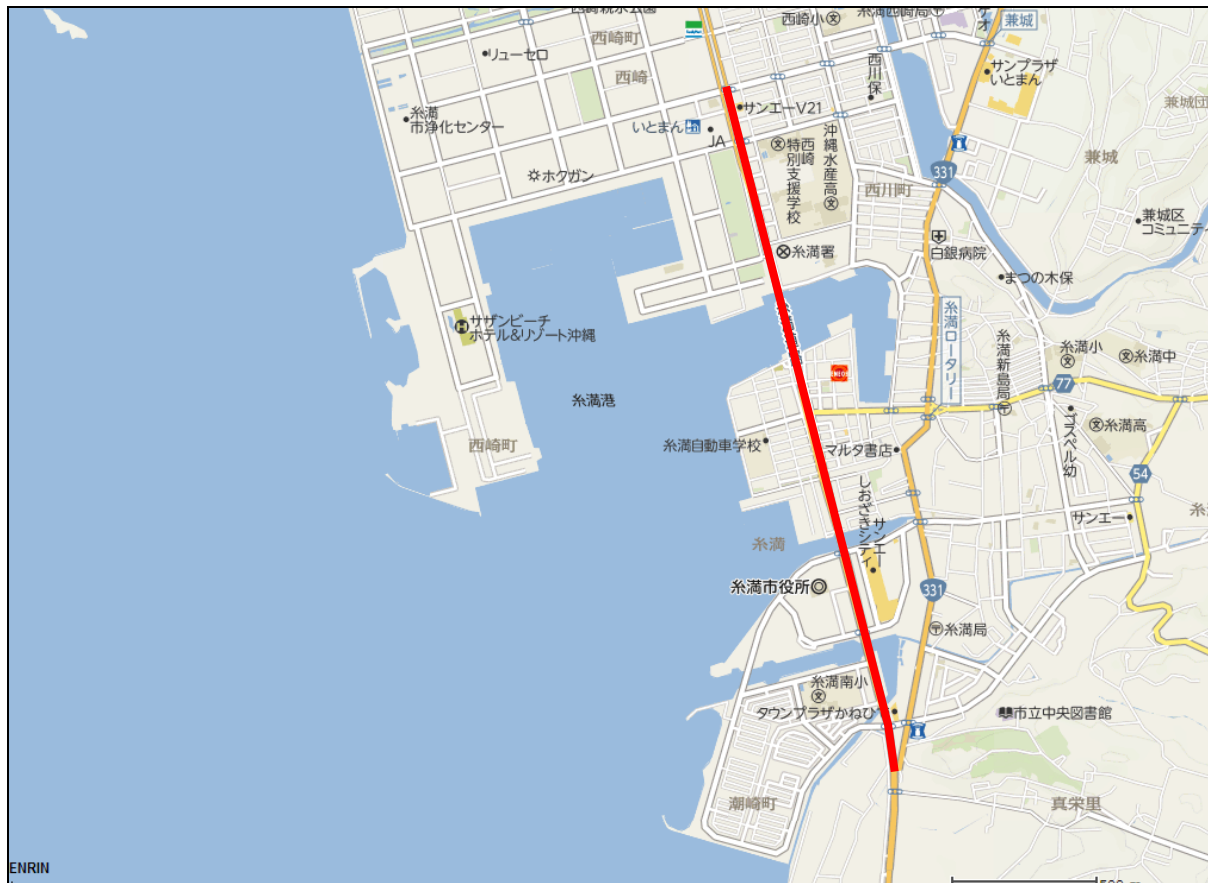




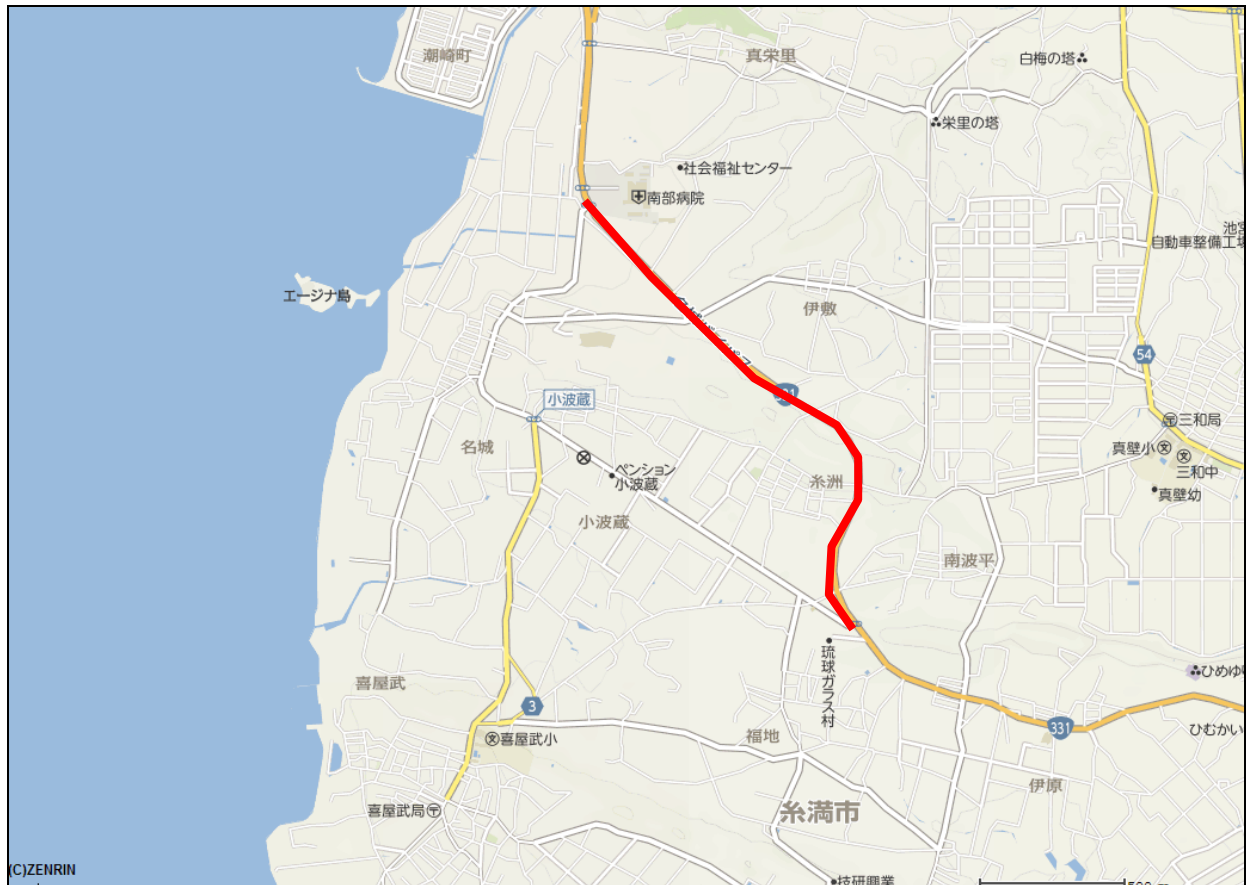
起 点	沖縄県豊見城市豊崎 3-47 先
終 点	沖縄県糸満市西崎町 3-7-7 先
延 長 キ ロ	1.5km
道 路 種 別	国道 331 号
主 な 経 由 地	—



起 点	沖縄県糸満市西崎町 3-7-7 先
終 点	沖縄県糸満市西崎町 3-7-12 先
延 長 キ ロ	0.3km
道 路 種 別	市道D2号線
主 な 経 由 地	西崎運動公園



起	点	沖縄県糸満市西崎町 1-12-5 先
終	点	沖縄県糸満市字真栄里 1862 先
延	長	キ ロ 2.5km
道	路	種 別 国道 331 号
主	な	経 由 地 糸満市役所



起	点	沖縄県糸満市字真栄里 870 先
終	点	沖縄県糸満市福地 159-1 先
延	長	2.1km
道	路	国道 331 号
主	な	経
由	地	—



起	点	沖縄県糸満市摩文仁 1088 先
終	点	沖縄県糸満市摩文仁 1018 先
延	長	キ ロ
道	路	種 別
主	な	経 由 地
		—

8-6. リーフレット (案)

沖繩の原風景
最南端エリアへ
バス散歩

糸満市～那覇空港
直行バス

イトマン ライン (仮)

2014年8月
試験運行開始

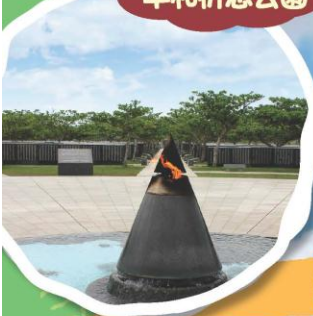
美々ビーチいとまん



糸満市公設市場



平和祈念公園



白銀堂



イトマンライン 仮



飛行機おりたらすぐ糸満!

糸満市⇄那覇空港

直行バス実証実験(試験運行)のご案内

運行期間 平成26年8月～12月、毎日運行

運行時間帯 午前8時～午後8時(那覇空港)

運行間隔 約60分間隔(那覇空港～糸満観光農園)

料金 那覇空港～糸満観光農園: 790円
 那覇空港～道の駅いとまん: 490円
 一日フリー乗車券: 1,500円

バスルートマップ



●お問い合わせは 糸満市 企画開発部 政策推進課 TEL(098)840-8122/FAX(098)840-8157 ※運行案内は随時情報により変更する場合があります。

糸満市

美々ビーチいとまん

平和祈念公園

糸満市公設市場

白銀堂

サバニ

沖繩の原風景
最南端エリアへ
バス散歩

イトマンライン(仮)

2014年8月
試験運行開始

飛行機おりたらすぐ糸満!

糸満市↔那覇空港
直行バス実証実験(試験運行)のご案内

運行期間 平成26年8月～12月、毎日運行

運行時間帯 午前8時～午後8時(那覇空港)

運行間隔 約60分間隔(那覇空港～糸満観光農園)

料金 那覇空港～糸満観光農園:790円
那覇空港～道の駅いとまん:490円
一日フリー乗車券:1,500円

糸満市

	運 行 期 間	平成26年8月～12月、毎日運行
	運行時間帯	午前8時～午後8時(那覇空港)
	運 行 間 隔	約60分間隔(那覇空港～糸満観光農園)
	料 金	那覇空港～糸満観光農園: 790円 ／那覇空港～道の駅いとまん: 490円 一日フリー乗車券: 1,500円

※運行案内は諸事情により
変更する場合があります。

8－7．糸満市那覇空港直行バス路線実証実験検討委員会及び幹事会

（１）糸満市那覇空港直行バス路線実証実験検討委員会 設置要領

＜平成２５年７月２５日 企画開発部長決裁＞

（趣旨）

第１条 「新しい公共交通検討事業」調査報告書で示された那覇空港直行路線について、総合的な見地から検討を行い必要な助言等を行うために糸満市那覇空港直行バス路線実証実験検討委員会（以下「委員会」）を設置する。

（所掌事項）

第２条 委員会の所掌事項は次に掲げるとおりとする。

- （１） 実証実験路線の具体的なルートに関する事。
- （２） 実証実験路線の運行間隔、運行時間帯設定に関する事。
- （３） 実証実験の運行計画に関する事。
- （４） その他路線の実証実験に関する事。

（委員の組織）

第３条 委員会は１８名以内で組織する。

２ 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱又は任命する。

- （１） 学識経験者
- （２） 有識者
- （３） 各種団体の代表者
- （４） 専門家
- （５） 行政職職員
- （６） その他市長が必要と認める者

（委員長）

第４条 委員会は、委員長を置き、委員長は委員互選によりこれを定める。

２ 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

３ 委員長に事故があるときは、あらかじめその指名する委員がその職務を代理する。

（任期）

第５条 委員の任期は、平成２６年３月末日までとする。

２ 委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、残任期間とする。

（会議）

第６条 委員会は、必要に応じて委員長が招集し、委員長が議長となる。

(関係者の出席)

第7条 委員長が必要と認めるときは、関係者の出席を求め、その説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、企画開発部政策推進課が処理する。

(補則)

第9条 この要領に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は委員長が別に定める。

附 則

1 この要領は、平成25年7月25日から施行する。

2 この要領は、平成26年3月31日限り効力を失う。

糸満市那覇空港直行バス路線実証実験検討委員会

分野名	氏 名	所属・役職
委員 (16名)	大城 郁寛	琉球大学 法文学部 教授
	屋嘉比 康人	真栄里自治 会長
	大城 栄子	女性団体連絡協議会 更生保護女性会
	若林 伸一	南部広域観光協会 副会長
	慶田 佳春	沖縄バス協会 専務理事
	小野 協子	総合事務局 運輸部 企画室長
	古堅 宗安	総合事務局 運輸部 陸上交通課長
	根保 裕次	組合関係 琉球バス組合 書記長
	真栄城 朝雄	琉球バス 業務部長
	照屋 悟	南部国道事務所 副所長
	又吉 長賢	糸満警察署 交通課長
	多嘉良 斉	沖縄県 企画部 交通政策課長
	下地 貴子	沖縄コンベンションビューロー 国内事業部長
	長嶺 薫	糸満市 建設部長
	大城 治	糸満市 市民健康部長
	金城 靖	糸満市 経済観光部長
事務局	兼島 景孝	糸満市 企画開発部長
	神谷 和男	糸満市企画開発部 政策推進課 課長
	賀数 康広	政策推進課 主幹兼係長
	喜納 正光	政策推進課 副主査
受託業者		
	佐藤 修	(株)オオバ 沖縄支店長
	武 米治郎	(株)オオバ 沖縄支店 まちづくり部長
	木村 一	(株)オオバ 沖縄支店 まちづくり部 課長
	翁長 秀樹	(株)オオバ 沖縄支店 営業課 主任
	吉岡 誠	(株)オオバ 九州支店 まちづくり部 主任

（２）糸満市那覇空港直行バス路線実証実験検討幹事会 設置要領

（設 置）

第 1 条 新しい公共交通検討事業（以下「検討事業」という。）を実施するにあたり、検討業務の受託機関である株式会社オオバにおいて、「糸満市那覇空港直行バス路線実証実験検討幹事会」（以下「幹事会」という。）を設置する。

（目 的）

第 2 条 幹事会は検討事業に資するため、バス利用者の利便性や社会活動に考慮した新しい公共交通の導入のあり方、事業手法や収支計画などの事項に関し、総合的な見地から協議することを目的とする。

（組 織）

第 3 条 幹事会は、別表に掲げる者をもって組織する。

2 幹事会に座長を置き、座長に糸満市企画開発部部長、副座長に学識経験者を充てる。

（幹事会）

第 4 条 幹事会は、必要に応じて株式会社オオバが招集する。

2 座長は幹事会を総理し、副座長は座長が欠けたときはその職務を代行する。

3 座長は必要があると認めたときは、幹事会以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

（任 期）

第 5 条 幹事の任期は平成 26 年 3 月 31 日までとする。

（事務局）

第 6 条 幹事会の事務局は、株式会社オオバ沖縄支店に置く。

（雑 則）

第 7 条 この要領に定めるもののほか、幹事会の運営に必要な事項は、座長が事務局と協議のうえ定める。

附 則

この要領は、平成 25 年 8 月 22 日から施行する。

糸満市那覇空港直行バス路線実証実験幹事会 名簿

分野名	氏 名	所属・役職
幹事 (6 名)	大城 郁寛	琉球大学 法文学部 教授
	大城 貢	琉球ガラス村 理事
	小橋川 共隆	(株)琉球バス交通 経理課 課長代理
	兼島 景孝	糸満市 企画開発部 部長
	仲吉 正弘	糸満市 市民健康部 市民生活環境課 課長
	上原 司	糸満市 経済観光部 商工観光課 課長

(3) 会議一覧

検討委員会及び検討幹事会は、次のとおり開催された。

委員会・幹事会	開催日・時間	場 所	内 容
第 1 回 検討幹事会	平成 25 年 8 月 22 日 (木) 10 : 00～12:00	糸満市役所 3 階 3b 会議室	①検討の進め方 ②アンケート調査実施計画
第 1 回 検討委員会	平成 25 年 8 月 27 日 (火) 10 : 00～12 : 00	糸満市役所 3 階 3C 会議室	①検討の進め方 ②アンケート調査実施計画
第 2 回 検討幹事会	平成 25 年 10 月 18 日 (金) 10 : 00～12 : 00	糸満市役所 3 階 3b 会議室	①観光客アンケート調査結果 ②運行計画(素案) ③地域住民アンケート調査票
第 2 回 検討委員会	平成 25 年 10 月 25 日 (金) 10 : 00～12 : 00	糸満市役所 3 階 3C 会議室	①観光客アンケート調査結果 ②運行計画(素案) ③地域住民アンケート調査票
第 3 回 検討幹事会	平成 25 年 11 月 22 日 (金) 10 : 00～12 : 00	糸満市役所 4 階 土地開発公社会議室	①運行計画(案) ②利用促進策
第 3 回 検討委員会	平成 25 年 12 月 25 日 (水) 10 : 00～12 : 00	糸満市役所 3 階 3C 会議室	①運行計画(案) ②利用促進策
第 4 回 検討幹事会	平成 26 年 1 月 24 日 (金) 10 : 00～12 : 00	糸満市役所 3b 会議室	①事業収支 ②成果指標・見直し基準(案) ③実証実験に向けて
第 4 回 検討委員会	平成 26 年 2 月 7 日 (金) 10 : 00～12 : 00	糸満市役所 3 階 3C 会議室	①成果指標・見直し基準(案) ②実証実験に向けて ③リーフレット(案)

新 し い 公 共 交 通 検 討 事 業 調 査 報 告 書

（那覇空港直行バス路線実証実験計画策定）

発 行 平成 26 年 3 月

発 行 者 沖縄県糸満市

糸満市企画開発部政策推進課

〒901-0392 沖縄県糸満市潮崎町 1 丁目 1 番地

電話（098）840-8122 FAX（098）840-8157
